

アニコム

# 家庭どうぶつ白書 2024

## WHITE PAPER ON HOUSEHOLD ANIMALS 2024

Is it possible for us to bring happiness to the animal world through the immense data that Anicom compiles each year? We desire to understand what our animal friends are thinking and feeling; we desire a deeper connection with them. We desire to know how better to help them live longer and healthier lives. And we hope that they can understand that desire as well, even if only in the slightest. That's the motivating desire behind Anicom's White Paper on Household Animals.





Thank you for all the smiles!

アニコムを支えてくれる「みんなの笑顔」。

その笑顔がいつまでも輝き続けるように

「家庭どうぶつ白書」には、そんな想いがこめられています。

「家庭どうぶつ」を英訳するにあたって

"How many people are in your family?"

"I have 5 people and a dog in my household."

「ペット(pet)」という言葉には、支配者としての飼い主と被支配者としての動物という基本構造を伺わせるニュアンスがある。一方で、動物行動学者のマイケル・W・フォックス氏が『イヌの心がわかる本』(1979)で提唱したことがきっかけとなり、「コンパニオンアニマル(companion animal:伴侶動物)」として接しようという考え方も生まれた。この言葉には「家族」という意味合いが含まれている。日本では「ペットの家族化」を象徴するように「家庭動物」という言葉が登場し、動物の愛護及び管理に関する法律でも使われるようになってきている。この名称はきわめて日本的であり英訳が困難であるのだが、本書では「家庭どうぶつ」をhousehold animalと訳すことにした。

# アニコム『家庭どうぶつ白書2024』の 発行にあたって

## Introduction

アニコムグループでは2010年より、アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の保険金支払い実績、独自に実施したアンケート調査の結果など、家庭どうぶつに関わるさまざまなデータを『家庭どうぶつ白書』として1冊にまとめ、毎年発行しています。家庭どうぶつと彼らを取り巻く環境を対象とした日本国内独自の疫学データとして、予防啓発・学術研究など、さまざまなシーンでご活用いただけるようになりました。今年も、直近1年間の集積データを中心にまとめたアニコム『家庭どうぶつ白書2024』を発行いたします。

おかげさまで「どうぶつ健保」の保有契約件数は123万件（2024年9月末時点）を超え、これまで以上に充実したデータをご提供できるようになりました。第1部ではどうぶつ種ごとに人気の品種・名前のランキング、年間費用に関するアンケート調査結果をご紹介します。第2部では、例年の犬・猫の品種別疾患動向のほか、誤飲や予防に関するデータ等を拡充いたしました。第3部では、口腔内ケアの重要性や再生医療といった、アニコムグループの最新の取り組みをお伝えいたします。

本書を、日頃からアニコム損保の「どうぶつ健保」の運営に多大なるご協力をいただいている動物病院さま、ペットショップさま、代理店さま、パートナー企業さま、メディアさまに、恩返しの気持ちを込めてお届けしたいと思います。そして、契約者さま・飼い主さまをはじめ、より多くの方々とこれらのデータを共有していくことで、どうぶつとの暮らしに少しでも役に立ち、さらに世界の家庭どうぶつを取り巻く環境がよりよいものとなる、その一助となればと強く願っています。

アニコム『家庭どうぶつ白書2024』制作チーム一同

Anicom Holdings, Inc.

Team of "White Paper on Household Animals 2024" project

### \*表紙の日本語訳

アニコムが『家庭どうぶつ白書』を作り続ける理由。それは、「どうぶつたちと、もっとつながりたい」という想いからです。彼らが何を考え、何を思っているのか。彼らにより長く健康でいてもらうために、私たちに何ができるのか。データを通じて、どうぶつたちに幸せを届けられないか。そして私たちのそんな想いが、ほんの少しだけでもいいから、どうぶつたちに伝わっていたら。そんなことを考えながら、毎年制作しています。

# 目次

アニコム『家庭どうぶつ白書2024』の発行にあたって ..... 1

**第1部 家庭どうぶつと家族 ..... 3**

1. 人気の品種と名前(犬) ..... 4  
 2. 人気の品種と名前(猫) ..... 5  
 3. 人気の品種と名前(鳥、うさぎ、フェレット) ..... 6  
 4. 人気の品種と名前(モモンガ、リス、ハムスター、ネズミ) ..... 7  
 5. 人気の品種と名前(モルモット、ハリネズミ、チンチラ、トカゲ、カメ、ヘビ) ..... 8  
 6. ペットにかける年間支出調査 ..... 9  
 7. 犬・猫のオーラルケアに関する調査 ..... 10

**第2部 どうぶつの疾患統計 ..... 11**

**第1章 疾患(大分類単位)別の統計**

1. 犬 ..... 12  
 2. 猫 ..... 14  
 3. 鳥、うさぎ、フェレット ..... 16  
 4. モモンガ、リス、ハムスター、ネズミ、モルモット ..... 18  
 5. ハリネズミ、チンチラ、トカゲ、カメ、ヘビ ..... 19

**第2章 品種別の統計**

1. トイ・プードル ..... 20	21. イタリアン・グレーハウンド ..... 40
2. チワワ ..... 21	22. ボーダー・コリー ..... 41
3. 混血犬(体重10kg未満) ..... 22	23. ビーグル ..... 42
4. 柴 ..... 23	24. ビション・フリーゼ ..... 43
5. ミニチュア・ダックスフンド ..... 24	25. シェットランド・シープドッグ ..... 44
6. ポメラニアン ..... 25	26. ボストン・テリア ..... 45
7. ミニチュア・シュナウザー ..... 26	27. アメリカン・コッカー・スパニエル ..... 46
8. ヨークシャー・テリア ..... 27	28. 日本スピッツ ..... 47
9. フレンチ・ブルドッグ ..... 28	29. パーニーズ・マウンテン・ドッグ ..... 48
10. マルチーズ ..... 29	30. 秋田 ..... 49
11. シーズー ..... 30	31. 混血猫 ..... 50
12. パピヨン ..... 31	32. スコティッシュ・フォールド ..... 51
13. ゴールデン・レトリバー ..... 32	33. アメリカン・ショートヘア ..... 52
14. ウェルシュ・コーギー・ペンブローク ..... 33	34. マンチカン ..... 53
15. ジャック・ラッセル・テリア ..... 34	35. ノルウェー・ジャン・フォレスト・キャット ..... 54
16. ラブラドル・レトリバー ..... 35	36. プリティッシュ・ショートヘア ..... 55
17. パグ ..... 36	37. ラグドール ..... 56
18. キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル ..... 37	38. ロシアンブルー ..... 57
19. ミニチュア・ピンシャー ..... 38	39. メイン・クーン ..... 58
20. ペキニーズ ..... 39	40. ミヌエット ..... 59

**第3章 疾患(小分類単位)別の統計** ..... 60

1. 犬・猫の誤飲 ..... 60  
 2. 予防処置に関わる疾患 ..... 61

**第4章 どうぶつ種ごとの診療費と診療内容** ..... 62

1. 犬・猫の診療費と診療内容 ..... 62  
 2. 鳥・うさぎ・フェレットの診療費と診療内容 ..... 63

**第5章 どうぶつの寿命** ..... 64

1. 犬・猫の寿命 ..... 64  
 2. エキゾチックアニマルの寿命 ..... 65  
 3. どうぶつの介護に関する調査 ..... 66

**第3部 アニコムの取り組み ..... 67**

1. 歯周病関連菌と疾病の関係 ..... 68  
 2. 再生医療の可能性～イヌ血小板由来成長因子を用いた臨床研究～ ..... 70

**参考資料**

① アニコム「どうぶつ健保」の契約頭数(どうぶつ種別、犬・品種別、猫・品種別) ..... 72  
 ② 疾患(大分類単位)別請求割合(どうぶつ種別) ..... 74  
 ③ 疾患(大分類単位)別請求割合(犬・猫、品種別) ..... 76  
 傷病名一覧表 ..... 78

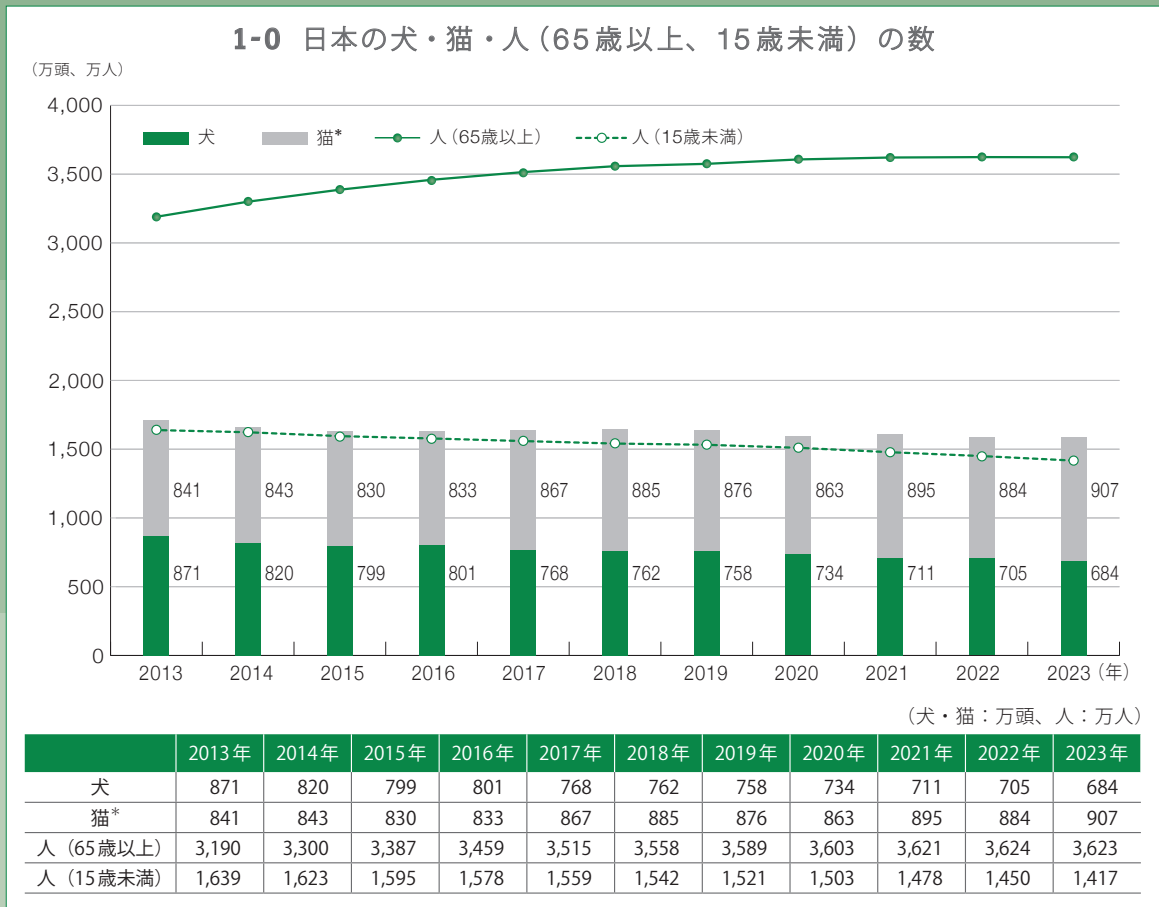
あとがきに代えて ..... 80



# 第1部

## 家庭どうぶつと家族

### 1. Household Animals and the Family



1-0

出典：一般社団法人ペットフード協会 令和5年（2023年）全国犬猫飼育実態調査、総務省統計局統計より抜粋、改変  
\*外猫を含まない/人口は毎年10月時点の統計を掲載

第1部 家庭どうぶつと家族

1. 人気の品種と名前（犬）

1-1 犬の品種ランキング（全年齢）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	トイ・プードル	173,642	22.5
2	チワワ	117,865	15.3
3	混血犬（体重10kg未満）	94,943	12.3
4	柴	60,145	7.8
5	ミニチュア・ダックスフンド	59,018	7.7
6	ポメラニアン	32,833	4.3
7	ミニチュア・シュナウザー	23,942	3.1
8	ヨークシャー・テリア	20,051	2.6
9	フレンチ・ブルドッグ	14,295	1.9
10	マルチーズ	13,968	1.8
11	シー・ズー	13,703	1.8
12	カニンヘン・ダックスフンド	13,478	1.7
13	パピヨン	10,322	1.3
14	ゴールデン・レトリバー	9,338	1.2
15	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	8,934	1.2
16	ジャック・ラッセル・テリア	8,134	1.1
17	ラブラドル・レトリバー	7,465	1.0
18	バグ	7,458	1.0
19	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	6,390	0.8
20	ミニチュア・ピンシャー	5,999	0.8
21	混血犬（体重10kg以上20kg未満）	5,723	0.7
22	ペキニーズ	5,439	0.7
23	イタリアン・グレーハウンド	5,106	0.7
24	ボーダー・コリー	4,963	0.6
25	ビーグル	4,892	0.6
26	ビション・フリーゼ	4,396	0.6
27	シェットランド・シープドッグ	4,125	0.5
28	ボストン・テリア	4,088	0.5
29	アメリカン・コッカー・スパニエル	3,064	0.4
30	日本スピッツ	1,830	0.2

1-1  
2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した犬771,286頭（性別不明含む、全年齢）において、各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-2 犬の品種ランキング（0歳のみ）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	トイ・プードル	17,902	19.8
2	混血犬（体重10kg未満）	16,459	18.2
3	チワワ	12,437	13.7
4	柴	6,796	7.5
5	ミニチュア・ダックスフンド	5,029	5.6
6	ポメラニアン	4,501	5.0
7	ミニチュア・シュナウザー	3,183	3.5
8	フレンチ・ブルドッグ	2,198	2.4
9	ヨークシャー・テリア	1,985	2.2
10	マルチーズ	1,823	2.0
11	カニンヘン・ダックスフンド	1,657	1.8
12	シー・ズー	1,615	1.8
13	ゴールデン・レトリバー	1,333	1.5
14	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	982	1.1
15	バグ	955	1.1
16	パピヨン	860	1.0
17	ラブラドル・レトリバー	815	0.9
18	ビション・フリーゼ	769	0.8
19	ジャック・ラッセル・テリア	724	0.8
20	ペキニーズ	690	0.8
21	ミニチュア・ピンシャー	685	0.8
22	イタリアン・グレーハウンド	637	0.7
23	ボーダー・コリー	612	0.7
24	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	556	0.6
25	ビーグル	529	0.6
26	シェットランド・シープドッグ	500	0.6
27	ボストン・テリア	491	0.5
28	シベリアンハスキー	404	0.4
29	アメリカン・コッカー・スパニエル	402	0.4
30	スタンダード・プードル	286	0.3

1-2  
2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の犬90,505頭（性別不明含む）において、各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-3 犬の名前ランキング

【2024年 総合ランキング】			【2024年 男の子部門】			【2024年 女の子部門】		
順位	名前	頭数	順位	名前	頭数	順位	名前	頭数
1 (1)	ムギ	1,255	1 (3)	ムギ	583	1 (2)	ムギ	670
2 (2)	ココ	913	2 (2)	ソラ	579	2 (1)	ココ	665
3 (4)	モカ	757	3 (1)	レオ	567	3 (3)	モモ	605
4 (3)	ソラ	715	4 (6)	ロイ	410	4 (4)	モカ	548
5 (8)	ラテ	654	5 (7)	マル	393	5 (5)	ハナ	516
6 (5)	マロン	652	6 (4)	コタロウ	385	6 (6)	モコ	460
7 (7)	モコ	640	7 (9)	テン	363	7 (11)	ルル	391
8 (9)	モモ	639	7 (5)	マロン		8 (9)	コムギ	364
9 (6)	レオ	572	9 (10)	フク	347	9 (10)	キナコ	361
10 (10)	チョコ	550	10 (11)	ラテ	341	9 (8)	ベル	

1-3  
2023年10月1日～2024年9月30日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の犬136,181頭の名前調査を実施し集計した。  
( ) は前年順位。





第1部 家庭どうぶつと家族

2. 人気の品種と名前（猫）

1-4 猫の品種ランキング（全年齢）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	混血猫	69,173	28.3
2	スコティッシュ・フォールド	34,491	14.1
3	アメリカン・ショートヘア	19,781	8.1
4	マンチカン	18,998	7.8
5	ノルウェージャン・フォレスト・キャット	12,115	5.0
6	ブリティッシュ・ショートヘア	10,247	4.2
7	ラグドール	9,720	4.0
8	日本猫	8,000	3.3
9	ロシアンブルー	6,835	2.8
10	メイン・クーン	6,143	2.5
11	ミヌエット	6,059	2.5
12	ベンガル	5,739	2.3
13	サイベリアン	5,622	2.3
14	ラガマフィン	4,265	1.7
15	ペルシャ（チンチラ）	3,876	1.6
16	ソマリ	2,949	1.2
17	エキゾチック・ショートヘア	2,739	1.1
18	ペルシャ	2,461	1.0
19	アメリカン・カール	2,392	1.0
20	アビシニアン	2,021	0.8
21	スコティッシュ・フォールド・ロングヘア	1,564	0.6
22	エキゾチック	1,324	0.5
23	シンガプーラ	1,208	0.5
24	シャルトリュー	875	0.4
25	ヒマラヤン	798	0.3
26	トンキニーズ	795	0.3
27	セルカーク・レックス	546	0.2
28	シャム	477	0.2
29	キンカロー	373	0.2
30	マンチカン・ロングヘア	336	0.1

1-4  
2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した猫244,528頭（性別不明含む、全年齢）において、各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-5 猫の品種ランキング（0歳のみ）

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	混血猫	5,744	16.1
2	スコティッシュ・フォールド	5,058	14.2
3	マンチカン	3,460	9.7
4	ラグドール	2,330	6.5
5	アメリカン・ショートヘア	2,321	6.5
6	サイベリアン	2,165	6.1
7	ミヌエット	2,080	5.8
8	ノルウェージャン・フォレスト・キャット	2,020	5.7
9	ブリティッシュ・ショートヘア	1,994	5.6
10	ラガマフィン	1,246	3.5
11	ベンガル	1,017	2.8
12	メイン・クーン	1,011	2.8
13	ロシアンブルー	857	2.4
14	エキゾチック・ショートヘア	563	1.6
15	ペルシャ	419	1.2
16	日本猫	382	1.1
17	ペルシャ（チンチラ）	349	1.0
18	エキゾチック	338	0.9
19	アメリカン・カール	318	0.9
20	ソマリ	309	0.9
21	スコティッシュ・フォールド・ロングヘア	202	0.6
22	トンキニーズ	175	0.5
23	シンガプーラ	169	0.5
24	アビシニアン	164	0.5
25	シャルトリュー	144	0.4
26	キンカロー	117	0.3
27	ヒマラヤン	114	0.3
28	セルカーク・レックス	96	0.3
29	シャム	79	0.2
30	ボンベイ	78	0.2

1-5  
2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の猫35,706頭（性別不明含む）において、各品種の頭数と、全体に占める割合を示した。

1-6 猫の名前ランキング

【2024年 総合ランキング】			【2024年 男の子部門】			【2024年 女の子部門】		
順位	名前	頭数	順位	名前	頭数	順位	名前	頭数
1 (1)	ムギ	457	1 (1)	レオ	349	1 (1)	ルナ	281
2 (3)	レオ	359	2 (3)	ムギ	243	2 (2)	ムギ	214
3 (4)	ルナ	334	3 (2)	ソラ	235	3 (4)	ココ	182
4 (2)	ソラ	278	4 (7)	コハク	175	4 (8)	キナコ	177
5 (10)	ベル	262	5 (13)	ラテ	133	5 (5)	ベル	174
6 (7)	キナコ	260	6 (4)	マル	128	6 (3)	モモ	173
7 (16)	ラテ	246	7 (6)	テン	126	7 (6)	リン	162
8 (5)	ココ	244	8 (10)	ルイ	121	8 (11)	メル	158
9 (17)	コハク	240	9 (12)	ノア	117	8 (7)	モカ	
10 (9)	モカ	236	10 (4)	フク	116	10 (10)	ハナ	136



1-6  
2023年2月1日～2024年1月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した0歳の猫53,892頭の名前調査を実施し集計した。  
( ) は前年順位。

## 第1部 家庭どうぶつと家族

## 3. 人気の品種と名前（鳥、うさぎ、フェレット）

## ● 品種ランキング

## 1-7 鳥

順位	品種	羽数	割合 (%)
1	セキセイインコ	3,885	30.6
2	オカメインコ	2,337	18.4
3	ブンチョウ	1,579	12.4
4	コザクラインコ	1,361	10.7
5	マメルリハ	435	3.4
6	オキナインコ	267	2.1
7	ボタンインコ	257	2.0
8	サザナミインコ	241	1.9
9	ホオミドリアカオウロコインコ	224	1.8
10	ウロコインコ	186	1.5

## 1-8 うさぎ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	ネザーランドドワーフ	14,776	48.2
2	ホーランドロップ	5,302	17.3
3	ミニうさぎ	4,153	13.5
4	ロップイヤー	2,100	6.8
5	ミニレッキス	1,384	4.5
6	ドワーフロップ	607	2.0
7	ライオン	488	1.6
8	うさぎ	374	1.2
9	混血うさぎ	329	1.1
10	アメリカンファジーロップ	278	0.9

## 1-9 フェレット

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	フェレット	7,971	100

## ● 名前ランキング

## 1-10 鳥

順位	名前	羽数
1	ソラ	335
2	ピー	137
	レモン	
4	ココ	136
5	サクラ	115
	モモ	

## 1-11 うさぎ

順位	名前	頭数
1	キナコ	665
2	モカ	584
3	ムギ	577
4	マロン	491
5	モコ	398

## 1-12 フェレット

順位	名前	頭数
1	モカ	106
2	ムギ	85
3	ソラ	73
4	テン	72
5	ココ	67
	コタロウ	

1-7～1-12

2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始した鳥12,691羽、うさぎ30,678頭、フェレット7,971頭（性別不明含む、全年齢）において、各品種の頭数と全体に占める割合、人気の名前を示した。





## 第1部 家庭どうぶつと家族

## 4. 人気の品種と名前（モモンガ、リス、ハムスター、ネズミ）

## ● 品種ランキング

## 1-13 モモンガ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	フクロモモンガ	4,382	99.8
2	モモンガ	7	0.2

## 1-14 リス

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	シマリス	604	50.6
2	リチャードソンジリス	576	48.3
3	ジュウサンセンジリス	11	0.9
4	リス	2	0.2

## 1-15 ハムスター

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	ジャンガリアンハムスター	7,463	48.1
2	ゴールデンハムスター	4,850	31.2
3	ハムスター	2,851	18.4
4	ロボロフスキーハムスター	335	2.2
5	キャンベルハムスター	19	0.1

## 1-16 ネズミ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	デグー	3,433	89.0
2	ラット	254	6.6
3	アフリカヤマネ ファットテールジャービル (マカロニマウス)	46	1.2
5	パンダマウス (ジャパニーズファンシーマウス)	21	0.5

## ● 名前ランキング

## 1-17 モモンガ

順位	名前	頭数
1	モモ	298
2	モン	76
3	モカ	74

## 1-18 リス

順位	名前	頭数
1	チップ	25
2	コムギ ムギ	15

## 1-19 ハムスター

順位	名前	頭数
1	オモチ	403
2	ハム	387
3	キナコ	343

## 1-20 ネズミ

順位	名前	頭数
1	キナコ	70
2	ムギ	60
3	モカ	43

1-13～1-20

2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始したモモンガ4,389頭、リス1,193頭、ハムスター15,524頭、ネズミ3,857頭（性別不明含む、全年齢）において、各品種の頭数と全体に占める割合、人気の名前を示した。

## 第1部 家庭どうぶつと家族

## 5. 人気の品種と名前（モルモット、ハリネズミ、チンチラ、トカゲ、カメ、ヘビ）

## ● 品種ランキング

## 1-21 モルモット

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	イングリッシュモルモット	1,810	39.4
2	アビシニアンモルモット	1,012	22.1
3	テディモルモット	642	14.0
4	クレストッドモルモット	585	12.7
5	モルモット	219	4.8

## 1-22 ハリネズミ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	ヨツユビハリネズミ	3,628	91.5
2	ハリネズミ	320	8.0
3	ヒメハリテンレック	17	0.4
4	テンレック	1	0.1

## 1-23 チンチラ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	チンチラ	6,627	100

## 1-24 トカゲ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	ヒョウモントカゲモドキ(レオパードゲッコー)	1,266	63.9
2	フトアゴヒゲトカゲ	429	21.7
3	トカゲ	115	5.8
4	クレストッドゲッコー	36	1.8
5	エボシカメレオン	23	1.2

## 1-25 カメ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	ヘルマンリクガメ	304	27.7
2	ギリシャリクガメ	186	17.0
3	ロシア(ホルスフィールド/ヨツユビ)リクガメ	176	16.1
4	ミシシッピニオイガメ	103	9.4
5	ヒョウモンリクガメ	53	4.8

## 1-26 ヘビ

順位	品種	頭数	割合 (%)
1	コーンスネーク	98	50.0
2	ボールパイソン	52	26.5
3	キングスネーク ヘビ	12	6.1
5	シシバナヘビ	8	4.1

## ● 名前ランキング

## 1-27 モルモット

順位	名前	頭数
1	モル	109
2	チョコ	80
3	モカ	73

## 1-28 ハリネズミ

順位	名前	頭数
1	ウニ	118
2	マロン	104
3	ハリー	86

## 1-29 チンチラ

順位	名前	頭数
1	オモチ	95
2	モコ	92
3	ダイフク	70

## 1-30 トカゲ

順位	名前	頭数
1	レオ	58
2	ミカン	22
3	レモン	21

## 1-31 カメ

順位	名前	頭数
1	リク	31
2	カメキチ	30
3	カメタロウ	11

## 1-32 ヘビ

順位	名前		頭数
1	アル		4
2	チョコ		3
3	イクラ	ピノ	2
	ウメ	マル	
	オレオ	ラテ	
	チクワ	リリカ	
	ハナコ		

1-21～1-32

2022年4月1日～2023年3月31日までの間に、アニコム損保の保険契約を開始したモルモット4,589頭、ハリネズミ3,966頭、チンチラ6,627頭、トカゲ1,980頭、カメ1,096頭、ヘビ196頭（性別不明含む、全年齢）において、各品種の頭数と全体に占める割合、人気の名前を示した。



## 第1部 家庭どうぶつと家族

## 6. ペットにかかる年間支出調査

## 1-33 1年間にかけた費用（犬・猫）

項目	犬				猫			
	2020年	2021年	2022年	2023年	2020年	2021年	2022年	2023年
ケガや病気の治療	60,430	59,387	67,367	56,134	31,848	34,395	31,138	36,617
フード・おやつ	64,745	65,924	66,066	64,294	42,925	52,797	49,103	52,328
サプリメント	11,861	15,370	11,020	10,783	5,668	4,428	3,100	3,902
しつけ・トレーニング料	7,204	7,489	7,930	6,343	1	21	0	0
シャンプー・カット・トリミング料	48,692	50,723	47,273	48,200	3,635	3,034	2,714	2,814
ペット保険料	46,895	46,187	45,445	43,763	34,929	29,900	27,385	28,097
ワクチン・健康診断等の予防費	32,463	32,695	34,154	33,648	14,029	13,785	13,504	13,864
ペットホテル・ペットシッター	3,991	5,001	4,455	4,446	1,609	1,065	1,092	2,115
日用品	13,750	14,364	14,202	13,431	13,766	13,633	13,429	12,796
洋服	11,640	13,096	12,853	12,590	674	495	629	268
ドッグランなど遊べる施設	2,880	2,650	3,466	2,631	0	0	25	10
首輪・リード	5,949	6,984	6,123	6,245	1,614	1,494	1,450	946
防災用品	703	761	1,561	1,008	982	884	1,050	1,264
交通費	14,908	12,929	16,714	18,602	891	531	486	441
光熱費（飼育に伴う追加分）	12,449	12,012	18,724	16,505	12,264	12,785	15,661	13,819
合計（円）	338,561	345,572	357,353	338,623	164,835	169,247	160,766	169,281
回答数（頭）	2,499	1,495	1,905	4,072	801	712	314	778
どうぶつの平均年齢（歳）	5.3	5.1	5.0	5.4	4.9	4.9	4.4	5.0

## 1-34 お祝いする記念日と費用（犬・猫）

お祝いする 記念日	犬		猫	
	割合（%）	金額（円）	割合（%）	金額（円）
誕生日	84.0	4,013	62.3	2,309
クリスマス	41.8	2,362	24.2	1,073
お正月	21.9	1,749	15.7	516
お迎え記念日	13.9	1,480	16.5	845
特になし	12.7	—	29.4	—

※複数回答可

1-33～1-35

## 【調査方法】

アニコム損保のペット保険の契約者に対し、2023年1月1日～12月31日の1年間にペット1頭（羽）へ支出した費用について、インターネット上でアンケートを実施した。各平均値は、外れ値（平均±標準偏差×3以上）を除いた金額より算出している。また回答のうち「0円」は含めるものとし、「回答なし」は除外して集計している。「その他の小動物」はモモンガ、リス、ハムスター、ネズミ、モルモット、ハリネズミ、チンチラ、トカゲ、カメ、ヘビを含む。

## 【有効回答数】

2023年調査：5,217人 / 2022年調査：2,388人 / 2021年調査：2,237人 / 2020年調査：3,532人

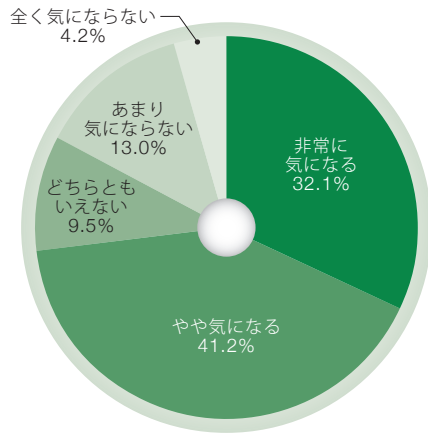
## 1-35 エキゾチックアニマルへの支出

項目	鳥	うさぎ	フェレット	その他の 小動物
ケガや病気の治療	16,855	12,529	39,973	12,241
フード・おやつ	10,802	37,354	29,416	20,469
サプリメント	1,516	6,859	5,963	2,778
しつけ・トレーニング料	0	0	0	0
シャンプー・カット・トリミング料	403	3,478	4,932	512
ペット保険料	23,188	28,365	30,644	12,681
ワクチン・健康診断等の予防費	2,939	3,080	13,293	732
ペットホテル・ペットシッター	2,097	1,634	952	1,403
日用品	5,163	10,691	13,282	8,981
洋服	0	258	340	10
ドッグランなど遊べる施設	0	160	0	13
首輪・リード	0	173	1,040	184
防災用品	1,214	433	905	525
交通費	1,029	1,382	762	389
光熱費（飼育に伴う追加分）	15,946	23,906	15,000	22,076
合計（円）	81,152	130,302	156,502	82,994
回答数（頭、羽）	63	136	31	135
どうぶつの平均年齢（歳）	2.4	3.0	2.5	2.1

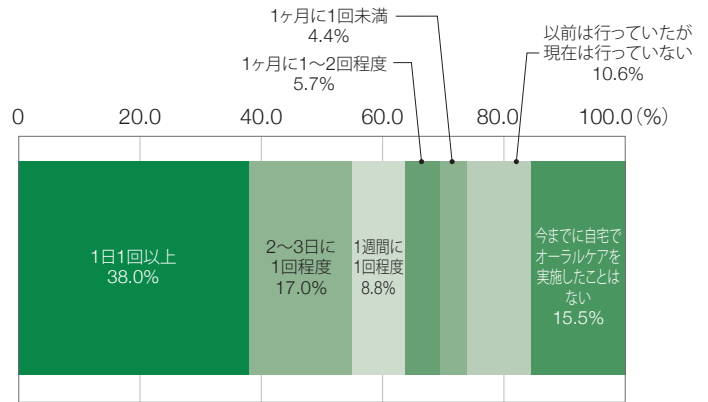
## 第1部 家庭どうぶつと家族

## 7. 犬・猫のオーラルケアに関する調査

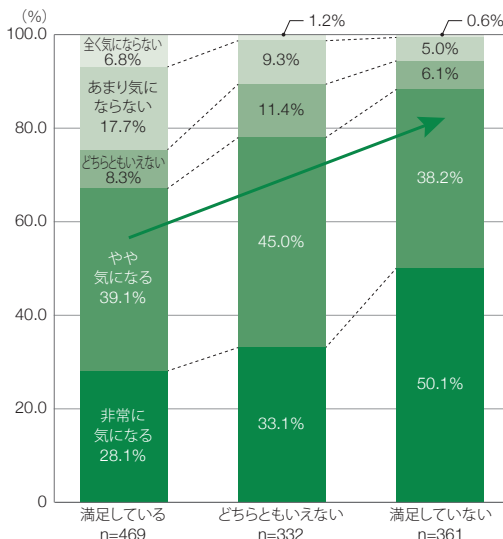
1-36 お口の汚れが気になるか



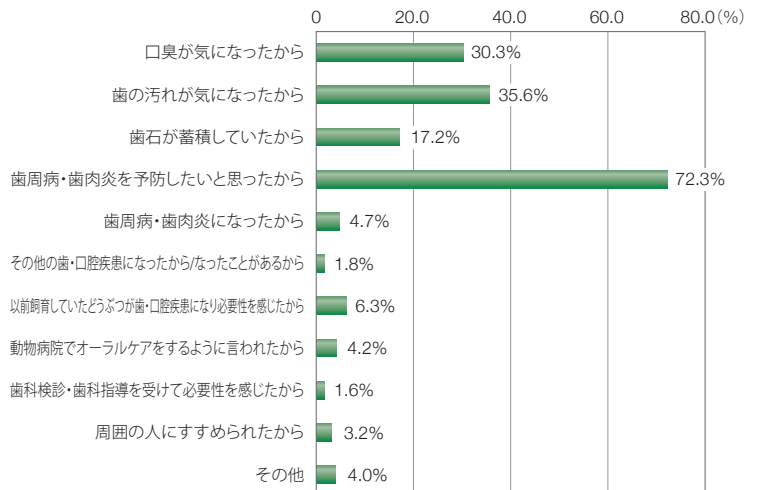
1-37 オーラルケアの実施頻度



1-38 オーラルケア満足度×お口の汚れの気になり度



1-39 オーラルケアを実施したいと考える理由



## 無色透明・無味・無臭の歯みがきジェル『CRYSTAL JOY』

2024年1月に販売を開始した歯みがきジェル『CRYSTAL JOY』は、アース製薬とアニコムグループが共同開発した製品。第6回日本オープンイノベーション大賞において内閣総理大臣賞を受賞した「MA-T® (Matching Transformation System) \*1」を採用している。本技術は食品衛生や人用の医薬品、医療・介護現場などで既に活用されているが、『CRYSTAL JOY』では日本で初めて\*2ペット専用用品に対してこの技術を応用した。

- \*1 亜塩素酸イオンから必要な時に最適な量の水性ラジカルを生成させる革新的な技術
- \*2 2023年11月末時点、日本MA-T工業会調べ



1-36 ~ 1-39

【調査方法】アニコムの契約者向けアンケートサイト「ani voice」で犬・猫の飼い主に対してアンケートを実施

【調査期間】2024年1月18日~1月24日

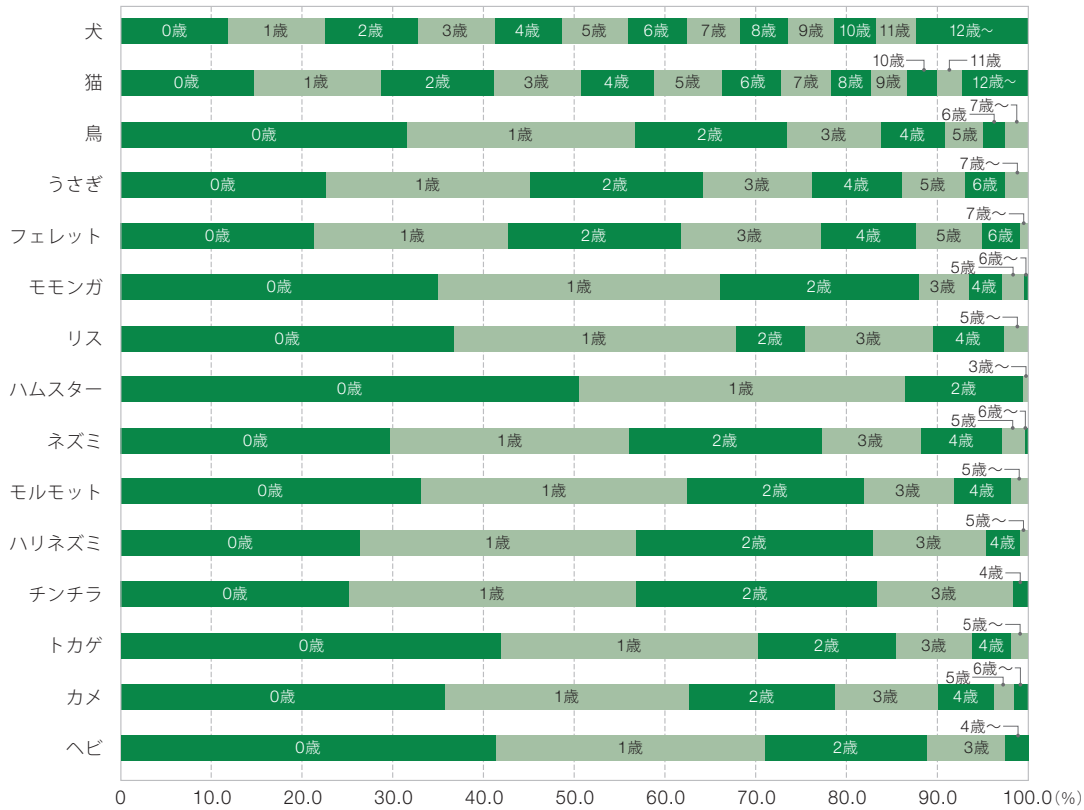
【回答数】1-36、1-37：1,572人/1-38：1,162人/1-39：379人



## 第2部

# どうぶつの疾患統計

2-0-1 アニコム損保の「どうぶつ健保」契約どうぶつの年齢構成



2-0-1

対象：2022年4月1日から2023年3月31日までの間にアニコム損保の保険契約を開始した犬771,286頭、猫244,528頭、鳥12,691羽、うさぎ30,678頭、フェレット7,971頭、モモンガ4,389頭、リス1,193頭、ハムスター15,524頭、ネズミ3,857頭、モルモット4,589頭、ハリネズミ3,966頭、チンチラ6,627頭、トカゲ1,980頭、カメ1,096頭、ヘビ196頭（全年齢、性別不明含む/契約の解除・取消を除く）。

## 2. Statistics on Household Animal Diseases

### [本書における請求割合について]

本書では、「請求割合＝保険金支払いのあったどうぶつの数/保険に契約しているどうぶつの数」と定義した。保険契約期間は1年間であるため、新規契約が継続契約であるかどうかにかかわらず、あくまで1年間のうちに1回でも保険金支払いがあった場合は1としてカウントしている。また、アニコムの「どうぶつ健保」に契約しているどうぶつには、新規契約時に年齢制限があること、ペットショップからどうぶつを迎える際に保険契約を検討するケースが多いことにより、若齢どうぶつが多い(2-0-1)。そのため全体の請求割合を算出する場合は、各年齢ごとの頭数が等しいと仮定し、それぞれの母集団が10,000頭になるように標準化したのちに請求があったどうぶつ数を算出し、請求割合としている。

請求割合の算出においては、契約満了または死亡解約となった各個体の1年ごとの契約について、その契約が開始した年齢ごとに1契約＝1頭とみなしている。請求割合でとくに記載のないものは、犬・猫は0～12歳の、鳥・うさぎ・フェレットは0～6歳の、それ以外は全年齢の平均とした。性別については基本的に性別不明を除いているが、第1章の犬・猫・うさぎ・フェレット以外のどうぶつ種、第4章の鳥、第5章の全どうぶつ種は性別不明を含めて算出している。

### [傷病名分類について]

2018年度より、傷病名の分類方法を変更している。原則、解剖学的な器官をもとに分類したため、従来の「腫瘍疾患」は、発生部位によって個々の大分類に振り分けられる。このため、本書における「腫瘍疾患」とは、各大分類の中から腫瘍に該当する小分類（傷病名）を抽出してまとめたものを指す。また本年度より、エキゾチックアニマルの契約頭数の増加に伴い、「エキゾチックアニマル特有の疾患」を分類上追加した。そのため昨年度までの集計とは、一部傾向が異なる可能性がある。詳細な傷病名一覧については78、79ページに掲載した。

### [オッズ比、罹りやすい疾患・罹りにくい疾患について]

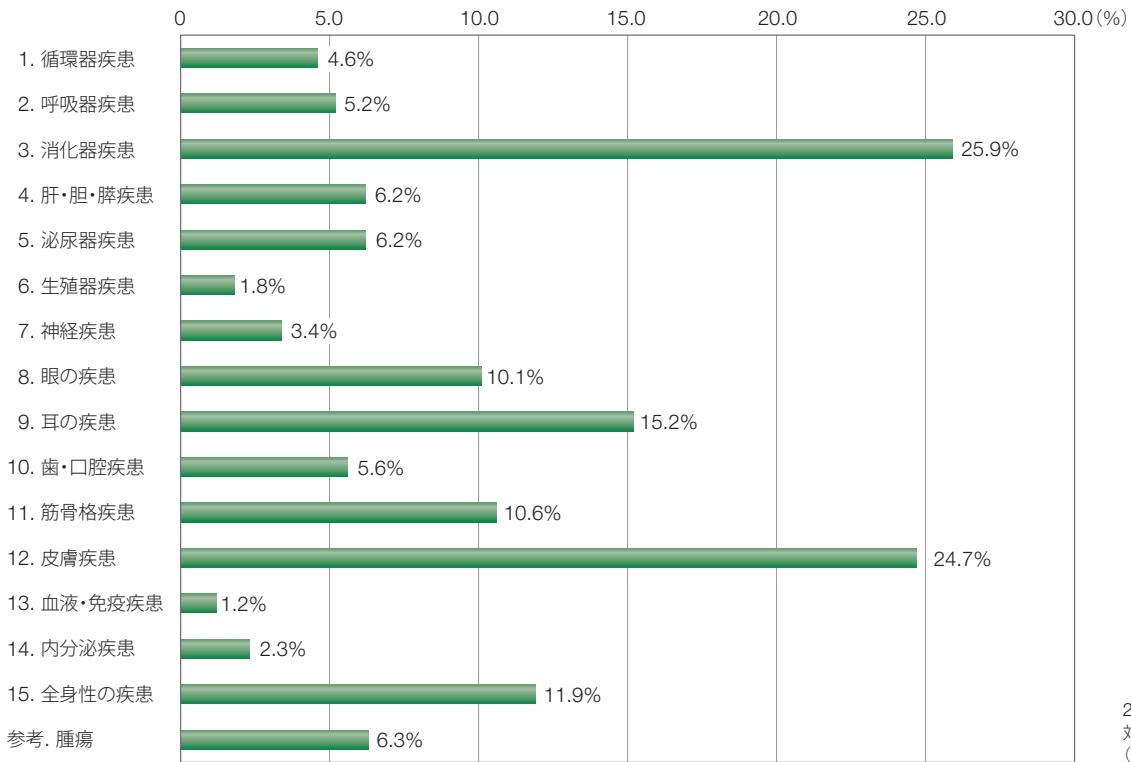
品種別の請求割合が0.5%以上の疾患を対象に、請求頭数＝罹患頭数と仮定しオッズ比を算出した。罹りやすい疾患は、95%信頼区間の下限が1以上の疾患を抽出し、オッズ比を降順に並び替え最大上位15位までを示した。罹りにくい疾患は、95%信頼区間の上限が1以下の疾患を抽出し、オッズ比を昇順に並び替え最大上位5位までを示した。

### [年間診療費（平均値・中央値）について]

一度の請求において複数の傷病に対する請求が行われていた場合、その請求は年間診療費（平均値・中央値）の集計対象からは除外するものとして（ただし、集計対象から除外したことで請求頭数が0頭になった場合には、集計対象に含めるものとして）算出した。

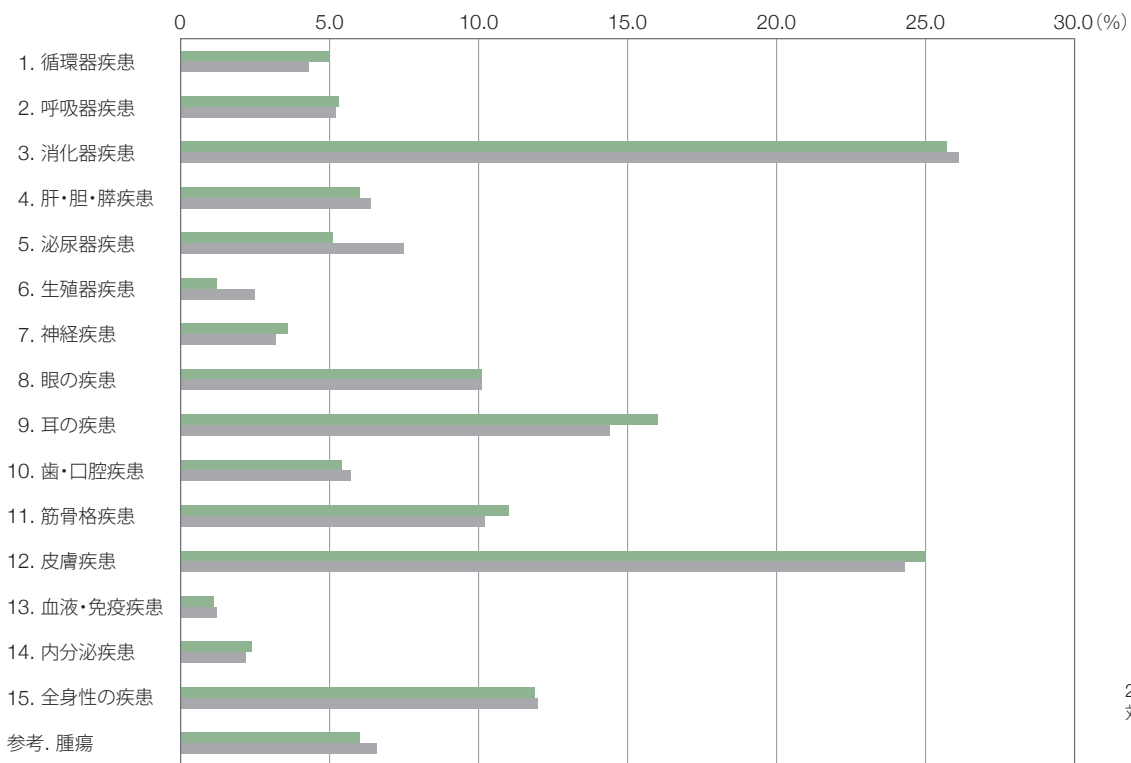
# 1. 犬

2-1-1 犬の疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-1  
対象：704,442頭  
(犬、0～12歳)

2-1-2 犬の請求割合の男女比較

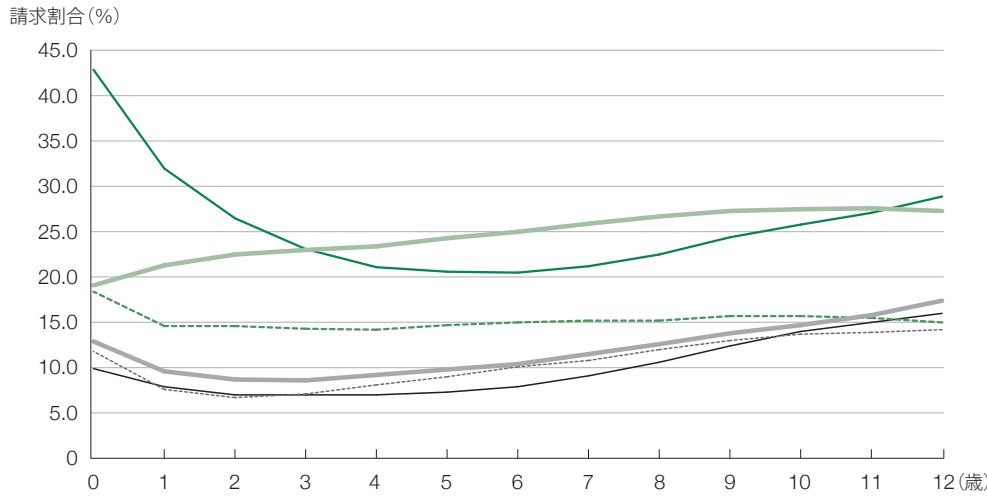


2-1-2  
対象：男子、372,685頭  
女子、331,757頭  
(犬、0～12歳)



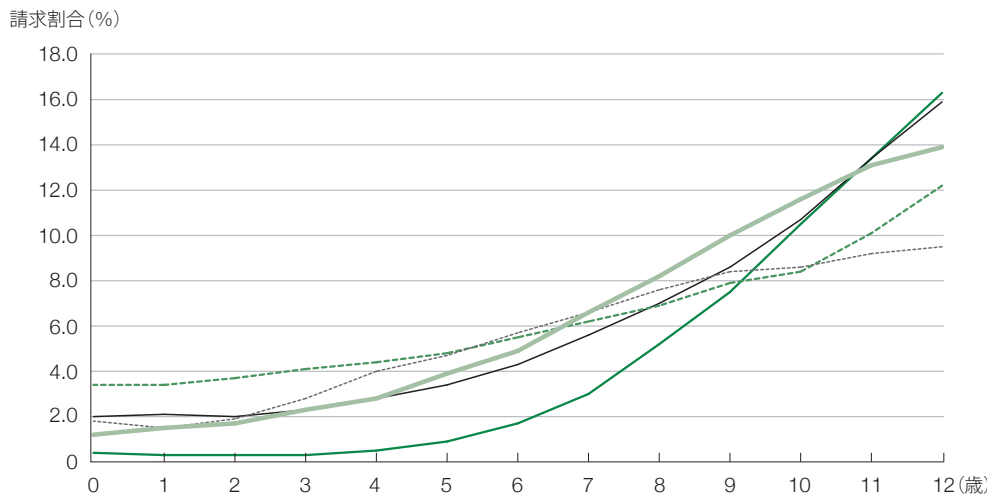
第2部 第1章 疾患（大分類単位）別の統計

2-1-3 犬の請求割合の年齢推移①



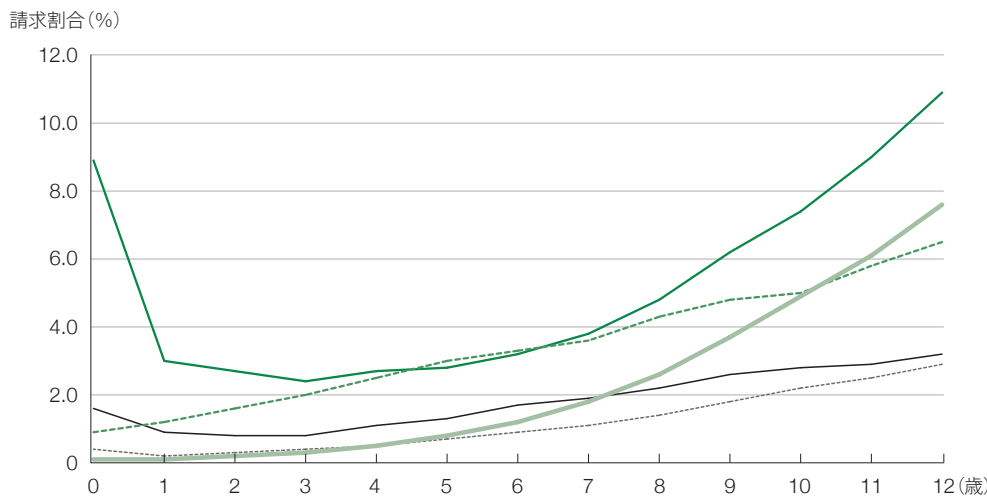
- 3. 消化器疾患
- 8. 眼の疾患
- - - 9. 耳の疾患
- ..... 11. 筋骨格疾患
- 12. 皮膚疾患
- 15. 全身性の疾患

2-1-4 犬の請求割合の年齢推移②



- 1. 循環器疾患
- 4. 肝・胆・膵疾患
- - - 5. 泌尿器疾患
- ..... 10. 歯・口腔疾患
- 参考: 腫瘍

2-1-5 犬の請求割合の年齢推移③

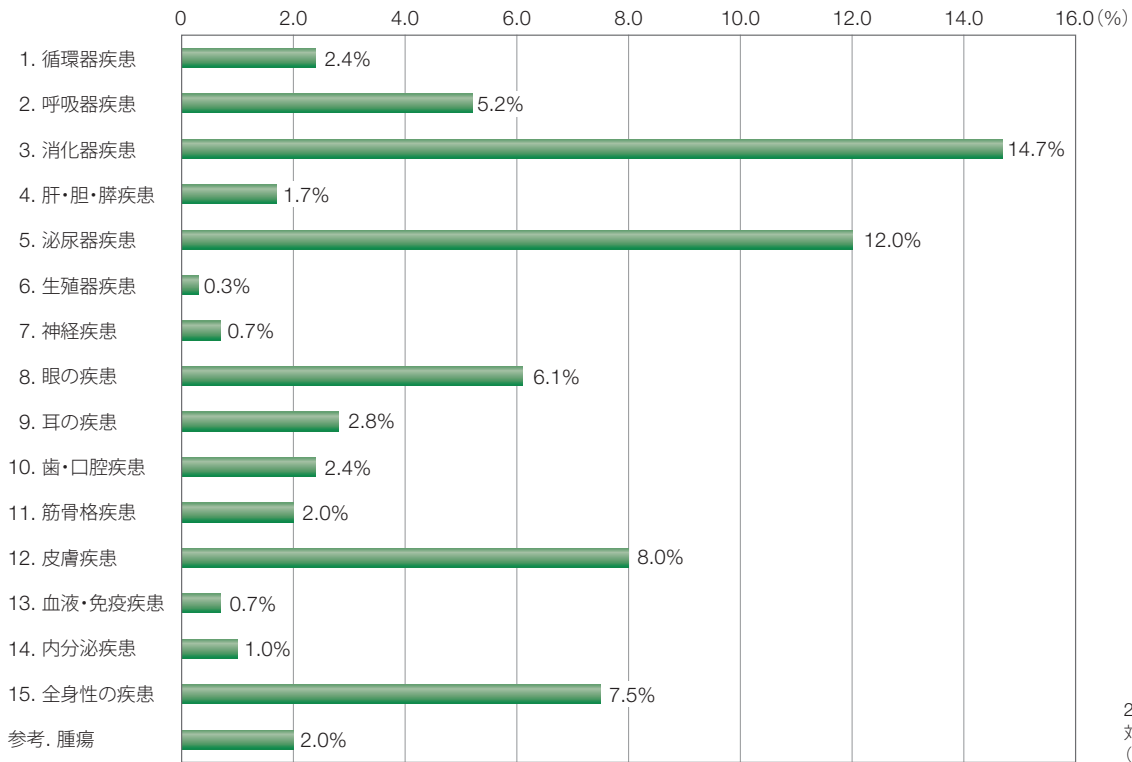


- 2. 呼吸器疾患
- 6. 生殖器疾患
- - - 7. 神経疾患
- ..... 13. 血液・免疫疾患
- 14. 内分泌疾患

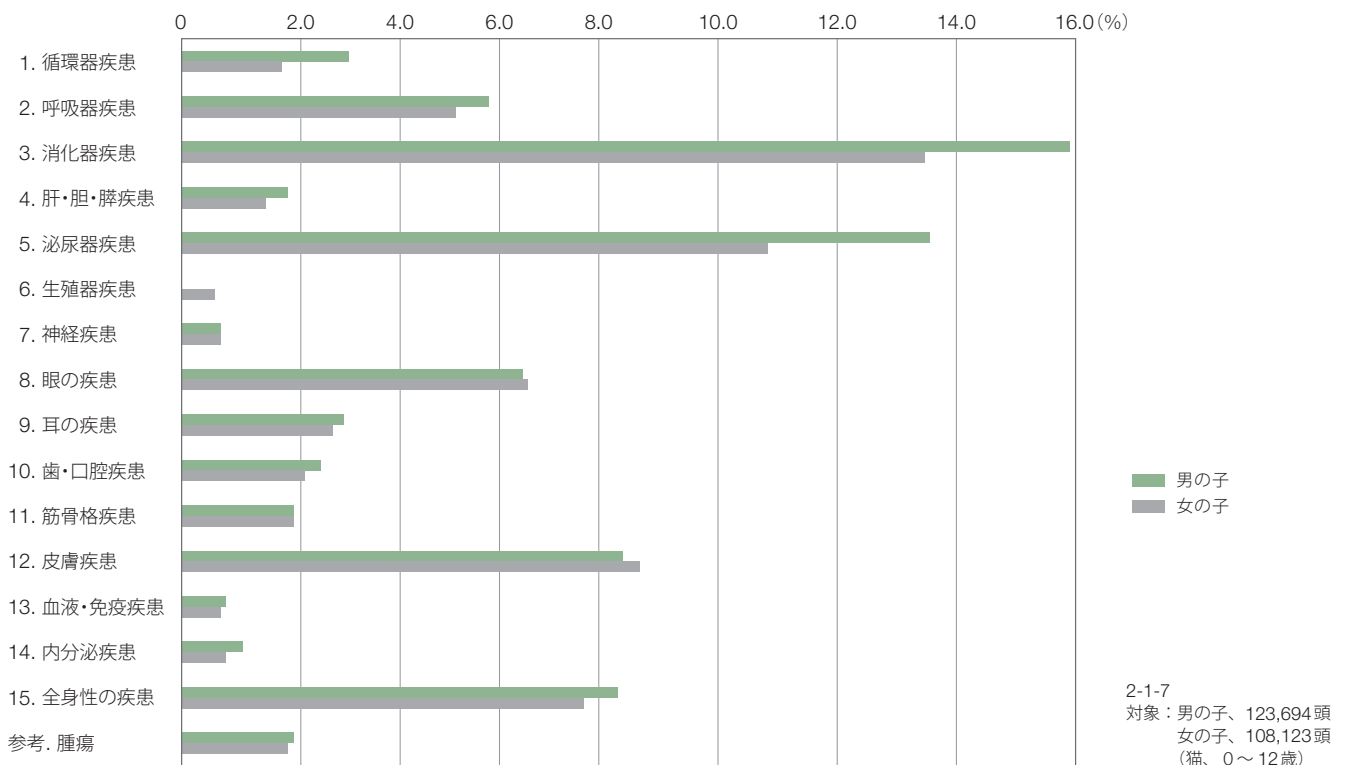
2-1-3～2-1-5  
対象：704,442頭  
(犬、0～12歳)

## 2. 猫

2-1-6 猫の疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-7 猫の請求割合の男女比較

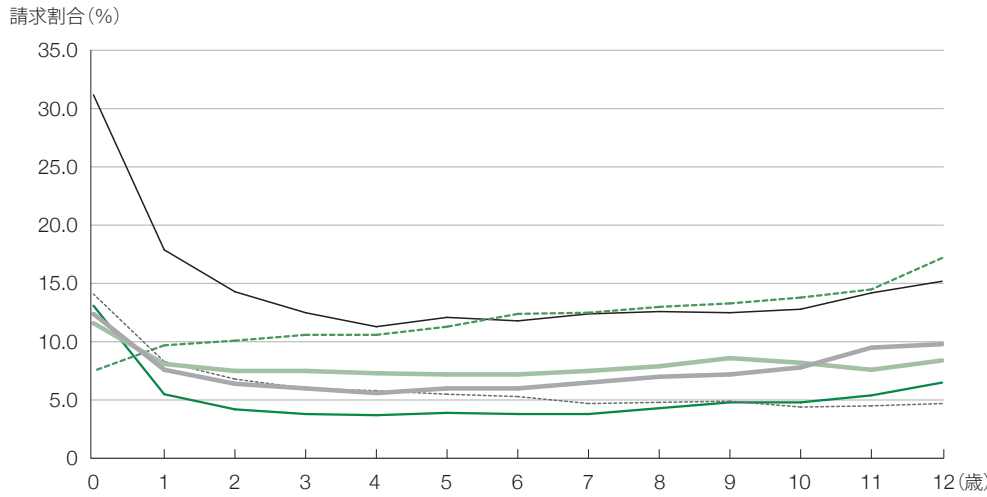






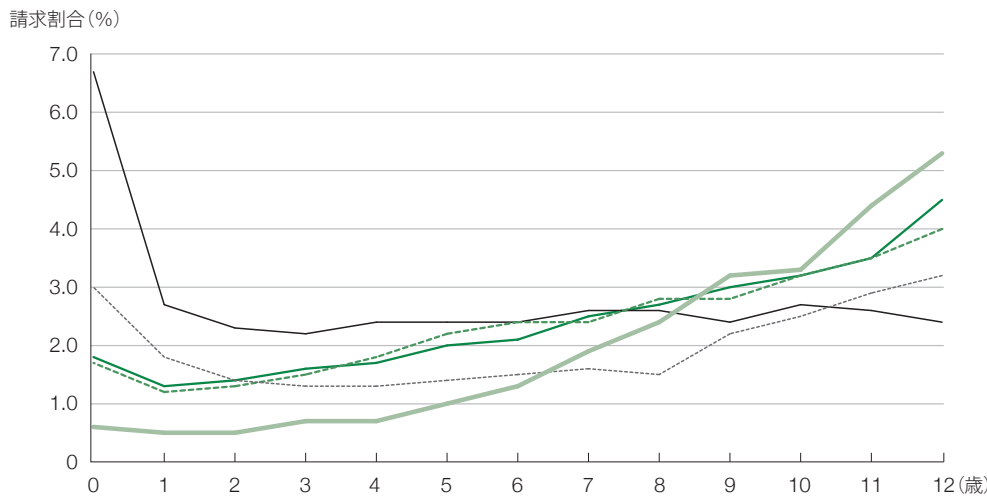
第2部 第1章 疾患（大分類単位）別の統計

2-1-8 猫の請求割合の年齢推移①



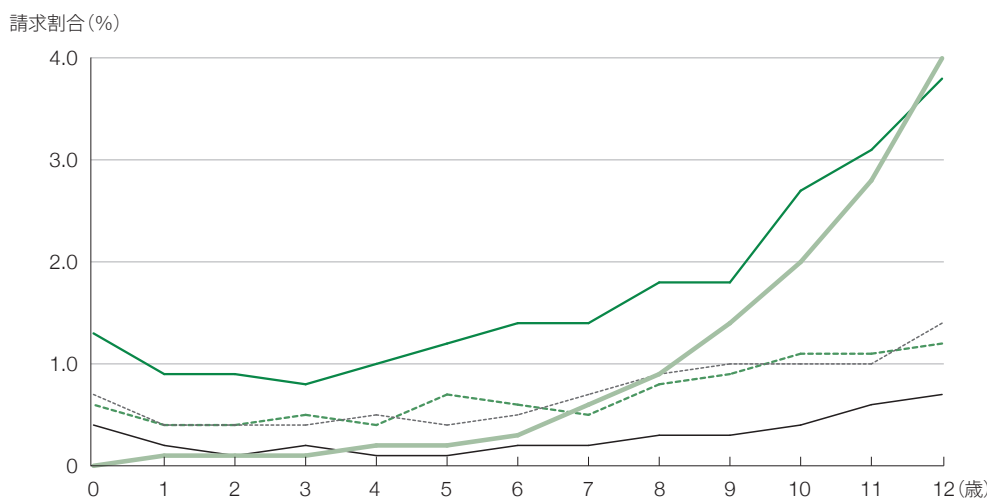
- 2. 呼吸器疾患
- 3. 消化器疾患
- - - 5. 泌尿器疾患
- ⋯⋯ 8. 眼の疾患
- 12. 皮膚疾患
- 15. 全身性の疾患

2-1-9 猫の請求割合の年齢推移②



- 1. 循環器疾患
- 9. 耳の疾患
- - - 10. 歯・口腔疾患
- ⋯⋯ 11. 筋骨格疾患
- 参考: 腫瘍

2-1-10 猫の請求割合の年齢推移③

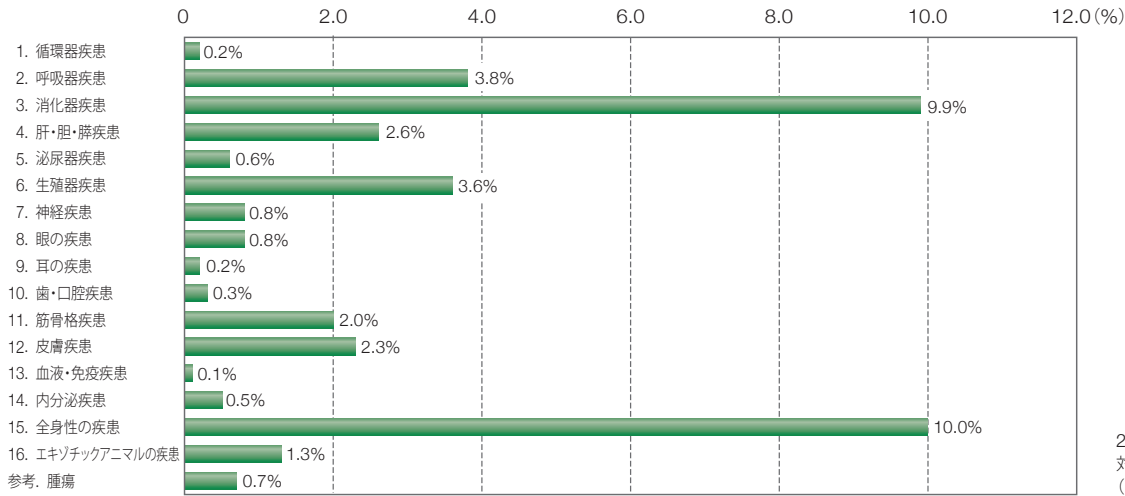


- 4. 肝・胆・膵疾患
- 6. 生殖器疾患
- - - 7. 神経疾患
- ⋯⋯ 13. 血液・免疫疾患
- 14. 内分泌疾患

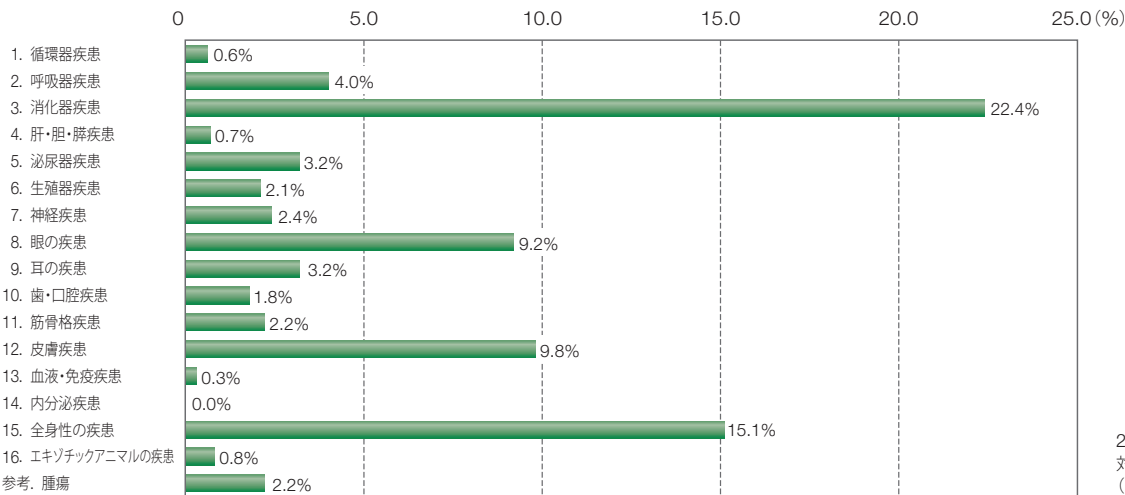
2-1-8～2-1-10  
対象：231,817頭  
(猫、0～12歳)

### 3. 鳥、うさぎ、フェレット

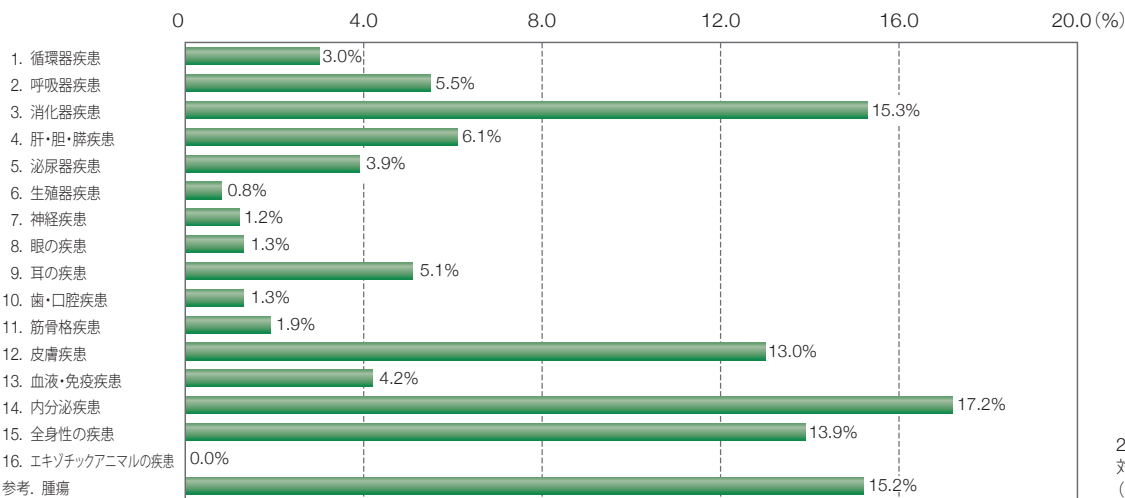
2-1-11 鳥の疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-12 うさぎの疾患（大分類単位）の請求割合



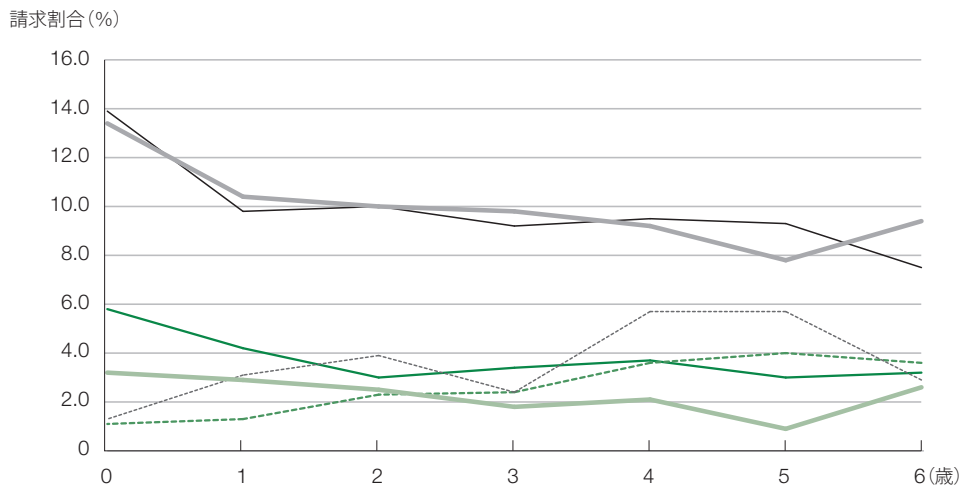
2-1-13 フェレットの疾患（大分類単位）の請求割合



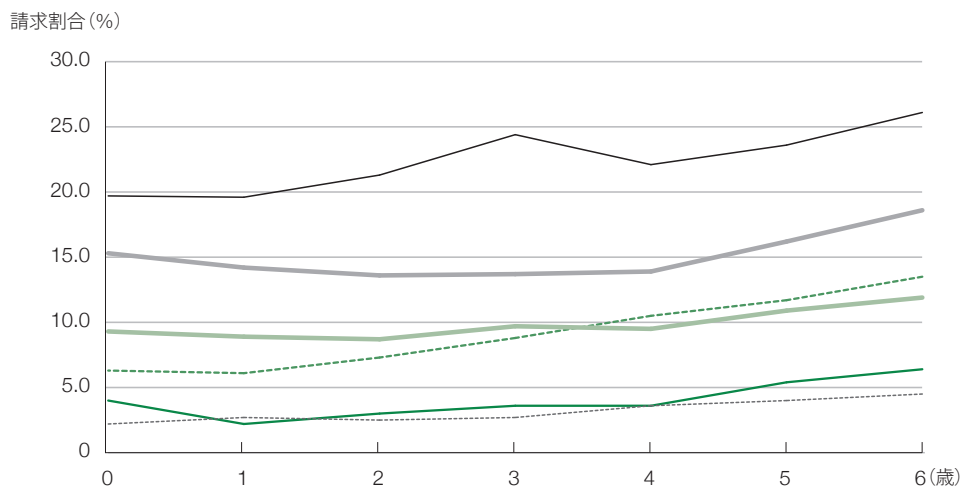


第2部 第1章 疾患（大分類単位）別の統計

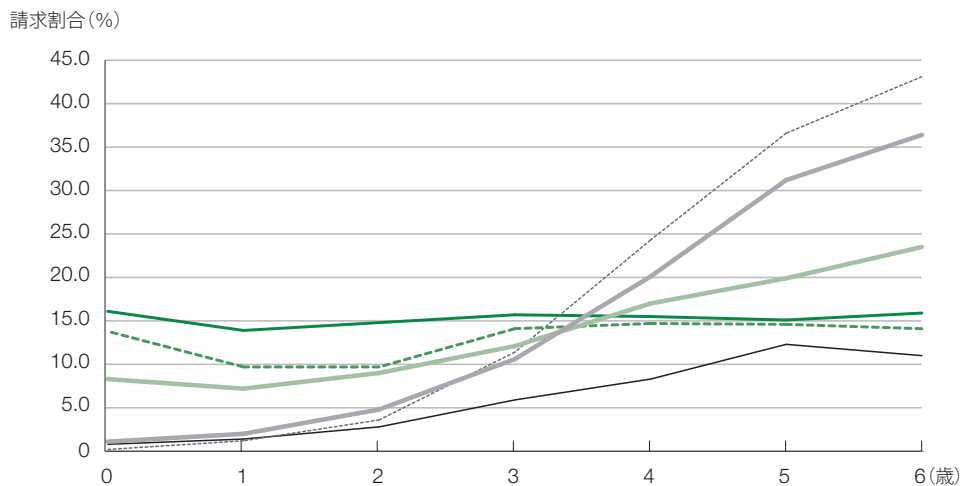
2-1-14 鳥の請求割合の年齢推移



2-1-15 うさぎの請求割合の年齢推移

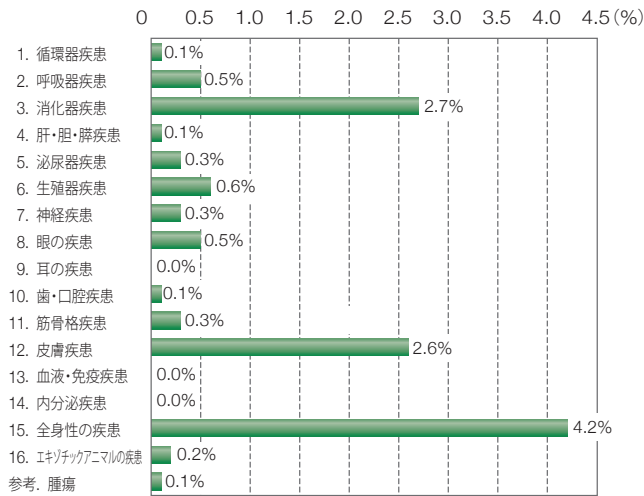


2-1-16 フェレットの請求割合の年齢推移



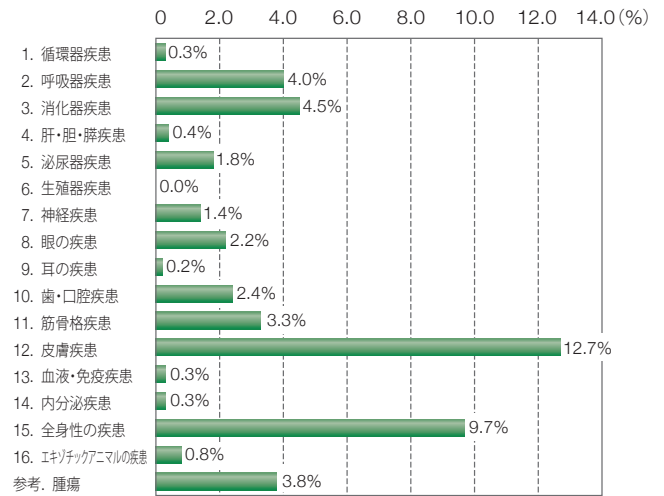
## 4. モモンガ、リス、ハムスター、ネズミ、モルモット

2-1-17 モモンガの疾患（大分類単位）の請求割合



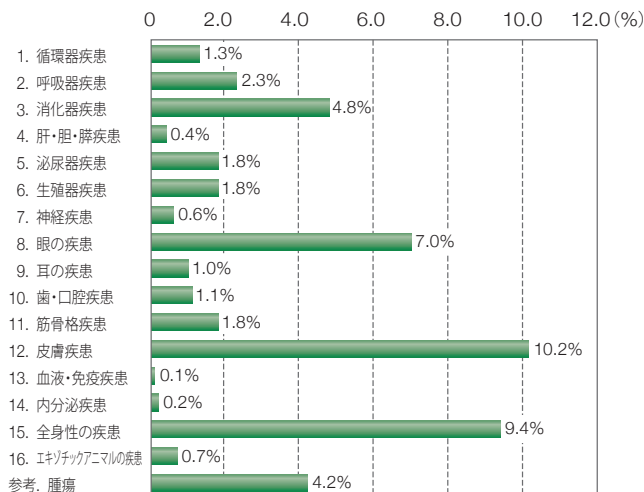
2-1-17 / 対象：4,389頭（モモンガ、全年齢）

2-1-18 リスの疾患（大分類単位）の請求割合



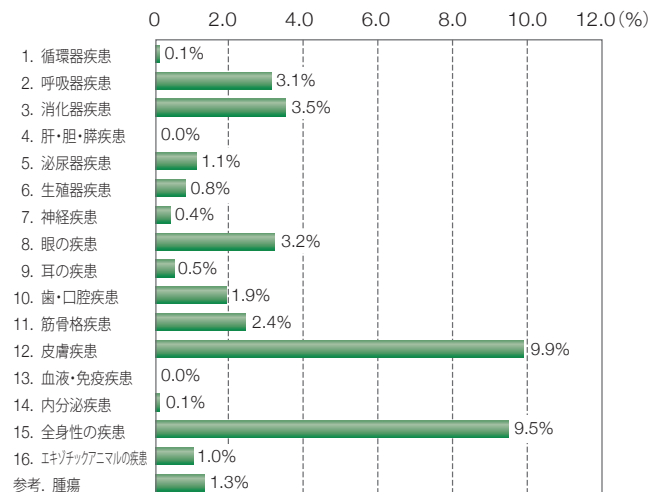
2-1-18 / 対象：1,193頭（リス、全年齢）

2-1-19 ハムスターの疾患（大分類単位）の請求割合



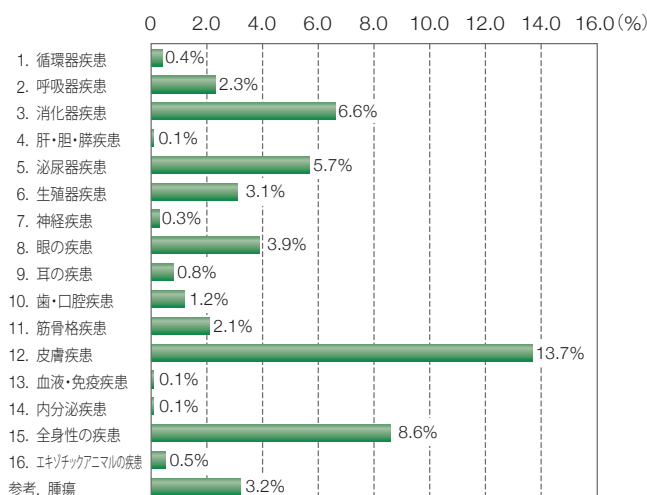
2-1-19 / 対象：15,524頭（ハムスター、全年齢）

2-1-20 ネズミの疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-20 / 対象：3,857頭（ネズミ、全年齢）

2-1-21 モルモットの疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-21 / 対象：4,589頭（モルモット、全年齢）

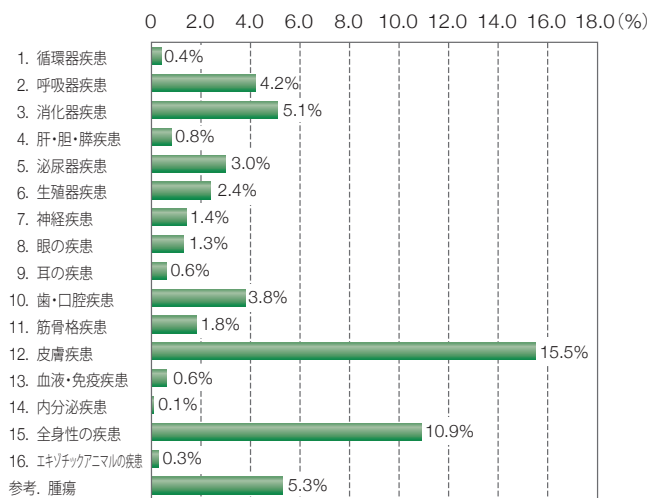




第2部 第1章 疾患（大分類単位）別の統計

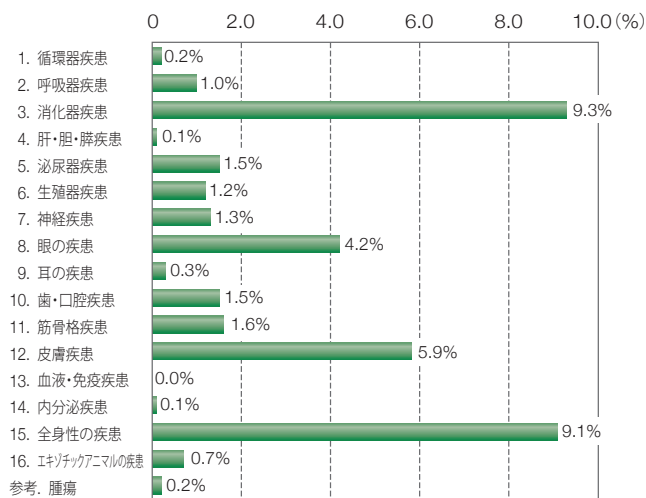
5. ハリネズミ、チンチラ、トカゲ、カメ、ヘビ

2-1-22 ハリネズミの疾患（大分類単位）の請求割合



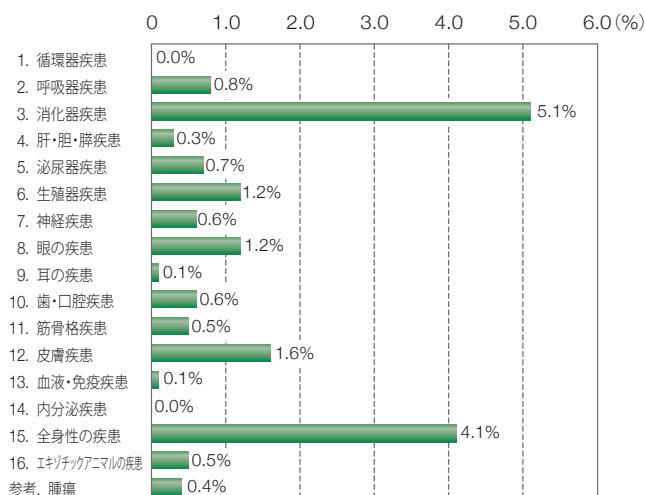
2-1-22 / 対象: 3,966頭 (ハリネズミ、全年齢)

2-1-23 チンチラの疾患（大分類単位）の請求割合



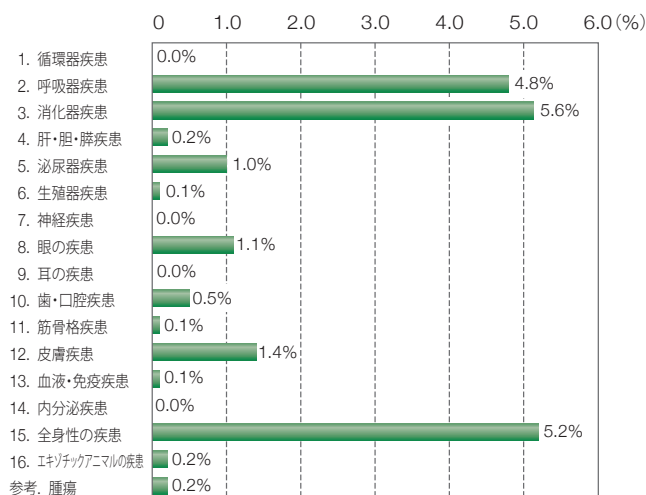
2-1-23 / 対象: 6,627頭 (チンチラ、全年齢)

2-1-24 トカゲの疾患（大分類単位）の請求割合



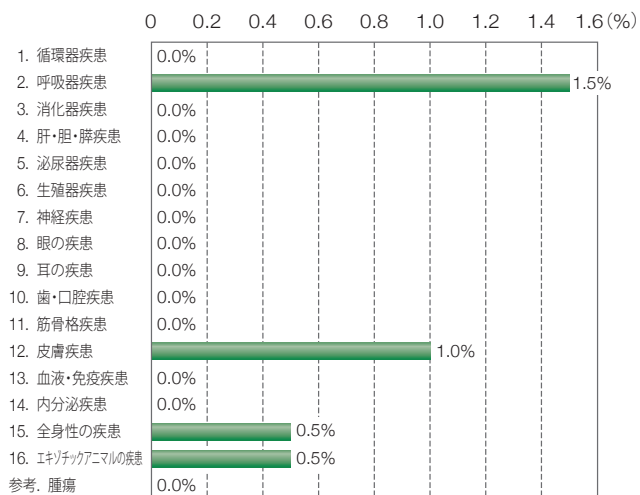
2-1-24 / 対象: 1,980頭 (トカゲ、全年齢)

2-1-25 カメの疾患（大分類単位）の請求割合

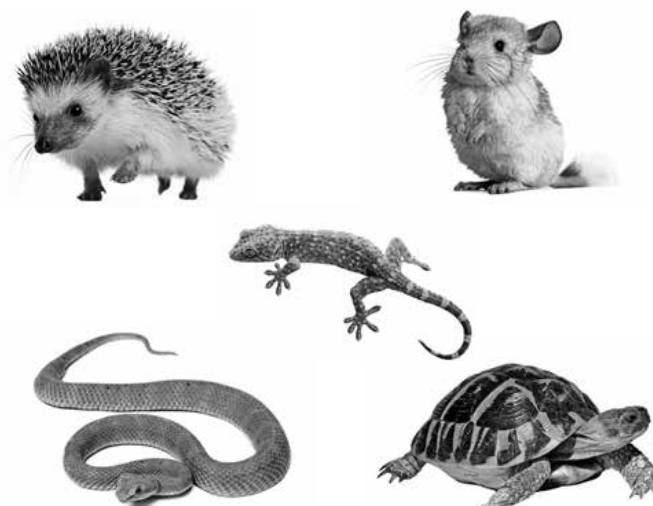


2-1-25 / 対象: 1,096頭 (カメ、全年齢)

2-1-26 ヘビの疾患（大分類単位）の請求割合



2-1-26 / 対象: 196頭 (ヘビ、全年齢)



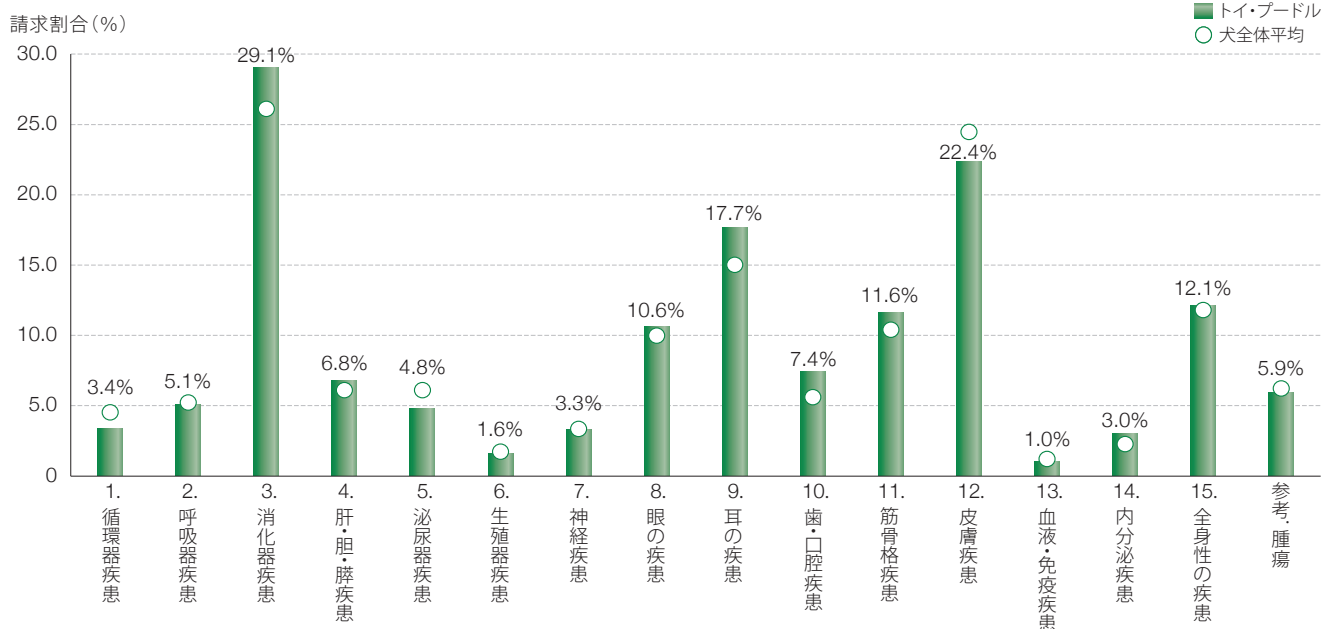
第2部 エキゾチックの疾患統計

## 第2部 第2章 品種別の統計

## 1. トイ・プードル



## 2-2-1 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-2 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			トイ・プードル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	糖尿病	1,264	0.8%	0.4%	227,211	174,358	11	3.20	2.97	3.46
2	骨折 (前肢)	859	0.5%	0.3%	238,129	139,078	0	2.58	2.36	2.82
3	白内障	2,812	1.8%	1.1%	71,435	20,350	11	2.06	1.97	2.16
4	胆泥症	3,166	2.0%	1.3%	81,272	47,340	11	1.92	1.84	2.00
5	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	8,903	5.7%	3.7%	58,657	47,630	9	1.89	1.84	1.94
6	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	1,724	1.1%	0.8%	22,196	9,701	0	1.63	1.54	1.72
7	膵炎	1,807	1.1%	0.8%	93,928	57,079	12	1.52	1.44	1.61
8	疼痛 (原因未定)	2,599	1.7%	1.3%	14,965	8,250	7	1.44	1.37	1.50
9	腰痛 (原因未定)	1,596	1.0%	0.8%	14,213	8,470	5	1.42	1.34	1.50
10	甲状腺機能低下症	1,327	0.8%	0.7%	79,904	55,515	12	1.42	1.33	1.51
11	膝蓋骨 (皿) 脱臼	3,376	2.1%	1.7%	76,790	12,034	0	1.38	1.33	1.44
12	眼瞼炎	1,131	0.7%	0.6%	17,246	7,514	0	1.31	1.22	1.40
13	気管炎/気管支炎	1,530	1.0%	0.8%	26,978	12,848	0	1.31	1.23	1.39
14	胃炎/胃腸炎/腸炎	18,908	12.0%	10.0%	20,702	10,626	0	1.31	1.28	1.33
15	目やに (原因未定)	1,281	0.8%	0.7%	10,149	5,653	0	1.31	1.22	1.39

## 2-2-3 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			トイ・プードル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	膀胱炎	2,331	1.5%	2.2%	21,462	12,210	11	0.62	0.60	0.65
2	趾間皮膚炎	1,772	1.1%	1.6%	14,620	7,150	2	0.67	0.64	0.70
3	膿皮症/細菌性皮膚炎	6,079	3.9%	5.1%	23,865	10,065	2	0.70	0.68	0.72
4	その他の循環器疾患	796	0.5%	0.6%	96,578	38,489	11	0.75	0.70	0.81
5	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	965	0.6%	0.8%	23,500	9,600	1	0.76	0.71	0.82

2-2-1~2-2-3 / 対象: 157,292頭 (トイ・プードル、0~12歳)

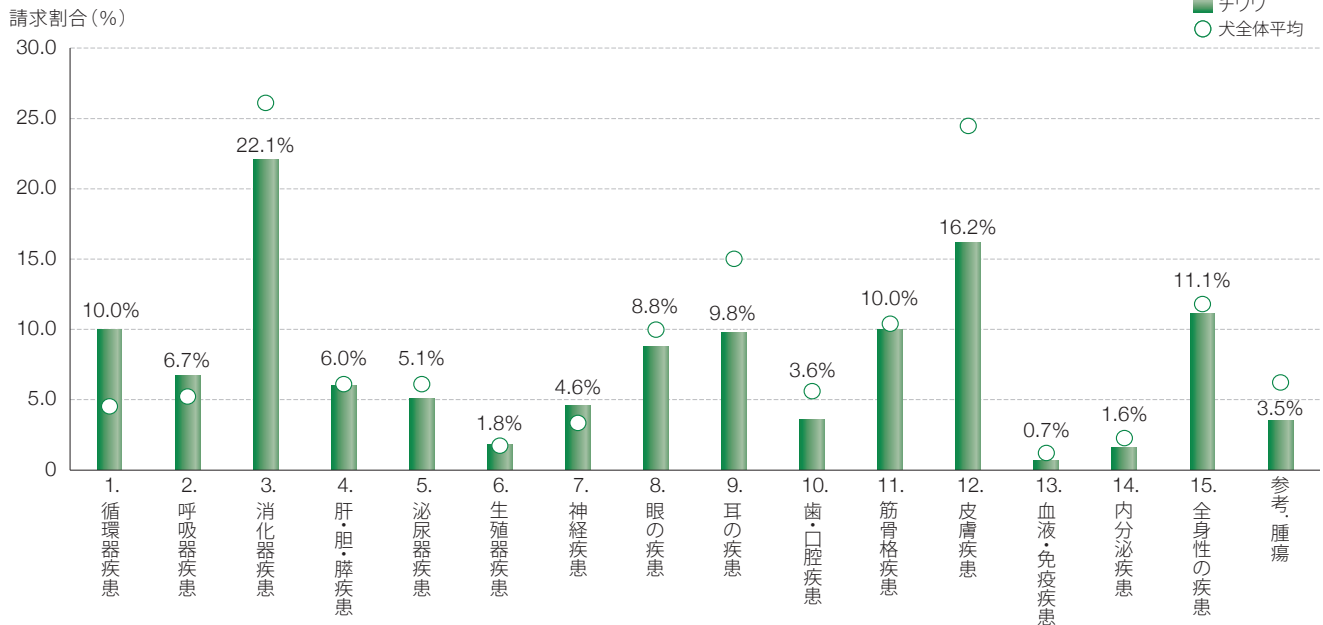


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 2. チワワ



#### 2-2-4 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-5 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			チワワ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	6,905	6.4%	2.6%	143,021	86,240	12	3.54	3.44	3.65
2	その他の循環器疾患	1,340	1.2%	0.6%	110,903	44,660	11	2.38	2.23	2.53
3	気管虚脱	971	0.9%	0.6%	53,356	18,649	12	1.72	1.60	1.85
4	痙攣発作 (原因未定)	1,036	1.0%	0.6%	70,234	33,066	12	1.72	1.60	1.84
5	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	760	0.7%	0.5%	12,525	5,333	0	1.71	1.58	1.86
6	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎	735	0.7%	0.5%	17,398	6,960	0	1.64	1.51	1.78
7	膝蓋骨 (踵) 脱臼	2,696	2.5%	1.7%	74,284	11,330	0	1.63	1.56	1.70
8	てんかん	1,992	1.8%	1.3%	80,182	55,440	9	1.59	1.51	1.67
9	その他の神経系疾患	566	0.5%	0.4%	58,218	22,158	11	1.37	1.25	1.51
10	その他の呼吸器疾患	752	0.7%	0.6%	29,003	13,200	0	1.30	1.20	1.40
11	疼痛 (原因未定)	1,694	1.6%	1.3%	14,449	8,030	0	1.30	1.23	1.37
12	発咳 (原因未定)	1,953	1.8%	1.5%	22,373	10,747	0	1.26	1.20	1.32
13	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	1,014	0.9%	0.8%	16,153	8,250	3	1.25	1.17	1.34
14	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫	601	0.6%	0.5%	13,996	5,852	2	1.25	1.14	1.36
15	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	3,450	3.2%	2.8%	20,893	12,210	0	1.19	1.14	1.23

#### 2-2-6 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			チワワ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	その他の皮膚の腫瘍	1,260	1.2%	2.4%	32,613	9,460	10	0.44	0.41	0.46
2	アトピー性皮膚炎	1,313	1.2%	2.3%	56,439	34,788	2	0.49	0.46	0.51
3	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	2,220	2.1%	3.5%	45,979	22,110	2	0.53	0.51	0.55
4	マラセチア性外耳炎	1,224	1.1%	1.9%	16,622	10,291	0	0.54	0.51	0.57
5	趾間皮膚炎	1,011	0.9%	1.6%	12,423	6,430	2	0.56	0.52	0.60

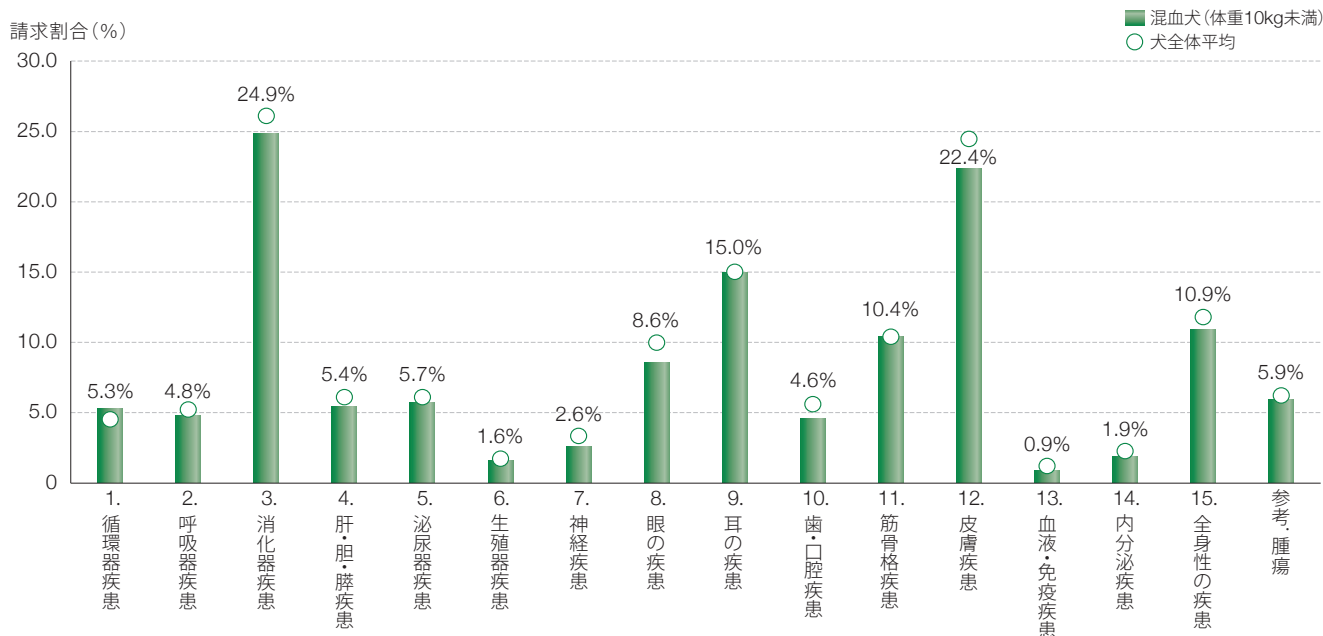
2-2-4~2-2-6 / 対象: 108,139頭 (チワワ、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

3. 混血犬（体重10kg未満）



2-2-7 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-8 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数(頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢(歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			混血犬(体重10kg未満)	犬全体	平均値(円)	中央値(円)			下限	上限
1	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群	602	0.7%	0.4%	13,645	8,431	0	1.89	1.73	2.07
2	流涙症(涙やけ/涙管閉塞含む)	1,108	1.2%	0.8%	18,854	8,360	0	1.75	1.64	1.87
3	膝蓋骨(皿)脱臼	1,992	2.2%	1.7%	73,119	11,000	0	1.37	1.30	1.44
4	消化管内異物/誤飲	5,010	5.5%	4.6%	26,345	13,750	0	1.26	1.22	1.30
5	発咳(原因未定)	1,447	1.6%	1.5%	18,119	9,124	0	1.08	1.02	1.14
6	胃炎/胃腸炎/腸炎	9,255	10.2%	10.0%	18,241	9,570	0	1.02	1.00	1.05

2-2-9 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数(頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢(歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			混血犬(体重10kg未満)	犬全体	平均値(円)	中央値(円)			下限	上限
1	白内障	589	0.7%	1.1%	60,379	16,885	11	0.57	0.52	0.62
2	胆泥症	724	0.8%	1.3%	73,721	42,983	10、11	0.59	0.55	0.64
3	てんかん	725	0.8%	1.3%	74,315	47,350	5	0.59	0.55	0.64
4	潰瘍性角膜炎(角膜びらん含む)	573	0.6%	1.0%	22,969	11,328	1	0.63	0.57	0.68
5	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	2,310	2.6%	3.7%	53,441	43,840	7	0.66	0.63	0.69

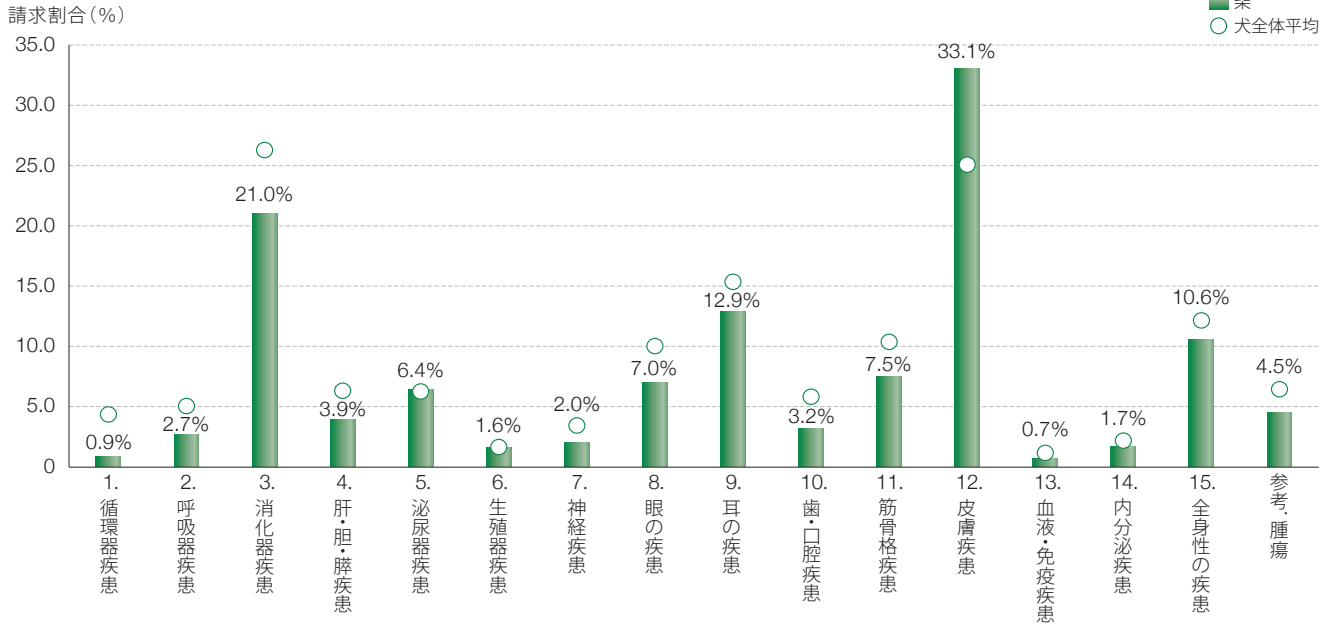
2-2-7~2-2-9 / 対象：90,497頭〔混血犬（体重10kg未満）、0~12歳〕



4. 柴



2-2-10 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-11 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			柴	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	アトピー性皮膚炎	3,608	6.4%	2.3%	72,726	44,825	2	3.50	3.37	3.64
2	緑内障	363	0.6%	0.2%	166,242	103,962	11	3.32	2.95	3.73
3	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	4,417	7.8%	3.5%	62,716	35,019	2	2.61	2.52	2.70
4	皮膚の痒み (原因未定)	3,109	5.5%	3.0%	38,888	18,898	2	2.02	1.94	2.10
5	咬傷	305	0.5%	0.3%	19,897	7,425	0	1.88	1.66	2.12
6	趾間皮膚炎	1,345	2.4%	1.6%	18,308	8,344	1	1.63	1.54	1.73
7	脱毛 (原因未定)	459	0.8%	0.5%	23,990	10,940	0	1.60	1.45	1.77
8	原因未定の皮膚炎	4,644	8.3%	6.5%	42,530	16,720	1	1.33	1.29	1.37
9	アレルギー (詳細不明)	361	0.6%	0.5%	33,328	17,458	0	1.32	1.19	1.47
10	甲状腺機能低下症	456	0.8%	0.7%	82,747	62,920	12	1.27	1.15	1.40
11	膀胱炎	1,464	2.6%	2.2%	24,768	14,520	0	1.23	1.17	1.30
12	その他の皮膚疾患	6,106	10.8%	9.2%	35,254	12,730	1	1.23	1.19	1.26
13	アレルギー性外耳炎	391	0.7%	0.6%	34,778	16,676	2	1.12	1.01	1.24
14	その他の泌尿器疾患	947	1.7%	1.6%	26,253	11,605	12	1.09	1.02	1.17

2-2-12 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			柴	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	胆泥症	310	0.6%	1.3%	94,375	50,312	11、12	0.41	0.37	0.46
2	発咳 (原因未定)	388	0.7%	1.5%	15,036	8,470	0	0.44	0.39	0.48
3	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	996	1.8%	3.7%	60,057	50,614	9	0.45	0.43	0.48
4	てんかん	376	0.7%	1.3%	88,002	50,605	4	0.50	0.45	0.56
5	膝蓋骨 (皿) 脱臼	538	1.0%	1.7%	81,272	13,640	0	0.54	0.50	0.59

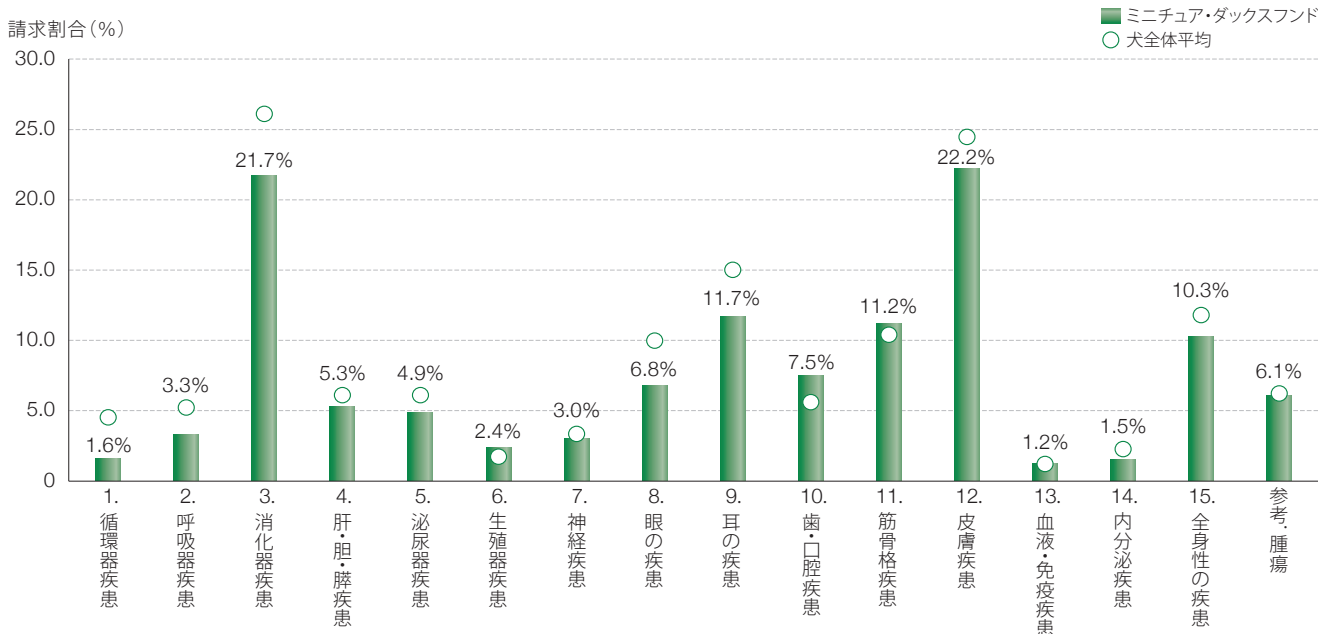
2-2-10~2-2-12 / 対象 : 56,284頭 (柴、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

5. ミニチュア・ダックスフンド



2-2-13 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-14 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・ダックスフンド	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	椎間板ヘルニア	2,227	4.9%	1.5%	112,726	22,870	10	4.07	3.88	4.27
2	歯根膿瘍/根尖膿瘍	377	0.8%	0.3%	49,688	32,555	12	3.43	3.06	3.84
3	乳腺腫瘍/乳腺腫瘍	288	0.6%	0.3%	121,194	99,099	12	2.36	2.08	2.67
4	脂肪腫	385	0.8%	0.5%	25,082	6,600	10	1.85	1.66	2.06
5	副腎皮質機能亢進症・クッシング症候群	258	0.6%	0.4%	148,502	113,428	12	1.69	1.48	1.92
6	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	2,581	5.6%	3.7%	61,221	48,180	12	1.64	1.57	1.71
7	腰痛(原因未定)	557	1.2%	0.8%	18,685	9,559	10	1.62	1.49	1.77
8	アレルギー(詳細不明)	289	0.6%	0.5%	24,510	9,746	0	1.29	1.15	1.46
9	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎	263	0.6%	0.5%	36,962	14,630	12	1.29	1.13	1.46
10	肛門嚢(腺)炎/肛門嚢(腺)破裂	430	0.9%	0.8%	17,570	8,998	11	1.22	1.11	1.35
11	膵炎	452	1.0%	0.8%	108,892	53,856	12	1.18	1.08	1.30
12	尿の性状異常(原因未定)	319	0.7%	0.6%	17,486	10,164	12	1.18	1.05	1.32
13	肝炎	264	0.6%	0.5%	85,245	44,000	12	1.14	1.01	1.30
14	その他の肝/胆道系疾患	480	1.0%	0.9%	94,809	42,884	12	1.12	1.02	1.23
15	膿皮症/細菌性皮膚炎	2,444	5.3%	5.1%	25,301	11,990	0	1.05	1.01	1.10

2-2-15 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・ダックスフンド	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	441	1.0%	2.6%	109,509	60,170	12	0.35	0.32	0.39
2	尿石症	253	0.6%	0.9%	25,698	16,610	1、10	0.58	0.51	0.66
3	発咳(原因未定)	433	0.9%	1.5%	20,389	10,670	0	0.61	0.56	0.68
4	気管炎/気管支炎	232	0.5%	0.8%	23,005	13,860	0	0.62	0.54	0.71
5	アトピー性皮膚炎	694	1.5%	2.3%	65,729	41,668	5	0.65	0.60	0.70

2-2-13~2-2-15 / 対象: 45,755頭 (ミニチュア・ダックスフンド、0~12歳)

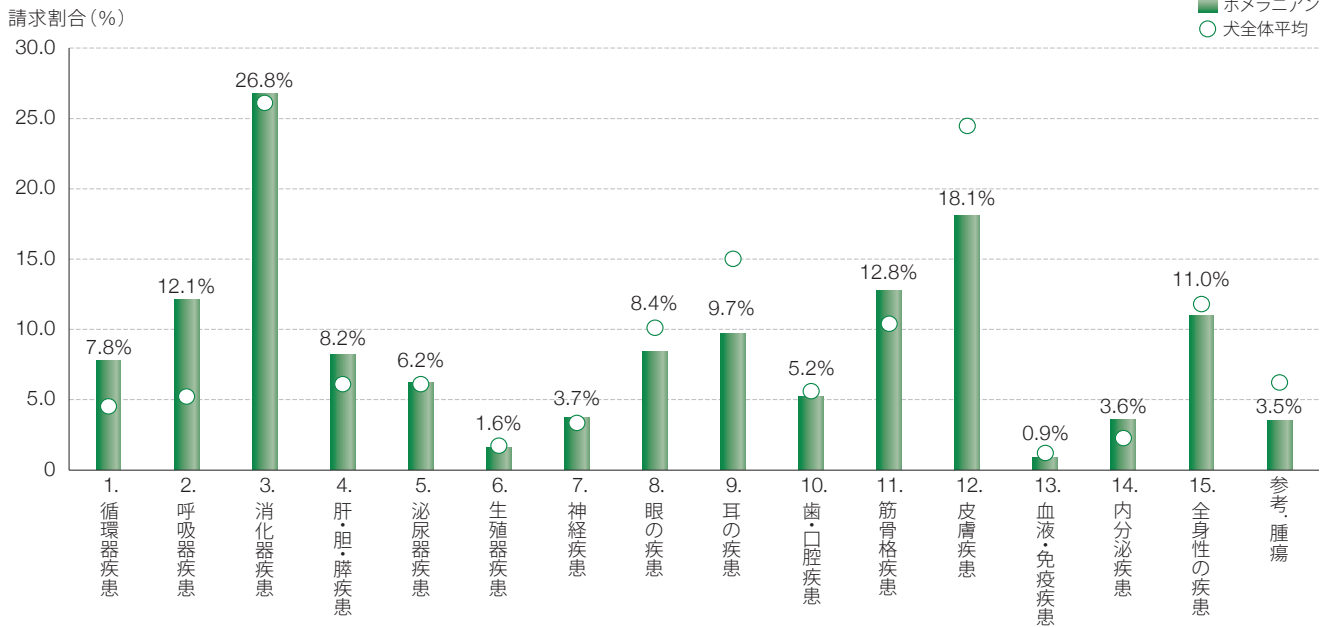


第2部 第2章 品種別の統計

6. ポメラニアン



2-2-16 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ペット犬の疾患統計

2-2-17 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ポメラニアン	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	気管虚脱	817	2.6%	0.6%	65,266	19,800	9	5.52	5.11	5.96
2	骨折 (前肢)	327	1.1%	0.3%	242,322	171,010	0	4.22	3.74	4.75
3	脱毛 (原因未定)	516	1.7%	0.5%	45,278	20,015	2	3.47	3.16	3.81
4	気管炎/気管支炎	604	1.9%	0.8%	27,702	13,587	0	2.65	2.43	2.88
5	膝蓋骨 (皿) 脱臼	1,225	3.9%	1.7%	75,330	11,550	0	2.54	2.39	2.70
6	股関節形成不全/ (皿) 脱臼	168	0.5%	0.2%	135,985	48,956	1、6	2.46	2.10	2.89
7	発咳 (原因未定)	1,028	3.3%	1.5%	27,007	11,138	0	2.39	2.23	2.55
8	甲状腺機能低下症	348	1.1%	0.7%	74,272	45,403	11	1.78	1.60	1.99
9	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群	196	0.6%	0.4%	14,510	8,085	0	1.65	1.43	1.91
10	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	354	1.1%	0.8%	17,883	8,140	0	1.52	1.36	1.69
11	その他の呼吸器疾患	256	0.8%	0.6%	42,310	16,588	0	1.50	1.32	1.71
12	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫	210	0.7%	0.5%	15,598	5,489	2	1.49	1.30	1.72
13	弁膜症	1,133	3.6%	2.6%	144,107	87,476	11	1.46	1.37	1.55
14	検査値上の異常 (臨床症状なし)	237	0.8%	0.5%	29,417	11,745	0	1.42	1.25	1.62
15	捻挫	192	0.6%	0.4%	8,027	6,424	0	1.42	1.22	1.64

2-2-18 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ポメラニアン	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	アトピー性皮膚炎	282	0.9%	2.3%	42,253	25,823	1	0.38	0.34	0.43
2	その他の皮膚の腫瘍	306	1.0%	2.4%	34,137	10,780	12	0.39	0.35	0.44
3	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	512	1.6%	3.5%	42,198	19,891	2	0.45	0.41	0.49
4	白内障	165	0.5%	1.1%	76,526	15,593	12	0.48	0.41	0.56
5	マラセチア性外耳炎	328	1.1%	1.9%	15,551	11,110	0	0.53	0.48	0.59

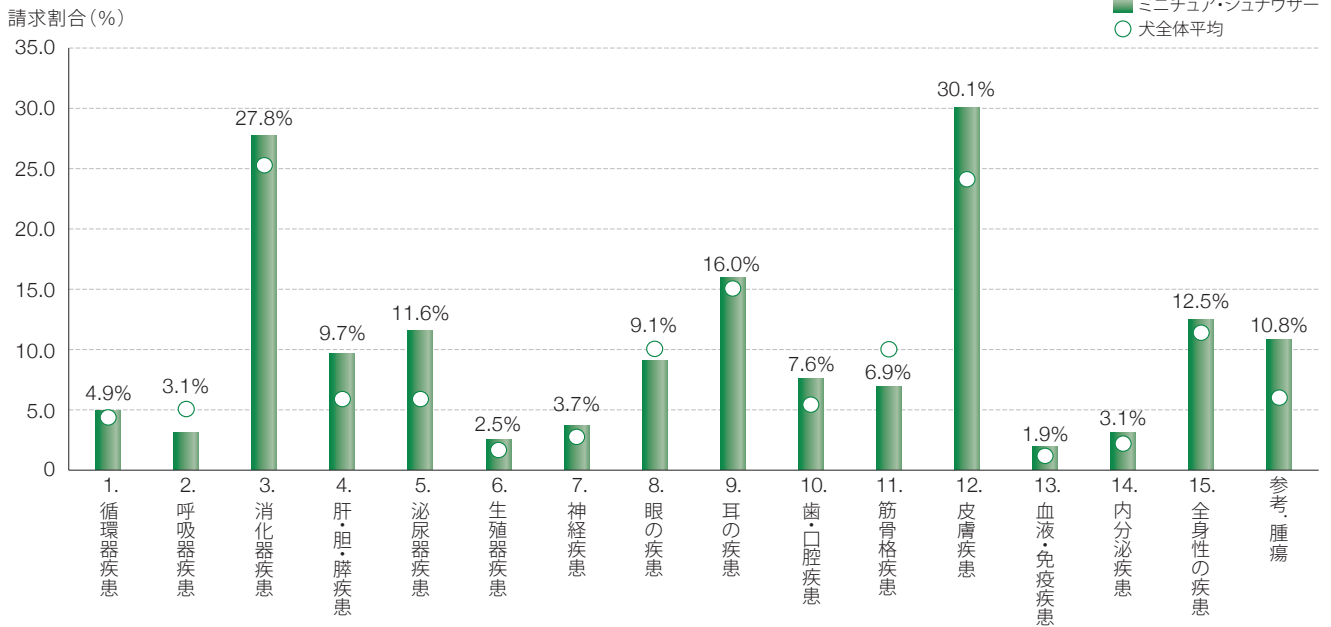
2-2-16~2-2-18 / 対象 : 31,092頭 (ポメラニアン、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

7. ミニチュア・シュナウザー



2-2-19 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-20 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・シュナウザー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	高脂血症	203	0.9%	0.3%	65,368	31,735	9	3.16	2.73	3.65
2	膀胱結石	462	2.1%	0.8%	80,124	37,326	7	2.89	2.63	3.19
3	尿石症	465	2.1%	0.9%	42,561	19,657	2	2.38	2.17	2.62
4	皮下膿瘍	138	0.6%	0.3%	20,817	9,966	6	2.36	1.99	2.81
5	脂肪腫	227	1.0%	0.5%	28,167	5,290	7	2.19	1.92	2.51
6	膀胱炎	905	4.0%	2.2%	27,406	14,300	2	1.96	1.83	2.10
7	その他の皮膚の腫瘍	985	4.4%	2.4%	34,019	11,473	7	1.92	1.80	2.05
8	糖尿病	154	0.7%	0.4%	226,650	157,047	12	1.89	1.60	2.22
9	病理学的未定の皮膚腫瘍	363	1.6%	0.9%	43,983	14,616	7	1.87	1.68	2.08
10	尿の性状異常 (原因未定)	242	1.1%	0.6%	23,549	13,206	2	1.86	1.63	2.12
11	亀頭炎/包皮炎	113	0.5%	0.3%	13,644	6,083	1	1.79	1.48	2.17
12	胆泥症	471	2.1%	1.3%	79,292	42,229	11	1.70	1.55	1.87
13	趾間皮膚炎	556	2.5%	1.6%	12,061	7,226	1	1.65	1.51	1.80
14	全身性の腫瘍	230	1.0%	0.7%	62,058	17,306	7	1.56	1.36	1.78
15	その他の肝/胆道系疾患	321	1.4%	0.9%	89,357	37,290	12	1.55	1.39	1.74

2-2-21 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・シュナウザー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	疼痛 (原因未定)	150	0.7%	1.3%	18,111	8,525	7	0.52	0.44	0.61
2	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	114	0.5%	1.0%	22,966	11,275	8	0.52	0.43	0.63
3	椎間板ヘルニア	179	0.8%	1.5%	55,986	16,905	11	0.53	0.46	0.61
4	発咳 (原因未定)	184	0.8%	1.5%	15,893	9,636	0	0.54	0.46	0.62
5	その他の眼科疾患	167	0.7%	1.2%	26,818	8,848	9	0.60	0.52	0.70

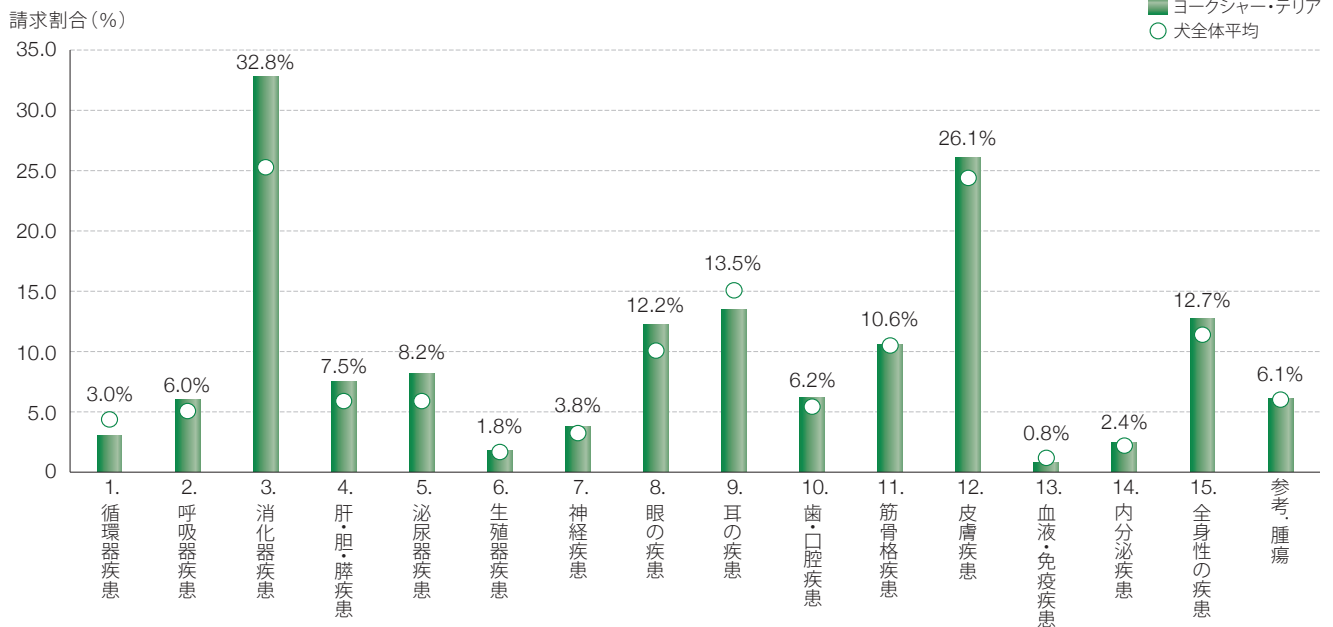
2-2-19~2-2-21 / 対象: 22,399頭 (ミニチュア・シュナウザー、0~12歳)

## 第2部 第2章 品種別の統計

## 8. ヨークシャー・テリア



## 2-2-22 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-23 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ヨークシャー・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	タンパク喪失性腸症	120	0.7%	0.2%	187,175	127,336	11	3.32	2.75	4.00
2	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	178	1.0%	0.4%	46,255	24,280	10	2.49	2.14	2.90
3	慢性腎臓病 (腎不全含む)	284	1.6%	0.7%	115,363	57,789	12	2.48	2.20	2.80
4	十字靭帯損傷・断裂 (前/後)	172	0.9%	0.4%	227,610	86,629	7	2.46	2.11	2.87
5	目やに (原因未定)	267	1.5%	0.7%	12,685	8,580	0	2.30	2.03	2.60
6	膵炎	297	1.6%	0.8%	96,164	55,869	12	2.00	1.78	2.25
7	気管虚脱	204	1.1%	0.6%	73,904	21,621	11	1.99	1.73	2.30
8	副腎皮質機能亢進症・クッシング症候群	123	0.7%	0.4%	129,990	93,529	12	1.99	1.66	2.39
9	その他の泌尿器疾患	501	2.8%	1.6%	36,247	13,530	12	1.83	1.67	2.01
10	膀胱結石	217	1.2%	0.8%	85,182	38,544	8	1.59	1.39	1.83
11	糖尿病	106	0.6%	0.4%	228,995	191,146	10、11、12	1.58	1.30	1.92
12	膿皮症/細菌性皮膚炎	1,330	7.3%	5.1%	28,901	12,394	3	1.49	1.41	1.58
13	白内障	283	1.6%	1.1%	50,937	14,135	12	1.47	1.31	1.66
14	膝蓋骨 (皿) 脱臼	441	2.4%	1.7%	77,728	12,430	0	1.46	1.33	1.61
15	胆泥症	330	1.8%	1.3%	71,604	43,868	9	1.45	1.30	1.62

## 2-2-24 他犬種に比べ罹りにくい疾患

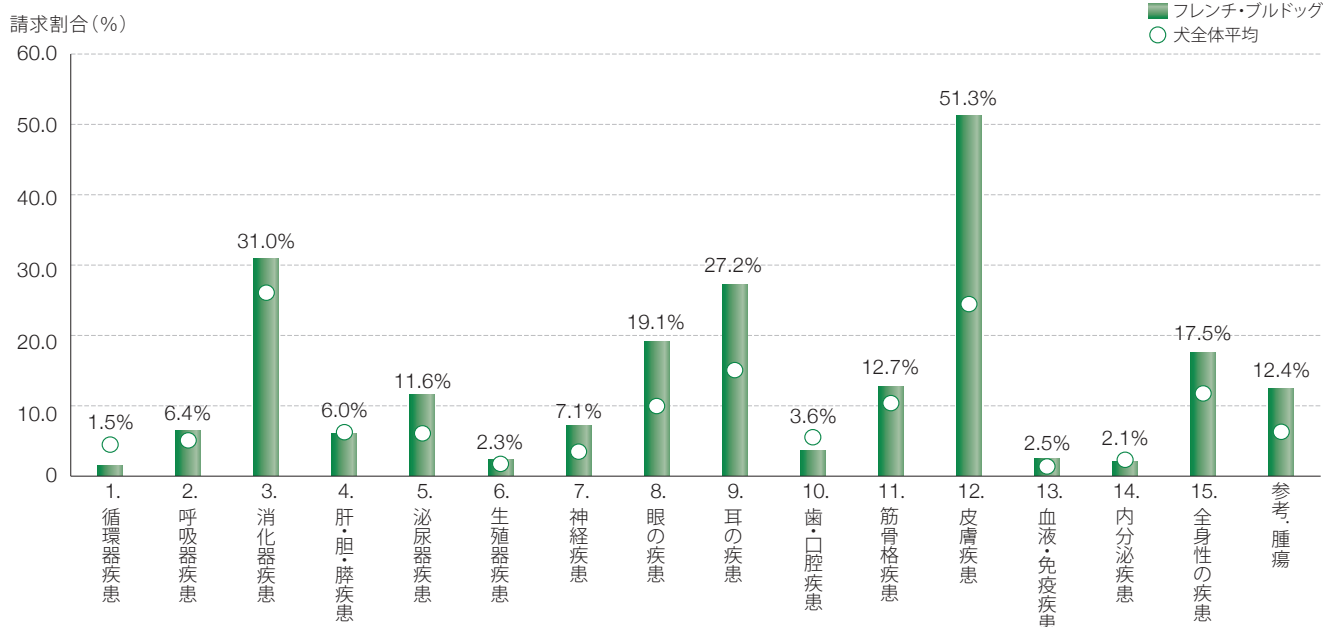
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ヨークシャー・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	椎間板ヘルニア	158	0.9%	1.5%	67,599	16,519	9、10	0.58	0.49	0.68
2	弁膜症	312	1.7%	2.6%	110,843	64,240	12	0.65	0.58	0.73
3	疼痛 (原因未定)	154	0.8%	1.3%	13,432	8,690	8、12	0.66	0.56	0.78
4	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	96	0.5%	0.8%	18,874	10,340	0	0.68	0.55	0.83
5	マラセチア性外耳炎	253	1.4%	1.9%	18,318	11,781	0	0.71	0.63	0.81

2-2-22～2-2-24 / 対象：18,153頭 (ヨークシャー・テリア、0～12歳)

## 9. フレンチ・ブルドッグ



### 2-2-25 疾患（大分類単位）の請求割合



### 2-2-26 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			フレンチ・ブルドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	軟口蓋過長症	177	1.3%	0.1%	149,264	126,412	0	24.06	20.10	28.80
2	中耳炎	84	0.6%	0.1%	157,772	62,177	6	12.79	10.06	16.26
3	耳血腫	131	0.9%	0.1%	42,704	24,090	5	10.00	8.29	12.07
4	熱中症	79	0.6%	0.1%	57,129	23,529	2	5.78	4.58	7.30
5	麻痺 (原因未定)	79	0.6%	0.1%	92,841	29,116	2	5.26	4.17	6.63
6	組織球腫 (皮膚)	77	0.6%	0.1%	25,665	9,680	0	4.16	3.30	5.26
7	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	502	3.6%	1.0%	36,745	17,248	8	4.10	3.74	4.50
8	膿皮症/細菌性皮膚炎	2,331	16.8%	5.1%	36,412	17,107	0	3.96	3.78	4.14
9	アトピー性皮膚炎	1,068	7.7%	2.3%	87,847	56,925	2	3.76	3.53	4.02
10	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	1,554	11.2%	3.5%	70,840	39,952	2	3.61	3.42	3.81
11	アレルギー (詳細不明)	233	1.7%	0.5%	25,294	11,990	1、2	3.58	3.13	4.10
12	その他の呼吸器疾患	256	1.8%	0.6%	122,964	48,840	0	3.49	3.07	3.97
13	肺炎	83	0.6%	0.2%	115,995	74,635	0	3.13	2.51	3.91
14	外傷性角膜炎 (異物含む)	174	1.3%	0.4%	24,934	13,336	5、7	3.09	2.65	3.60
15	椎間板ヘルニア	571	4.1%	1.5%	117,796	21,741	3	2.97	2.73	3.24

### 2-2-27 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			フレンチ・ブルドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	161	1.2%	3.7%	53,172	23,750	5	0.31	0.26	0.36
2	膝蓋骨 (皿) 脱臼	112	0.8%	1.7%	89,539	12,816	1	0.47	0.39	0.56
3	発咳 (原因未定)	115	0.8%	1.5%	16,967	12,430	0	0.55	0.45	0.66
4	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	70	0.5%	0.8%	21,561	8,791	0	0.65	0.51	0.82
5	気管炎/気管支炎	75	0.5%	0.8%	29,480	15,730	0	0.67	0.54	0.85

2-2-25~2-2-27 / 対象: 13,864頭 (フレンチ・ブルドッグ、0~12歳)

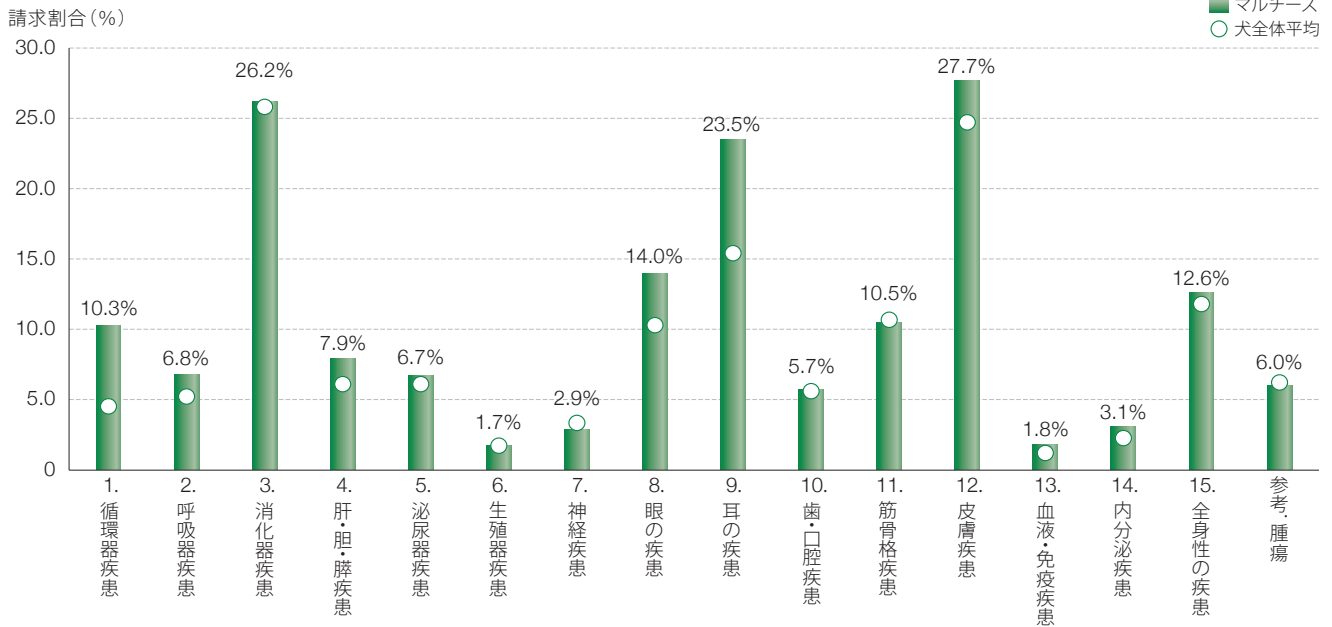


第2部 第2章 品種別の統計

10. マルチーズ



2-2-28 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ページの疾患統計

2-2-29 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			マルチーズ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	322	2.5%	0.8%	21,697	10,615	0	3.39	3.02	3.80
2	弁膜症	696	5.3%	2.6%	179,859	90,266	11	2.16	2.00	2.34
3	結膜炎 (結膜浮腫含む)	730	5.6%	3.0%	12,448	7,700	0	1.91	1.77	2.06
4	膀胱結石	180	1.4%	0.8%	95,246	34,639	9	1.83	1.58	2.13
5	アレルギー性外耳炎	146	1.1%	0.6%	30,317	14,575	2	1.81	1.54	2.14
6	眼瞼炎	136	1.0%	0.6%	17,275	7,656	0	1.80	1.52	2.14
7	その他の循環器疾患	146	1.1%	0.6%	77,121	23,837	12	1.79	1.52	2.11
8	目やに (原因未定)	148	1.1%	0.7%	8,624	5,803	0	1.72	1.46	2.03
9	原因未定の外耳炎	1,964	15.0%	9.4%	20,983	11,783	0	1.71	1.63	1.80
10	細菌性外耳炎	634	4.8%	3.0%	18,203	10,780	2	1.66	1.53	1.80
11	その他の耳の疾患	114	0.9%	0.5%	21,176	9,785	0	1.62	1.35	1.96
12	耳の痒み (原因未定)	240	1.8%	1.2%	14,689	8,250	0	1.60	1.41	1.83
13	マラセチア性外耳炎	395	3.0%	1.9%	19,689	11,748	2	1.60	1.44	1.77
14	肝酵素上昇 (原因未定)	264	2.0%	1.3%	51,109	25,498	0	1.57	1.38	1.77
15	膝蓋骨 (皿) 脱臼	321	2.4%	1.7%	59,178	10,477	0	1.47	1.32	1.65

2-2-30 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			マルチーズ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	てんかん	97	0.7%	1.3%	84,181	50,520	11	0.57	0.47	0.70
2	腰痛 (原因未定)	66	0.5%	0.8%	14,958	9,350	9	0.64	0.50	0.81
3	白内障	94	0.7%	1.1%	60,071	12,766	9, 11	0.66	0.54	0.81
4	椎間板ヘルニア	131	1.0%	1.5%	93,917	23,444	11	0.67	0.56	0.80
5	膵炎	75	0.6%	0.8%	80,639	52,140	10, 11, 12	0.67	0.53	0.84

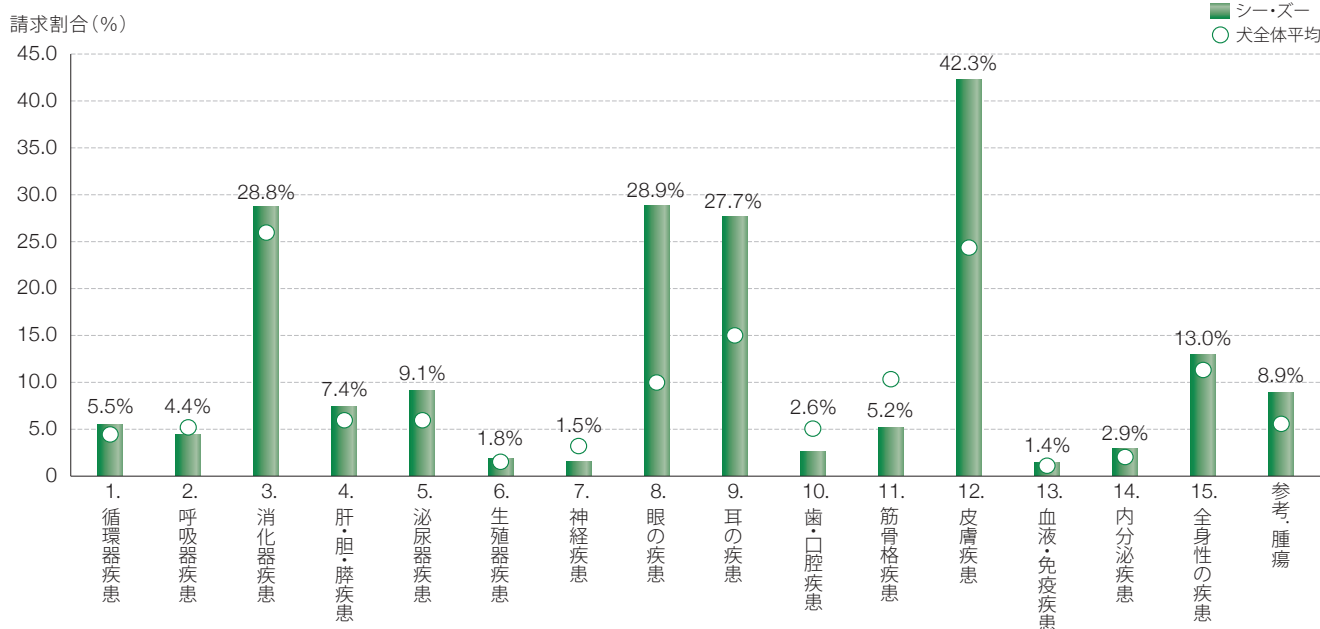
2-2-28~2-2-30 / 対象: 13,106頭 (マルチーズ、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

11. シー・ズー



2-2-31 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-32 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			シー・ズー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	睫毛の疾患(睫毛乱生/睫毛重生/異所性の睫毛含む)	203	1.6%	0.1%	31,093	17,938	2	14.94	12.78	17.46
2	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	407	3.2%	0.4%	48,870	22,208	9	9.18	8.25	10.21
3	脂漏症	146	1.2%	0.2%	66,797	35,596	7	7.72	6.49	9.19
4	潰瘍性角膜炎(角膜びらん含む)	702	5.5%	1.0%	42,979	19,140	5	6.63	6.12	7.18
5	その他の角膜炎(パンヌス含む)	548	4.3%	0.8%	26,588	12,865	1	6.44	5.89	7.05
6	マラセチア性皮膚炎	550	4.3%	0.8%	56,791	26,445	5	6.15	5.62	6.73
7	外傷性角膜炎(異物含む)	251	2.0%	0.4%	21,753	12,540	0	5.05	4.43	5.75
8	緑内障	114	0.9%	0.2%	100,405	54,028	12	4.14	3.42	5.01
9	その他の眼科疾患	446	3.5%	1.2%	34,136	11,340	0	3.07	2.78	3.38
10	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫	169	1.3%	0.5%	23,018	7,940	2	3.01	2.58	3.52
11	ブドウ膜炎(虹彩炎/前眼房出血含む)	79	0.6%	0.2%	39,506	18,920	8、11	2.89	2.30	3.62
12	膀胱結石	261	2.1%	0.8%	83,849	31,860	9	2.82	2.48	3.19
13	目やに(原因未定)	227	1.8%	0.7%	14,751	8,470	0	2.80	2.45	3.20
14	流涙症(涙やけ/涙管閉塞含む)	249	2.0%	0.8%	23,989	10,635	0	2.66	2.34	3.02
15	結膜炎(結膜浮腫含む)	940	7.4%	3.0%	17,186	8,360	0	2.63	2.45	2.81

2-2-33 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			シー・ズー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	213	1.7%	3.7%	55,089	42,900	6	0.45	0.39	0.51
2	歩行異常/跛行/四肢の痛み(原因未定)	269	2.1%	3.7%	13,849	9,020	3	0.56	0.49	0.63
3	関節炎	80	0.6%	0.9%	26,194	11,110	9、10	0.69	0.55	0.86
4	気管炎/気管支炎	76	0.6%	0.8%	15,466	11,797	0	0.75	0.60	0.94
5	消化管内異物/誤飲	452	3.6%	4.6%	31,243	13,970	0	0.77	0.70	0.84

2-2-31~2-2-33 / 対象: 12,675頭 (シー・ズー、0~12歳)



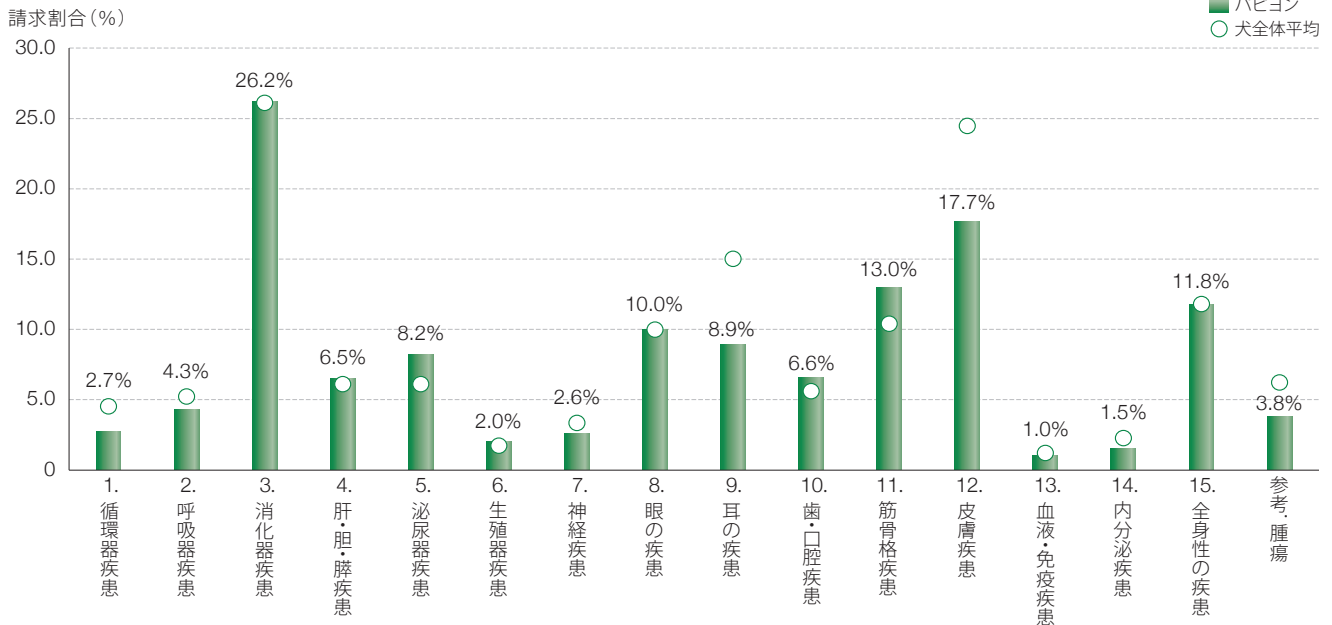


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 12. パピヨン



#### 2-2-34 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-35 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			パピヨン	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	タンパク喪失性腸症	49	0.6%	0.2%	125,135	108,301	9	2.91	2.19	3.87
2	膀胱結石	149	1.8%	0.8%	102,312	41,260	9	2.46	2.09	2.90
3	慢性腎臓病 (腎不全含む)	112	1.4%	0.7%	90,836	44,248	12	2.12	1.76	2.56
4	腰痛 (原因未定)	130	1.6%	0.8%	18,153	8,800	11	2.08	1.74	2.48
5	乳腺腫瘍/乳腺腫瘍	43	0.5%	0.3%	147,585	95,050	10	1.83	1.35	2.48
6	疼痛 (原因未定)	177	2.2%	1.3%	13,133	8,195	9	1.75	1.50	2.03
7	その他の泌尿器疾患	211	2.6%	1.6%	31,623	12,430	12	1.69	1.48	1.95
8	胆泥症	161	2.0%	1.3%	83,501	51,662	12	1.58	1.35	1.84
9	検査値上の異常 (臨床症状なし)	69	0.8%	0.5%	35,958	22,440	12	1.56	1.23	1.98
10	膝蓋骨 (亜) 脱臼	209	2.6%	1.7%	85,083	11,849	0	1.54	1.34	1.77
11	十字靭帯損傷・断裂 (前/後)	48	0.6%	0.4%	205,881	47,277	10、11	1.48	1.11	1.97
12	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	421	5.2%	3.7%	55,634	43,450	12	1.44	1.31	1.59
13	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	111	1.4%	1.0%	36,448	16,830	12	1.43	1.19	1.73
14	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	89	1.1%	0.8%	16,078	9,686	12	1.41	1.14	1.74
15	肝酵素上昇 (原因未定)	147	1.8%	1.3%	49,943	25,300	11	1.39	1.18	1.64

#### 2-2-36 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			パピヨン	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	マラセチア性外耳炎	69	0.8%	1.9%	13,367	8,990	0、11	0.43	0.34	0.55
2	その他の皮膚の腫瘍	95	1.2%	2.4%	60,007	14,443	12	0.48	0.39	0.58
3	原因未定の外耳炎	433	5.3%	9.4%	16,423	9,289	0	0.54	0.49	0.59
4	細菌性外耳炎	140	1.7%	3.0%	14,152	9,065	9	0.56	0.48	0.67
5	膿皮症/細菌性皮膚炎	249	3.1%	5.1%	22,284	10,380	7	0.58	0.51	0.66

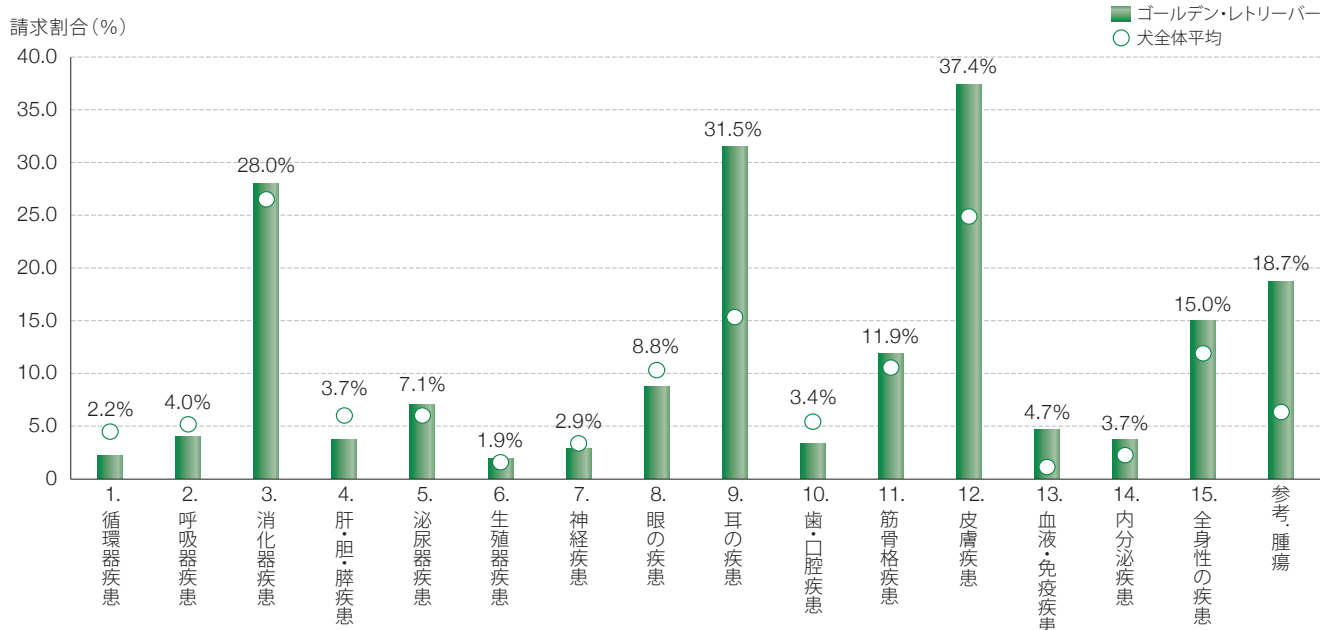
2-2-34~2-2-36 / 対象：8,144頭 (パピヨン、0~12歳)

## 第2部 第2章 品種別の統計

## 13. ゴールデン・レトリバー



## 2-2-37 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-38 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ゴールデン・レトリバー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	耳血腫	153	1.7%	0.1%	50,255	21,247	8	18.52	15.50	22.12
2	血管肉腫	46	0.5%	0.0%	125,067	77,402	10	14.00	10.22	19.19
3	その他のリンパ組織/造血組織の腫瘍	116	1.3%	0.2%	177,984	82,952	10	7.12	5.88	8.63
4	股関節形成不全/(亜)脱臼	140	1.5%	0.2%	116,763	28,270	0	7.12	5.98	8.47
5	脾臓の異常	53	0.6%	0.1%	163,303	91,351	8、10	5.71	4.32	7.56
6	口腔内の腫瘍	57	0.6%	0.2%	124,016	76,175	7、8	4.30	3.29	5.62
7	肝/胆道/膵の腫瘍	57	0.6%	0.2%	151,921	56,898	10、11、12	3.65	2.80	4.77
8	脂肪腫	149	1.6%	0.5%	26,108	10,153	9	3.52	2.98	4.15
9	全身性の腫瘍	197	2.1%	0.7%	127,371	31,916	8	3.34	2.89	3.85
10	甲状腺機能低下症	175	1.9%	0.7%	115,682	80,006	9	3.04	2.61	3.54
11	その他の皮膚の腫瘍	600	6.5%	2.4%	69,569	20,318	9	2.91	2.67	3.16
12	爪の外傷	82	0.9%	0.3%	10,169	7,447	1	2.89	2.32	3.61
13	病理学的未定の皮膚腫瘍	213	2.3%	0.9%	62,300	26,730	9	2.69	2.34	3.08
14	マラセチア性外耳炎	448	4.9%	1.9%	21,730	13,975	0	2.67	2.42	2.94
15	皮下膿瘍	65	0.7%	0.3%	51,911	13,090	9	2.66	2.08	3.41

## 2-2-39 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ゴールデン・レトリバー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	47	0.5%	2.6%	168,190	60,335	9	0.19	0.14	0.26
2	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	119	1.3%	3.7%	70,046	50,600	7	0.34	0.29	0.41
3	肝酵素上昇(原因未定)	46	0.5%	1.3%	62,135	23,925	11	0.38	0.28	0.50
4	疼痛(原因未定)	56	0.6%	1.3%	27,361	11,660	0、1、2、9	0.48	0.36	0.62
5	てんかん	62	0.7%	1.3%	166,309	106,759	7、10	0.52	0.41	0.67

2-2-37~2-2-39 / 対象: 9,178頭 (ゴールデン・レトリバー、0~12歳)

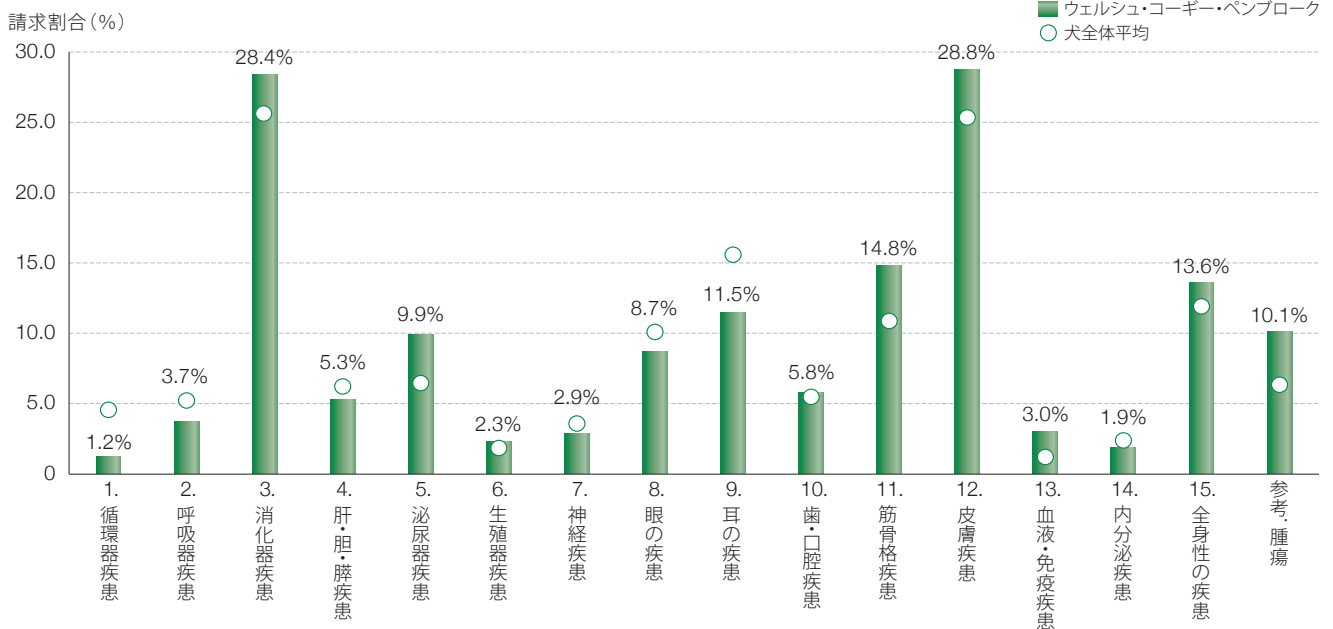


第2部 第2章 品種別の統計

14. ウェルシュ・コーギー・ペンブローク



2-2-40 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ペンブロークの疾患統計

2-2-41 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	その他のリンパ組織/造血組織の腫瘍	61	0.7%	0.2%	236,444	97,647	11	3.98	3.07	5.15
2	口腔内外傷 (歯折など含む)	69	0.8%	0.2%	77,837	67,320	1、2	3.61	2.83	4.60
3	関節炎	183	2.2%	0.9%	33,170	13,882	10	2.52	2.17	2.92
4	捻挫	81	1.0%	0.4%	9,067	6,545	0	2.25	1.81	2.81
5	脂肪腫	86	1.0%	0.5%	26,225	7,975	9	2.21	1.78	2.74
6	尿の性状異常 (原因未定)	105	1.3%	0.6%	32,442	11,589	9	2.17	1.78	2.64
7	十字靭帯損傷・断裂 (前/後)	67	0.8%	0.4%	251,022	62,887	5	2.06	1.61	2.62
8	爪の外傷	53	0.6%	0.3%	11,826	7,500	2、5	2.05	1.56	2.70
9	膀胱炎	345	4.2%	2.2%	29,995	16,280	11	2.00	1.79	2.23
10	その他の口腔内疾患	47	0.6%	0.3%	27,772	9,020	0、1	1.96	1.47	2.62
11	皮下膿瘍	42	0.5%	0.3%	42,584	20,130	9	1.89	1.39	2.57
12	歩行異常/跛行/四肢の痛み (原因未定)	549	6.7%	3.7%	23,554	10,120	0	1.87	1.71	2.04
13	多飲多尿 (原因未定)	43	0.5%	0.3%	24,947	18,810	10	1.66	1.23	2.25
14	外傷 (挫傷/擦過傷/打撲)	390	4.7%	3.0%	12,021	6,220	0	1.63	1.47	1.81
15	尿石症	118	1.4%	0.9%	34,665	19,866	6	1.58	1.31	1.89

2-2-42 他犬種に比べ罹りにくい疾患

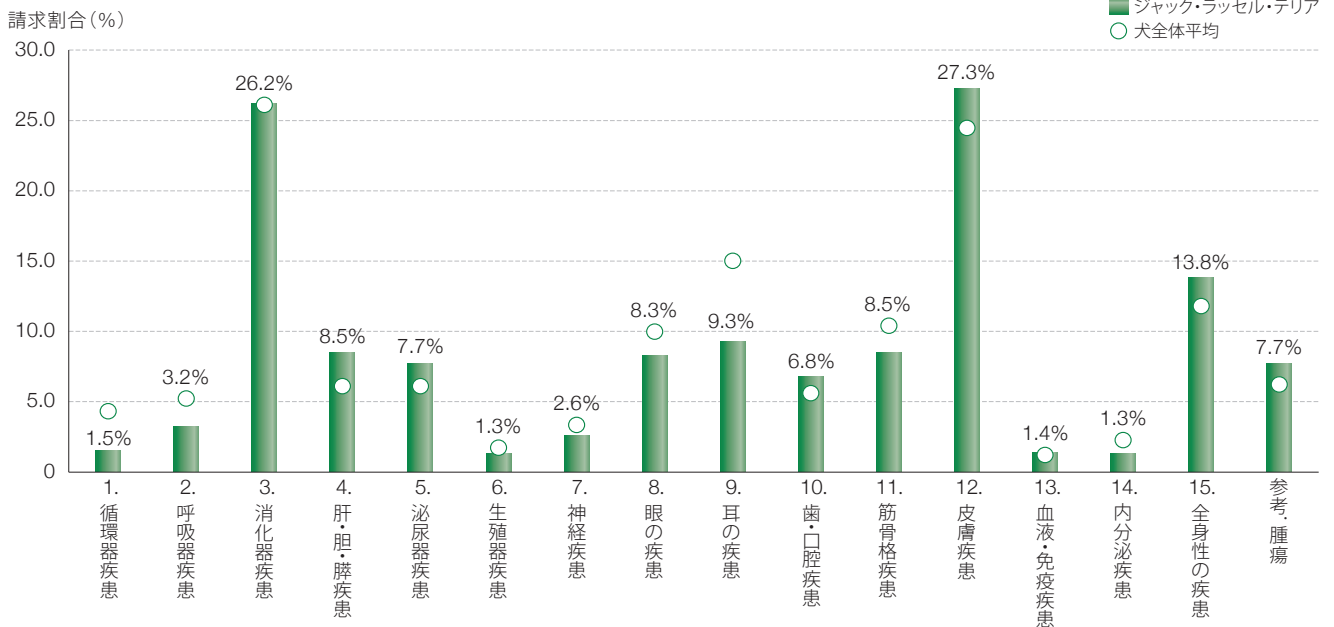
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	発咳 (原因未定)	68	0.8%	1.5%	18,531	10,450	0	0.54	0.43	0.69
2	マラセチア性外耳炎	96	1.2%	1.9%	20,884	11,484	0	0.60	0.49	0.73
3	耳の痒み (原因未定)	60	0.7%	1.2%	11,744	8,950	0	0.62	0.48	0.80
4	てんかん	70	0.8%	1.3%	112,265	80,130	9	0.66	0.52	0.84
5	疼痛 (原因未定)	70	0.8%	1.3%	15,778	10,247	11	0.66	0.52	0.84

2-2-40~2-2-42 / 対象：8,246頭 (ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、0~12歳)

## 15. ジャック・ラッセル・テリア



## 2-2-43 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-44 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ジャック・ラッセル・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	爪の外傷	63	0.9%	0.3%	6,818	4,455	4	2.87	2.23	3.69
2	咬傷	61	0.9%	0.3%	30,329	9,014	1	2.85	2.21	3.68
3	タンパク喪失性腸症	37	0.5%	0.2%	154,779	82,538	9	2.51	1.81	3.49
4	口腔内外傷（歯折など含む）	38	0.5%	0.2%	59,584	33,770	0, 3	2.27	1.65	3.14
5	十字靭帯損傷・断裂（前/後）	62	0.9%	0.4%	180,542	40,959	10	2.22	1.72	2.86
6	全身性の腫瘍	102	1.4%	0.7%	81,824	23,760	11	2.19	1.80	2.67
7	肝炎	75	1.1%	0.5%	58,233	29,150	11	2.12	1.68	2.67
8	肝酵素上昇（原因未定）	190	2.7%	1.3%	50,297	28,394	9	2.11	1.82	2.44
9	ふるえ・振戦（原因未定）	40	0.6%	0.3%	22,060	14,630	10, 11	2.09	1.53	2.86
10	歯根膿瘍/根尖膿瘍	38	0.5%	0.3%	50,453	24,255	8	1.95	1.41	2.68
11	その他の肝/胆道系疾患	119	1.7%	0.9%	95,120	43,340	12	1.81	1.51	2.18
12	外傷（挫傷/擦過傷/打撲）	367	5.2%	3.0%	11,684	5,500	0	1.80	1.62	2.00
13	ノミ/マダニ等の外部寄生虫症	44	0.6%	0.4%	9,995	5,060	2	1.79	1.32	2.41
14	尿石症	113	1.6%	0.9%	36,343	19,244	2	1.76	1.46	2.13
15	尿の性状異常（原因未定）	71	1.0%	0.6%	24,779	12,150	2	1.69	1.34	2.15

## 2-2-45 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ジャック・ラッセル・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	54	0.8%	2.6%	94,217	77,010	12	0.29	0.22	0.38
2	膝蓋骨（皿）脱臼	37	0.5%	1.7%	41,619	10,560	1	0.30	0.22	0.42
3	椎間板ヘルニア	48	0.7%	1.5%	49,851	19,470	9	0.45	0.34	0.60
4	マラセチア性外耳炎	76	1.1%	1.9%	15,127	10,285	0	0.55	0.44	0.69
5	疼痛（原因未定）	50	0.7%	1.3%	16,527	6,006	5, 8, 11	0.55	0.42	0.73

2-2-43～2-2-45 / 対象：7,069 頭（ジャック・ラッセル・テリア、0～12歳）

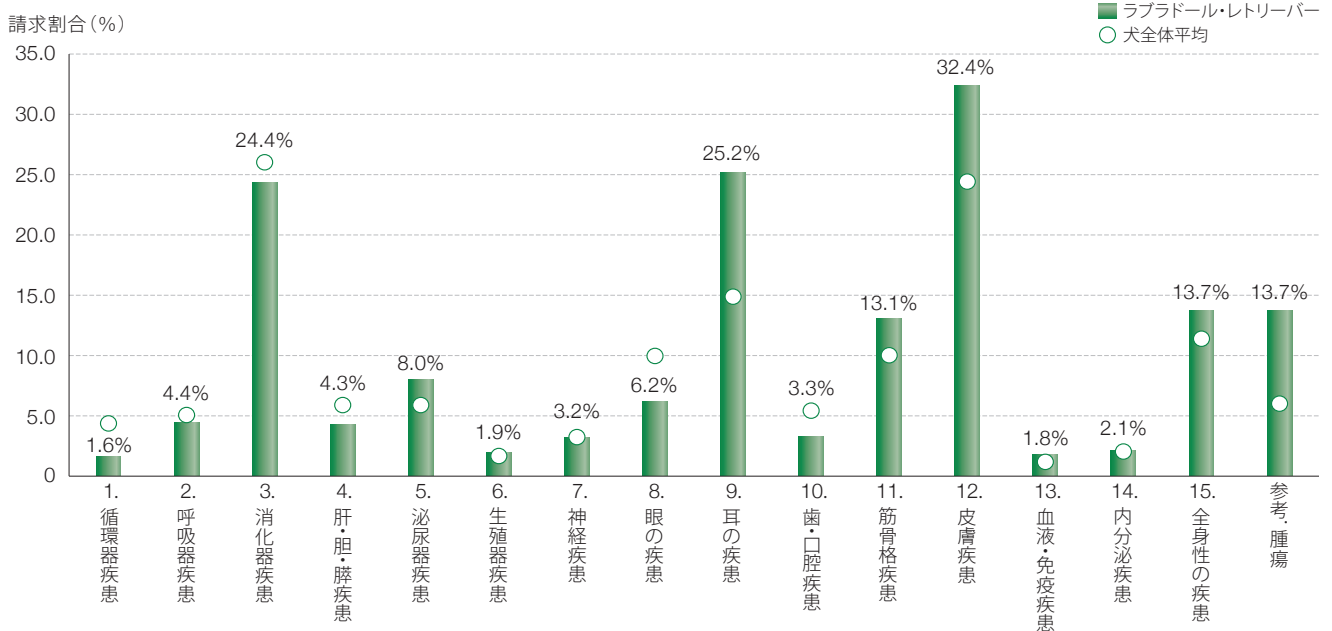


第2部 第2章 品種別の統計

16. ラブラドル・レトリバー



2-2-46 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-47 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ラブラドル・レトリバー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	耳血腫	39	0.6%	0.1%	47,346	24,492	9	5.24	3.80	7.24
2	肥満細胞腫 (皮膚)	40	0.6%	0.1%	164,637	153,061	8	4.64	3.38	6.38
3	股関節形成不全/ (皿) 脱臼	66	0.9%	0.2%	104,402	23,100	0	4.21	3.29	5.39
4	脂肪腫	126	1.8%	0.5%	35,565	8,250	8	3.92	3.28	4.69
5	全身性の腫瘍	127	1.8%	0.7%	74,419	22,550	8	2.80	2.34	3.34
6	十字靭帯損傷・断裂 (前/後)	69	1.0%	0.4%	311,101	149,880	2, 10	2.52	1.98	3.21
7	マラセチア性外耳炎	320	4.6%	1.9%	26,282	14,460	1	2.49	2.22	2.79
8	関節炎	152	2.2%	0.9%	42,894	16,003	11	2.47	2.10	2.91
9	口腔内外傷 (歯折など含む)	39	0.6%	0.2%	80,932	59,210	5	2.37	1.73	3.26
10	皮下膿瘍	40	0.6%	0.3%	38,572	13,816	3, 6, 8, 9	2.14	1.56	2.93
11	咬傷	45	0.6%	0.3%	11,367	6,619	2	2.12	1.58	2.85
12	病理学的未定の皮膚腫瘍	124	1.8%	0.9%	51,345	17,855	10	2.03	1.70	2.43
13	その他の皮膚の腫瘍	321	4.6%	2.4%	61,985	21,395	8, 9, 11	1.98	1.77	2.22
14	原因未定の外耳炎	1,110	16.0%	9.4%	26,850	13,970	1	1.84	1.72	1.96
15	アレルギー (詳細不明)	57	0.8%	0.5%	28,100	13,959	0, 1	1.66	1.28	2.16

2-2-48 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ラブラドル・レトリバー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	86	1.2%	3.7%	58,200	38,473	11	0.33	0.27	0.41
2	その他の眼科疾患	39	0.6%	1.2%	18,756	10,120	9	0.46	0.33	0.62
3	白内障	37	0.5%	1.1%	30,119	14,476	11	0.49	0.35	0.68
4	疼痛 (原因未定)	48	0.7%	1.3%	16,591	11,550	11	0.54	0.41	0.72
5	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	108	1.6%	2.8%	27,597	18,453	11	0.55	0.45	0.67

2-2-46~2-2-48 / 対象：6,950頭 (ラブラドル・レトリバー、0~12歳)

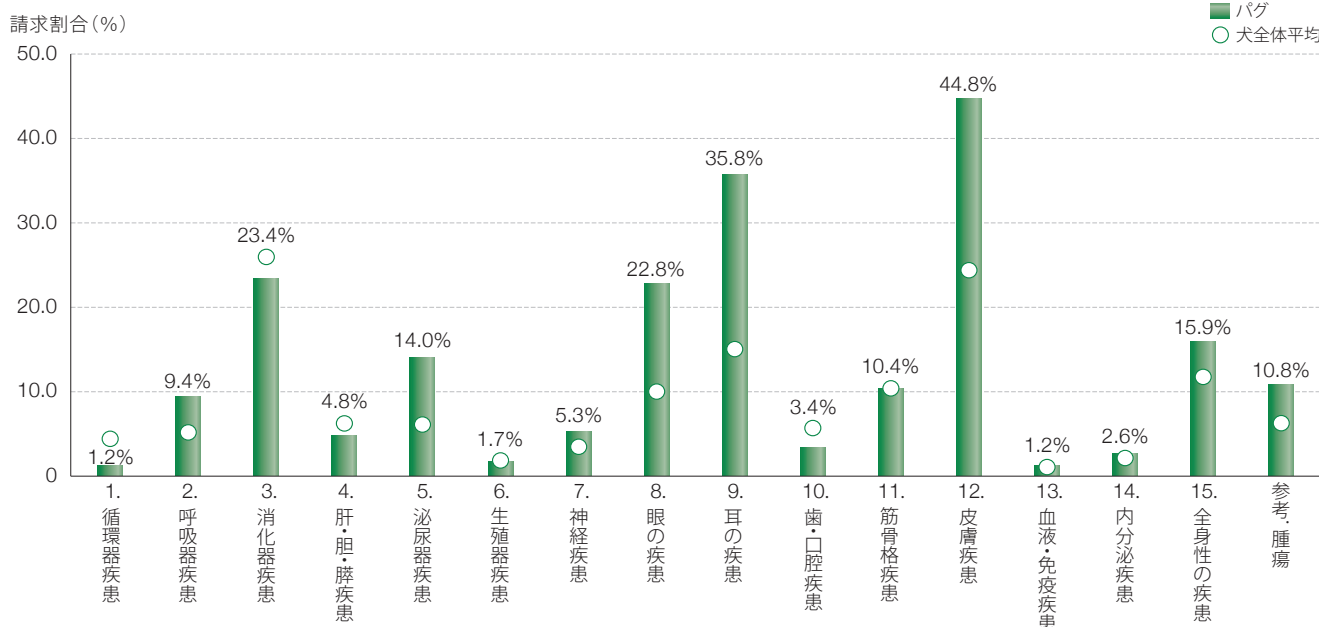
第2部 犬の健康と生活の疾病統計

第2部 第2章 品種別の統計

17. パグ



2-2-49 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-50 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			パグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	軟口蓋過長症	75	1.1%	0.1%	106,210	91,733	0	16.15	12.64	20.63
2	肥満細胞腫 (皮膚)	92	1.3%	0.1%	123,422	79,811	6	11.49	9.25	14.27
3	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	211	3.0%	0.4%	42,595	23,854	7、11	8.13	7.05	9.37
4	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	336	4.9%	0.8%	32,636	11,880	0	7.03	6.27	7.87
5	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	400	5.8%	1.0%	31,254	15,332	0	6.66	6.00	7.39
6	外傷性角膜炎 (異物含む)	163	2.4%	0.4%	17,963	11,110	0	5.89	5.02	6.91
7	組織球腫 (皮膚)	48	0.7%	0.1%	15,751	6,930	1、2	5.10	3.81	6.82
8	その他の呼吸器疾患	138	2.0%	0.6%	101,375	30,140	0	3.70	3.11	4.39
9	全身性の腫瘍	164	2.4%	0.7%	43,592	22,688	5、6	3.68	3.14	4.31
10	膀胱炎	475	6.9%	2.2%	33,568	17,708	4	3.41	3.10	3.75
11	マラセチア性皮膚炎	164	2.4%	0.8%	29,334	16,302	3	3.08	2.64	3.61
12	細菌性外耳炎	551	8.0%	3.0%	21,960	12,877	3	2.85	2.61	3.11
13	原因未定の外耳炎	1,554	22.5%	9.4%	26,523	15,290	0	2.82	2.66	2.99
14	膀胱結石	142	2.1%	0.8%	105,963	32,461	3、4	2.77	2.34	3.27
15	尿石症	167	2.4%	0.9%	38,021	18,200	4、5	2.71	2.32	3.17

2-2-51 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			パグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	119	1.7%	3.7%	65,524	50,970	6、8	0.46	0.38	0.55
2	肝酵素上昇 (原因未定)	46	0.7%	1.3%	49,213	22,550	1	0.50	0.38	0.67
3	膵炎	40	0.6%	0.8%	111,669	78,217	9	0.68	0.50	0.93
4	疼痛 (原因未定)	62	0.9%	1.3%	15,916	9,136	2	0.70	0.55	0.90
5	その他の肝/胆道系疾患	47	0.7%	0.9%	167,194	43,923	7	0.72	0.54	0.96

2-2-49~2-2-51 / 対象: 6,919頭 (パグ、0~12歳)

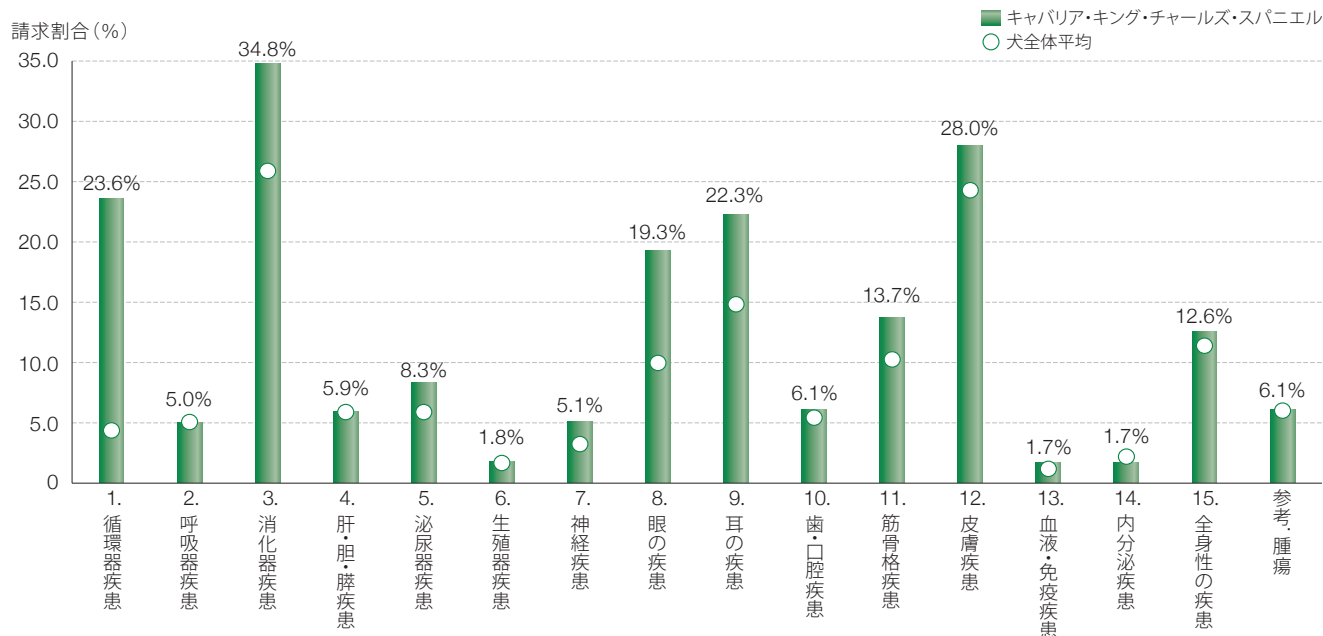


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 18. キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル



#### 2-2-52 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-53 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	角膜ジストロフィー	52	0.9%	0.1%	18,711	8,130	2	10.14	7.63	13.47
2	弁膜症	929	15.7%	2.6%	168,044	109,316	11	7.38	6.87	7.93
3	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	130	2.2%	0.4%	45,225	22,086	9	5.66	4.74	6.76
4	病態不明の心肥大/心拡大	30	0.5%	0.1%	135,539	63,333	12	4.79	3.32	6.90
5	その他の循環器疾患	159	2.7%	0.6%	105,217	33,440	11	4.46	3.80	5.23
6	肺水腫 (原因未定)	36	0.6%	0.2%	201,852	83,815	11、12	3.99	2.86	5.57
7	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	118	2.0%	0.8%	27,508	12,528	6	2.63	2.18	3.16
8	タンパク喪失性腸症	32	0.5%	0.2%	149,787	89,755	10	2.60	1.83	3.69
9	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	109	1.8%	0.8%	18,711	8,800	3、5	2.48	2.05	3.00
10	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	136	2.3%	1.0%	32,367	11,440	7	2.46	2.07	2.92
11	結膜炎 (結膜浮腫含む)	389	6.6%	3.0%	13,585	6,736	4	2.27	2.05	2.52
12	その他の神経系疾患	52	0.9%	0.4%	64,633	27,885	11	2.22	1.68	2.92
13	股関節形成不全/ (亜) 脱臼	30	0.5%	0.2%	100,573	40,673	1、3	2.20	1.53	3.16
14	膵炎	101	1.7%	0.8%	79,243	39,106	12	2.06	1.69	2.51
15	外傷性角膜炎 (異物含む)	48	0.8%	0.4%	28,496	16,822	3、5	1.93	1.45	2.57

#### 2-2-54 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	肝酵素上昇 (原因未定)	33	0.6%	1.3%	71,935	37,532	10、11	0.42	0.30	0.59
2	その他の肝/胆道系疾患	31	0.5%	0.9%	177,773	79,423	12	0.55	0.39	0.79

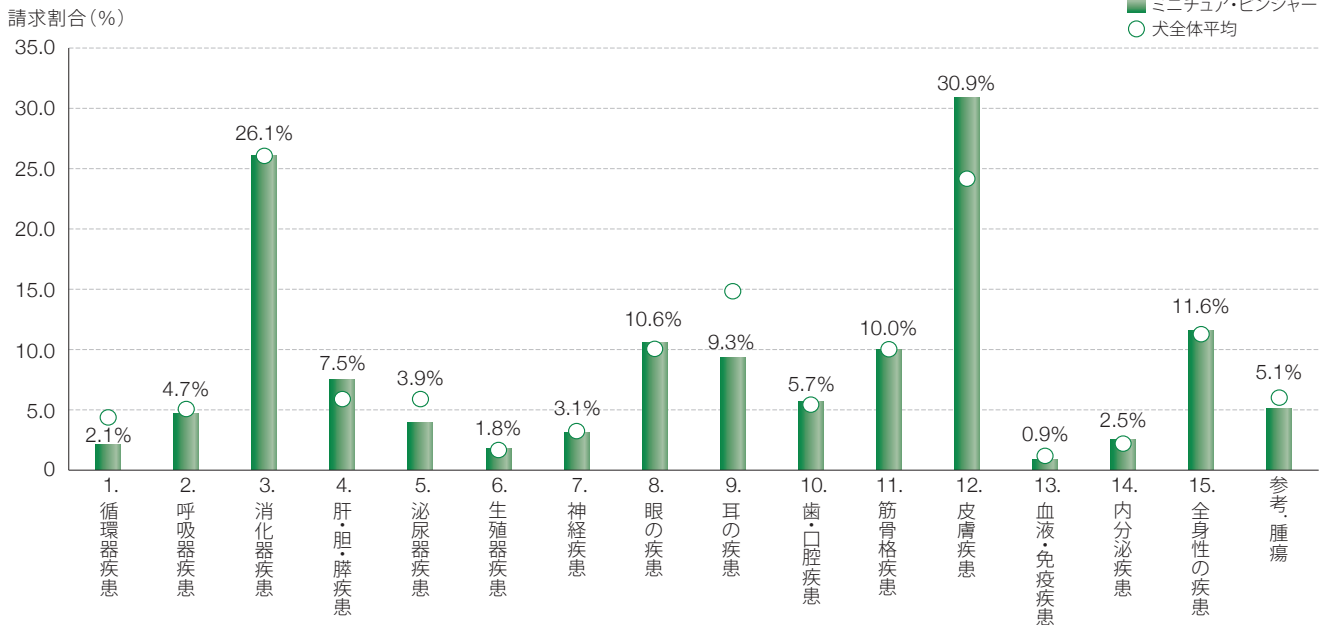
2-2-52～2-2-54 / 対象: 5,901頭 (キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル, 0～12歳)

19. ミニチュア・ピンシャー



■ ミニチュア・ピンシャー  
○ 犬全体平均

2-2-55 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-56 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・ピンシャー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	皮膚糸状菌症	29	0.5%	0.1%	24,776	7,700	0	3.94	2.72	5.70
2	脱毛 (原因未定)	90	1.7%	0.5%	26,627	10,670	0	3.28	2.65	4.05
3	糖尿病	39	0.7%	0.4%	243,922	175,280	10	1.99	1.45	2.73
4	膵炎	85	1.6%	0.8%	105,493	46,585	12	1.93	1.56	2.40
5	膿皮症/細菌性皮膚炎	438	8.3%	5.1%	23,829	12,783	0	1.69	1.54	1.87
6	捻挫	39	0.7%	0.4%	10,178	7,595	0	1.68	1.22	2.30
7	消化管内異物/誤飲	357	6.8%	4.6%	41,908	17,930	0	1.52	1.36	1.69
8	肝炎	40	0.8%	0.5%	66,610	39,920	1	1.50	1.10	2.05
9	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	60	1.1%	0.8%	14,549	8,938	1	1.47	1.13	1.89
10	その他の肝/胆道系疾患	72	1.4%	0.9%	82,962	46,761	1	1.46	1.15	1.84
11	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	73	1.4%	1.0%	27,322	12,075	12	1.45	1.15	1.83
12	アトピー性皮膚炎	172	3.3%	2.3%	63,055	40,400	5	1.45	1.24	1.69
13	皮膚の痒み (原因未定)	227	4.3%	3.0%	32,873	13,382	0	1.44	1.26	1.65
14	その他の皮膚疾患	665	12.6%	9.2%	23,983	8,542	0	1.43	1.32	1.56
15	肝酵素上昇 (原因未定)	98	1.9%	1.3%	46,874	31,420	1	1.43	1.17	1.75

2-2-57 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミニチュア・ピンシャー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	53	1.0%	2.6%	77,820	34,378	11	0.38	0.29	0.50
2	マラセチア性外耳炎	47	0.9%	1.9%	17,810	11,110	0	0.46	0.34	0.61
3	胆泥症	35	0.7%	1.3%	97,138	50,170	7、9	0.52	0.37	0.72
4	耳の痒み (原因未定)	32	0.6%	1.2%	34,542	14,383	0	0.52	0.36	0.73
5	その他の泌尿器疾患	44	0.8%	1.6%	68,648	27,995	12	0.53	0.39	0.71

2-2-55~2-2-57 / 対象 : 5,278頭 (ミニチュア・ピンシャー、0~12歳)



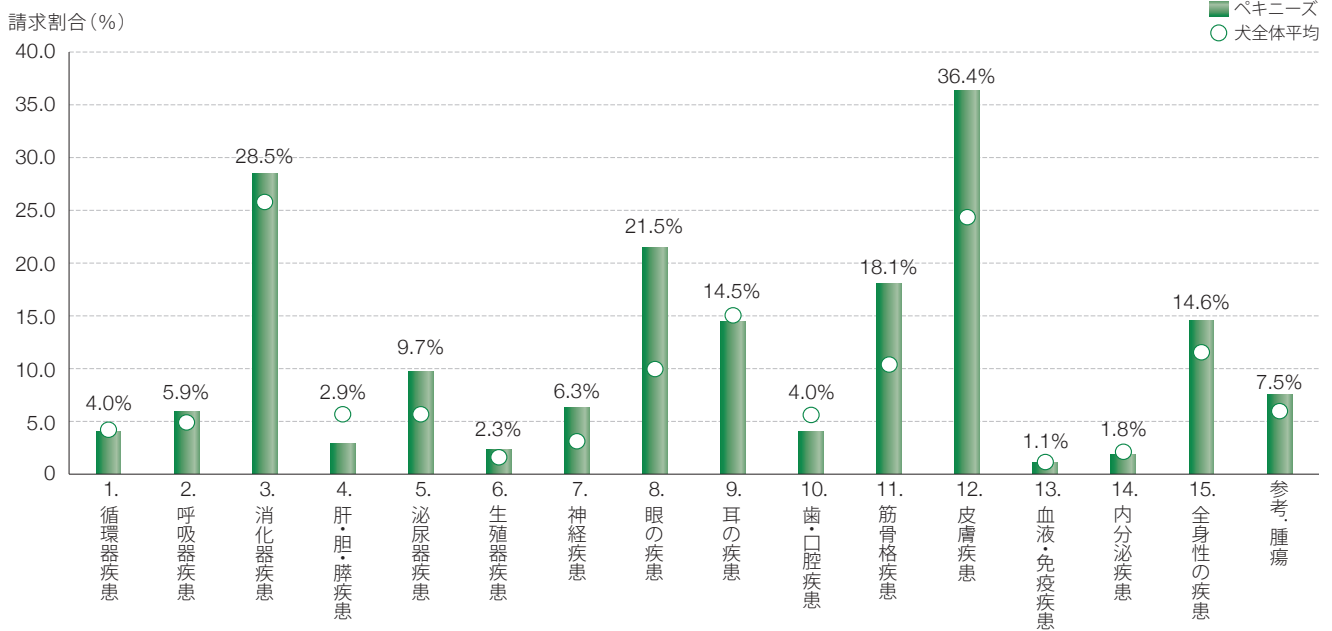


第2部 第2章 品種別の統計

20. ペキニーズ



2-2-58 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ペキニーズの疾患統計

2-2-59 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ペキニーズ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	160	3.1%	0.4%	40,163	19,719	12	8.07	6.86	9.49
2	軟口蓋過長症	27	0.5%	0.1%	117,001	90,794	0	7.00	4.75	10.31
3	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	250	4.8%	1.0%	31,473	15,180	4	5.37	4.72	6.11
4	椎間板ヘルニア	367	7.1%	1.5%	123,076	22,638	3	5.21	4.68	5.81
5	睫毛の疾患 (睫毛乱生/睫毛重生/異所性の睫毛含む)	33	0.6%	0.1%	24,647	10,780	3	4.83	3.41	6.84
6	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	173	3.3%	0.8%	28,567	12,100	1	4.60	3.94	5.36
7	外傷性角膜炎 (異物含む)	85	1.6%	0.4%	21,585	13,200	1	3.96	3.19	4.92
8	腰痛 (原因未定)	143	2.7%	0.8%	25,747	9,845	3	3.65	3.08	4.31
9	皮下膿瘍	50	1.0%	0.3%	11,296	8,470	7	3.61	2.72	4.79
10	その他の眼科疾患	165	3.2%	1.2%	36,788	11,193	0	2.69	2.30	3.15
11	その他の神経系疾患	51	1.0%	0.4%	66,805	21,901	4	2.47	1.87	3.27
12	疼痛 (原因未定)	153	2.9%	1.3%	20,471	9,496	2、3	2.38	2.03	2.80
13	亀頭炎/包皮灸	34	0.7%	0.3%	21,803	10,723	0	2.29	1.63	3.22
14	膀胱結石	79	1.5%	0.8%	70,778	27,781	8	2.02	1.61	2.52
15	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫	47	0.9%	0.5%	32,423	10,043	0	1.98	1.48	2.64

2-2-60 他犬種に比べ罹りにくい疾患

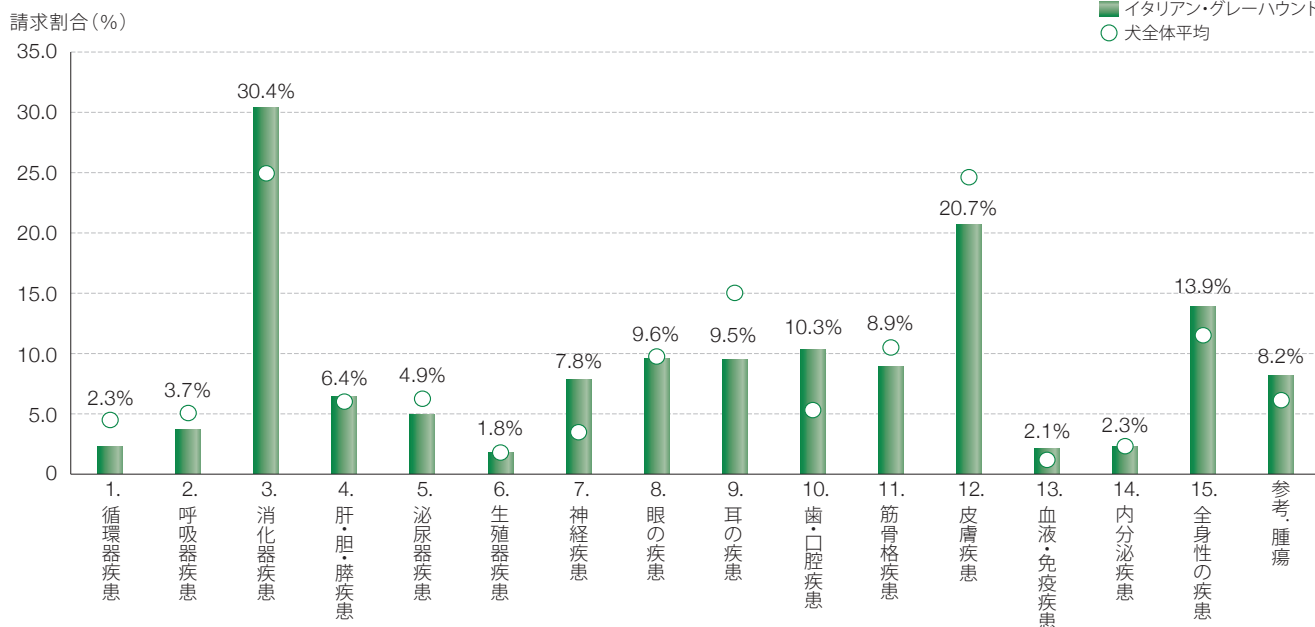
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ペキニーズ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	発咳 (原因未定)	42	0.8%	1.5%	23,572	15,168	0	0.53	0.39	0.72
2	肝酵素上昇 (原因未定)	37	0.7%	1.3%	60,976	35,420	5、11	0.54	0.39	0.74
3	膝蓋骨 (皿) 脱臼	52	1.0%	1.7%	42,257	11,660	2	0.58	0.44	0.77
4	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	121	2.3%	3.7%	62,005	52,800	8	0.63	0.52	0.75
5	弁膜症	89	1.7%	2.6%	111,185	65,010	10、11	0.66	0.53	0.81

2-2-58~2-2-60 / 対象 : 5,202頭 (ペキニーズ、0~12歳)

# 21. イタリアン・グレーハウンド



## 2-2-61 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-62 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			イタリアン・グレーハウンド	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	骨折 (前肢、後肢、骨盤以外)	67	1.5%	0.1%	99,174	21,802	0	12.13	9.45	15.59
2	骨折 (前肢)	104	2.3%	0.3%	288,980	295,642	0	8.43	6.91	10.29
3	てんかん	174	3.8%	1.3%	66,056	51,370	9	3.09	2.65	3.60
4	痙攣発作 (原因未定)	82	1.8%	0.6%	61,590	34,323	2	2.94	2.36	3.67
5	脱毛 (原因未定)	59	1.3%	0.5%	26,569	13,070	0	2.44	1.88	3.16
6	咬傷	32	0.7%	0.3%	17,098	7,957	1	2.27	1.60	3.23
7	発熱 (原因未定)	26	0.6%	0.3%	68,163	49,187	1	2.24	1.52	3.31
8	爪の外傷	32	0.7%	0.3%	6,054	4,125	0	2.21	1.56	3.14
9	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	66	1.4%	0.8%	15,378	9,658	2	1.86	1.46	2.38
10	アレルギー (詳細不明)	42	0.9%	0.5%	28,600	6,820	1	1.85	1.36	2.51
11	亀頭炎/包皮炎	24	0.5%	0.3%	8,015	6,430	2	1.82	1.22	2.72
12	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	277	6.0%	3.7%	62,482	45,089	12	1.70	1.50	1.92
13	全身性の腫瘍	49	1.1%	0.7%	88,155	16,610	11	1.60	1.20	2.12
14	脂肪腫	34	0.7%	0.5%	37,923	10,065	10	1.54	1.10	2.17
15	その他の全身性疾患/症状	96	2.1%	1.4%	21,355	9,471	0	1.54	1.25	1.88

## 2-2-63 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			イタリアン・グレーハウンド	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	44	1.0%	2.6%	75,083	46,700	12	0.36	0.27	0.49
2	趾間皮膚炎	28	0.6%	1.6%	10,582	6,600	2	0.39	0.27	0.56
3	椎間板ヘルニア	28	0.6%	1.5%	90,634	19,789	12	0.41	0.28	0.59
4	アトピー性皮膚炎	57	1.2%	2.3%	41,251	25,716	0	0.54	0.41	0.70
5	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	25	0.5%	1.0%	27,742	17,490	10	0.56	0.38	0.83

2-2-61~2-2-63 / 対象：4,597頭 (イタリアン・グレーハウンド、0~12歳)

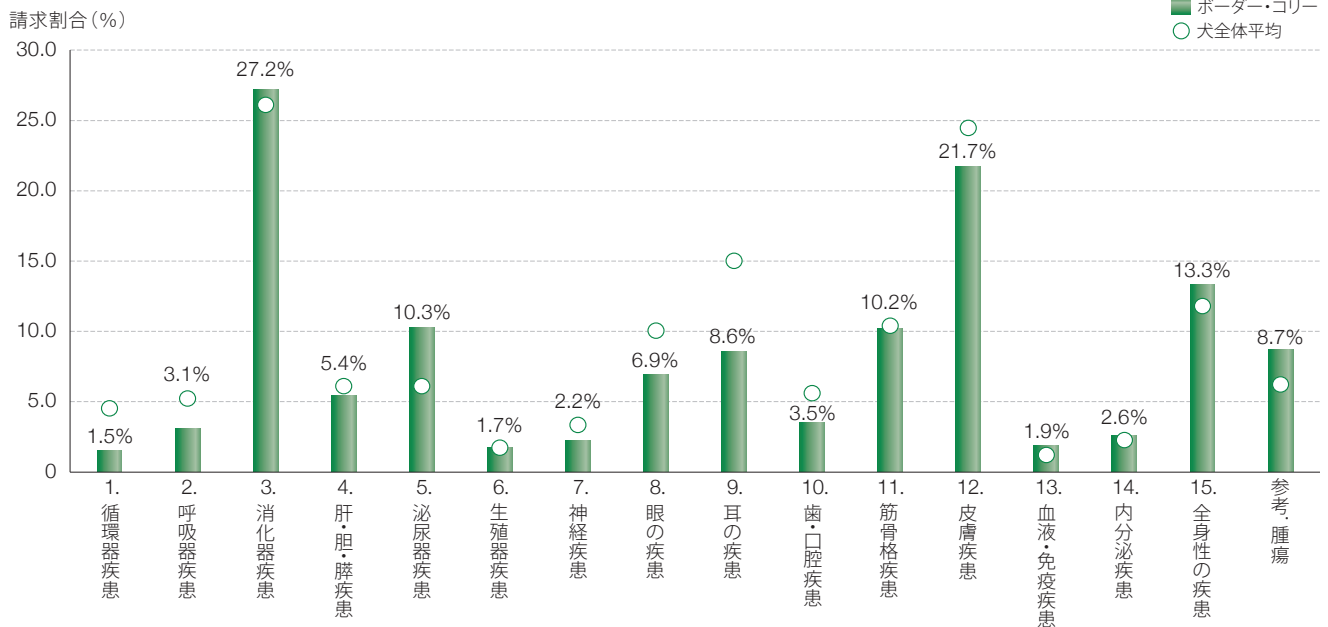


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 22. ボーダー・コリー



#### 2-2-64 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-65 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ボーダー・コリー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	口腔内外傷（歯折など含む）	35	0.8%	0.2%	57,124	24,970	0、1	3.22	2.30	4.51
2	多飲多尿（原因未定）	39	0.8%	0.3%	25,333	22,400	5	2.71	1.97	3.73
3	爪の外傷	37	0.8%	0.3%	10,567	6,050	1、2、3	2.56	1.85	3.55
4	咬傷	34	0.7%	0.3%	14,656	8,959	0	2.42	1.72	3.39
5	十字靭帯損傷・断裂（前/後）	41	0.9%	0.4%	225,484	75,350	9	2.24	1.65	3.06
6	膀胱炎	211	4.6%	2.2%	24,921	16,596	2、11	2.19	1.90	2.52
7	外傷（挫傷/擦過傷/打撲）	267	5.8%	3.0%	9,743	5,946	0	2.02	1.79	2.29
8	関節炎	82	1.8%	0.9%	49,635	20,119	11、12	1.99	1.60	2.48
9	ノミ/マダニ等の外部寄生虫症	31	0.7%	0.4%	6,311	3,740	1	1.93	1.35	2.75
10	その他の泌尿器疾患	134	2.9%	1.6%	38,552	18,040	11	1.91	1.60	2.27
11	慢性腎臓病（腎不全含む）	57	1.2%	0.7%	109,423	49,280	12	1.89	1.46	2.46
12	脂肪腫	39	0.8%	0.5%	26,664	6,050	6、8	1.77	1.29	2.43
13	尿の性状異常（原因未定）	43	0.9%	0.6%	15,066	10,421	5、10	1.57	1.16	2.12
14	病理学的未定の皮膚腫瘍	63	1.4%	0.9%	49,168	15,950	5、7、9、10、12	1.54	1.20	1.98
15	糖尿病	26	0.6%	0.4%	367,693	244,453	11	1.51	1.03	2.23

#### 2-2-66 他犬種に比べ罹りにくい疾患

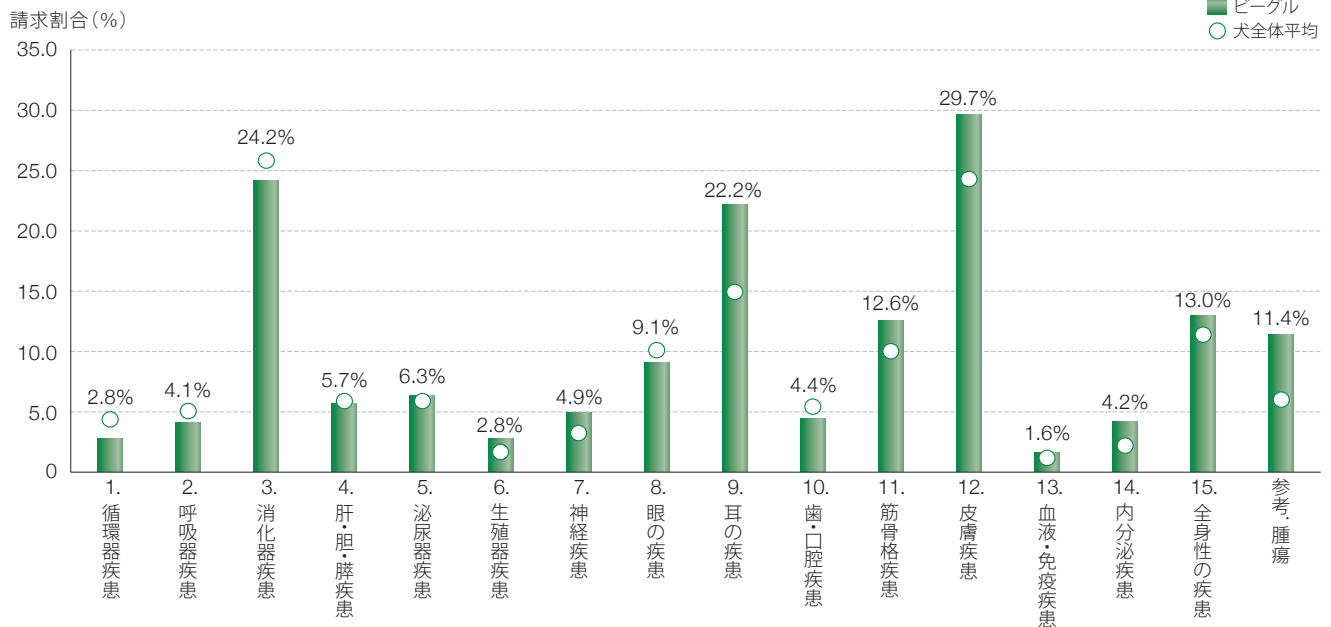
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ボーダー・コリー	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	27	0.6%	2.6%	127,474	68,046	12	0.22	0.15	0.32
2	アトピー性皮膚炎	24	0.5%	2.3%	81,991	22,977	2、10	0.22	0.15	0.33
3	アレルギー性皮膚炎（抗原特異的）	63	1.4%	3.5%	29,275	13,061	3	0.38	0.29	0.48
4	細菌性外耳炎	59	1.3%	3.0%	16,994	8,745	10、12	0.42	0.32	0.54
5	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	75	1.6%	3.7%	50,723	42,906	6	0.43	0.35	0.55

2-2-64～2-2-66 / 対象：4,606頭（ボーダー・コリー、0～12歳）

## 23. ビーグル



## 2-2-67 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-68 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ビーグル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	チェリーアイ・第三眼瞼脱出・瞬膜腺脱出/瞬膜炎	47	1.1%	0.1%	62,504	24,068	0、1	7.86	5.86	10.56
2	甲状腺機能低下症	85	1.9%	0.7%	96,884	70,345	10	3.00	2.42	3.73
3	咬傷	31	0.7%	0.3%	20,007	7,018	1	2.28	1.59	3.25
4	腰痛 (原因未定)	71	1.6%	0.8%	15,195	10,818	6、8	2.07	1.63	2.62
5	乳腺腫瘍/乳腺腫瘍	26	0.6%	0.3%	131,869	94,608	10、11	2.02	1.37	2.98
6	椎間板ヘルニア	127	2.9%	1.5%	96,149	18,020	4	1.97	1.65	2.36
7	趾間皮膚炎	131	2.9%	1.6%	29,787	8,726	1	1.94	1.63	2.31
8	全身性の腫瘍	57	1.3%	0.7%	61,917	26,620	8	1.93	1.48	2.51
9	マラセチア性外耳炎	159	3.6%	1.9%	22,051	12,980	1	1.90	1.62	2.22
10	てんかん	102	2.3%	1.3%	96,478	58,520	4、6	1.83	1.50	2.23
11	多飲多尿 (原因未定)	25	0.6%	0.3%	21,419	20,460	3、11	1.78	1.20	2.65
12	アレルギー性外耳炎	49	1.1%	0.6%	47,859	17,704	1	1.78	1.34	2.36
13	消化管内異物/誤飲	343	7.7%	4.6%	33,435	17,600	0	1.75	1.57	1.96
14	その他の皮膚の腫瘍	174	3.9%	2.4%	60,939	16,929	11	1.66	1.42	1.93
15	病理学的未定の皮膚腫瘍	61	1.4%	0.9%	47,895	22,110	11	1.54	1.20	1.99

## 2-2-69 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ビーグル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	44	1.0%	2.6%	145,246	67,458	10	0.38	0.28	0.51
2	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	109	2.4%	3.7%	54,167	43,120	7	0.66	0.55	0.80
3	その他の眼科疾患	38	0.9%	1.2%	14,150	10,560	0	0.70	0.51	0.96
4	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	99	2.2%	2.8%	27,394	14,872	1	0.80	0.65	0.97
5	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	527	11.8%	14.2%	18,287	9,680	0	0.81	0.74	0.89

2-2-67~2-2-69 / 対象: 4,449頭 (ビーグル、0~12歳)

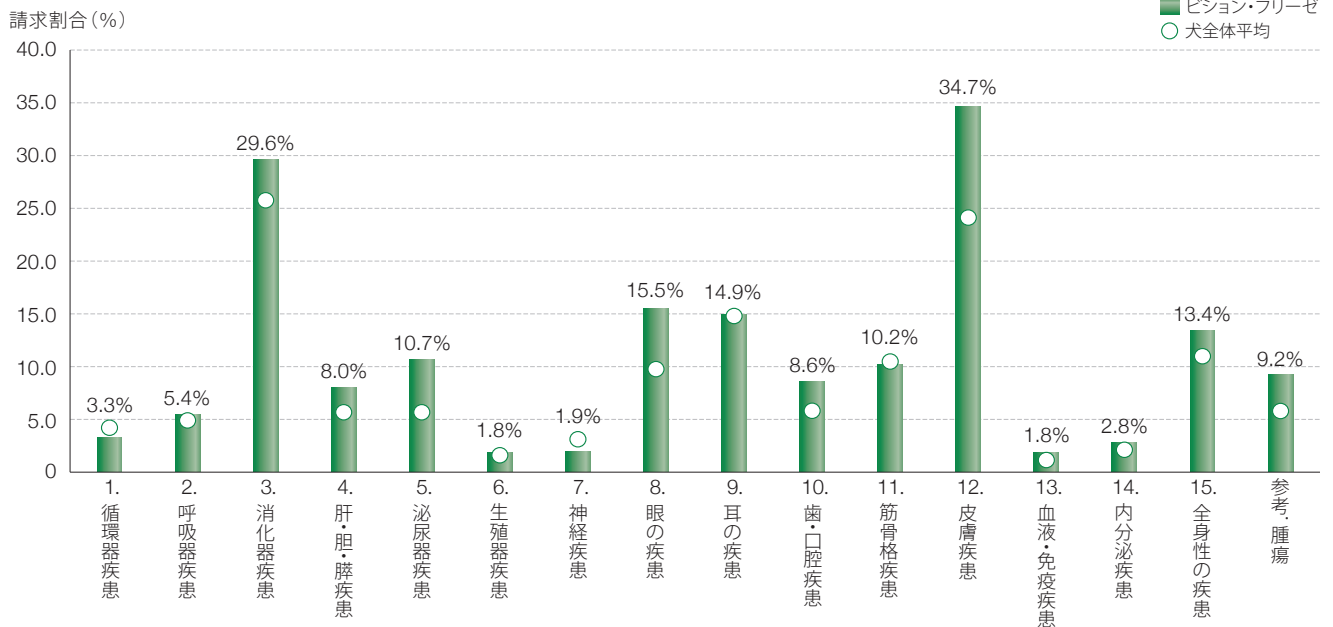


第2部 第2章 品種別の統計

24. ビション・フリーゼ



2-2-70 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ペット犬の疾患統計

2-2-71 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ビション・フリーゼ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	角膜ジストロフィー	25	0.6%	0.1%	21,469	12,100	2	6.41	4.30	9.58
2	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	131	3.1%	0.8%	19,695	10,302	0	4.13	3.47	4.93
3	眼瞼炎	69	1.6%	0.6%	24,015	11,350	2	2.80	2.20	3.55
4	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫	53	1.2%	0.5%	10,339	6,426	2	2.72	2.07	3.57
5	膀胱結石	72	1.7%	0.8%	66,877	35,420	7	2.23	1.76	2.82
6	尿石症	84	2.0%	0.9%	27,546	16,192	1	2.17	1.74	2.69
7	趾間皮膚炎	137	3.2%	1.6%	15,208	8,360	1	2.11	1.77	2.50
8	原因未定の皮膚炎	461	10.7%	6.5%	27,342	11,566	1、2	1.74	1.58	1.92
9	その他の皮膚疾患	625	14.6%	9.2%	23,044	10,050	1	1.70	1.56	1.85
10	十字靭帯損傷・断裂 (前/後)	29	0.7%	0.4%	250,850	136,917	10	1.69	1.17	2.44
11	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群	28	0.7%	0.4%	15,655	7,634	0	1.67	1.15	2.43
12	皮膚の痒み (原因未定)	212	4.9%	3.0%	24,798	13,365	0	1.67	1.45	1.92
13	その他の皮膚の腫瘍	165	3.8%	2.4%	32,329	12,760	6	1.63	1.39	1.90
14	尿の性状異常 (原因未定)	41	1.0%	0.6%	15,357	12,967	2	1.61	1.18	2.19
15	結膜炎 (結膜浮腫含む)	199	4.6%	3.0%	12,358	7,040	0	1.56	1.35	1.79

2-2-72 他犬種に比べ罹りにくい疾患

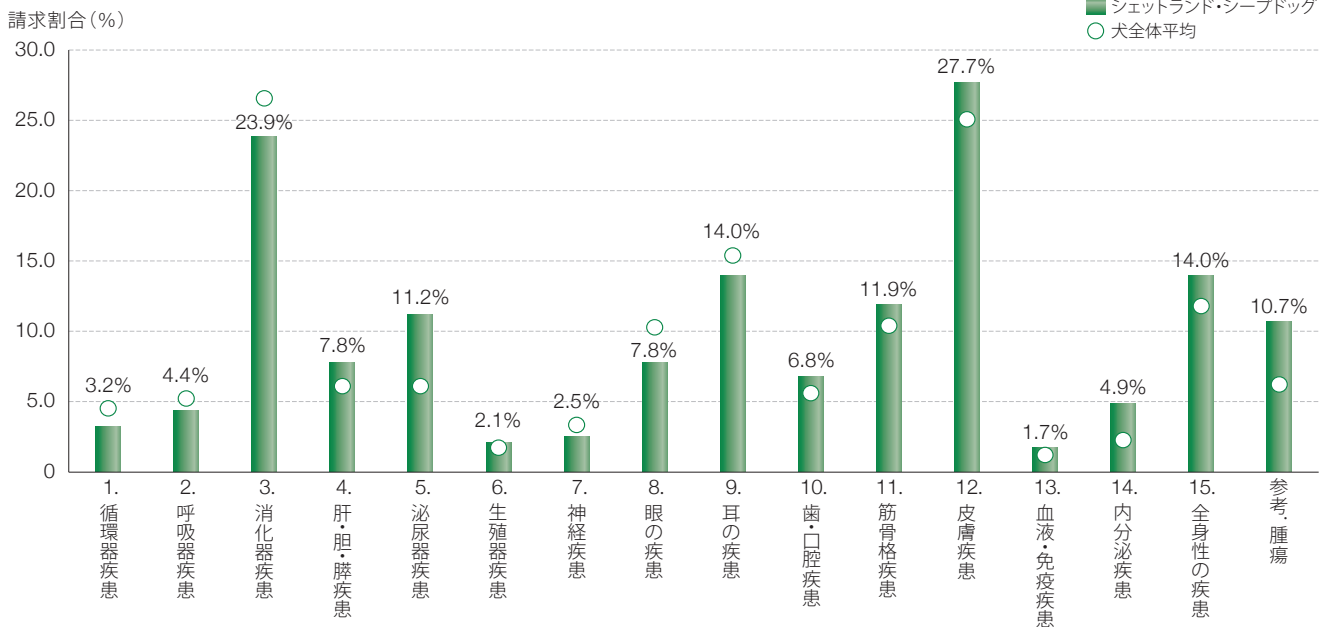
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ビション・フリーゼ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	54	1.3%	2.6%	46,474	24,640	9、10	0.48	0.37	0.63
2	椎間板ヘルニア	40	0.9%	1.5%	24,252	15,510	3	0.63	0.46	0.86

2-2-70～2-2-72 / 対象：4,292頭 (ビション・フリーゼ、0～12歳)

## 25. シェットランド・シープドッグ



### 2-2-73 疾患（大分類単位）の請求割合



### 2-2-74 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			シェットランド・シープドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	泌尿器系の腫瘍	22	0.6%	0.1%	286,634	207,355	9、12	7.79	5.08	11.94
2	高脂血症	81	2.1%	0.3%	53,397	24,387	6、8	7.20	5.75	9.01
3	変形性関節症・退行性関節症	22	0.6%	0.1%	47,813	24,815	10	7.19	4.69	11.02
4	甲状腺機能低下症	103	2.7%	0.7%	104,363	75,063	11	4.27	3.50	5.20
5	慢性腎臓病 (腎不全含む)	89	2.3%	0.7%	171,360	80,993	12	3.61	2.92	4.47
6	多飲多尿 (原因未定)	35	0.9%	0.3%	38,586	21,098	8、12	2.92	2.09	4.08
7	脂肪腫	50	1.3%	0.5%	41,182	9,053	11	2.75	2.08	3.64
8	その他の泌尿器疾患	143	3.7%	1.6%	35,810	16,458	12	2.46	2.08	2.91
9	関節炎	73	1.9%	0.9%	46,911	15,510	12	2.12	1.68	2.68
10	膀胱炎	165	4.3%	2.2%	37,432	15,590	0	2.04	1.75	2.39
11	胆泥症	95	2.5%	1.3%	117,073	69,575	8	1.98	1.61	2.43
12	病理学的未定の皮膚腫瘍	62	1.6%	0.9%	59,311	16,365	8	1.82	1.42	2.35
13	膿皮症/細菌性皮膚炎	341	8.9%	5.1%	39,897	16,781	1	1.82	1.63	2.04
14	尿の性状異常 (原因未定)	40	1.0%	0.6%	27,555	20,185	3、9	1.75	1.28	2.40
15	全身性の腫瘍	43	1.1%	0.7%	106,746	49,610	11	1.68	1.24	2.27

### 2-2-75 他犬種に比べ罹りにくい疾患

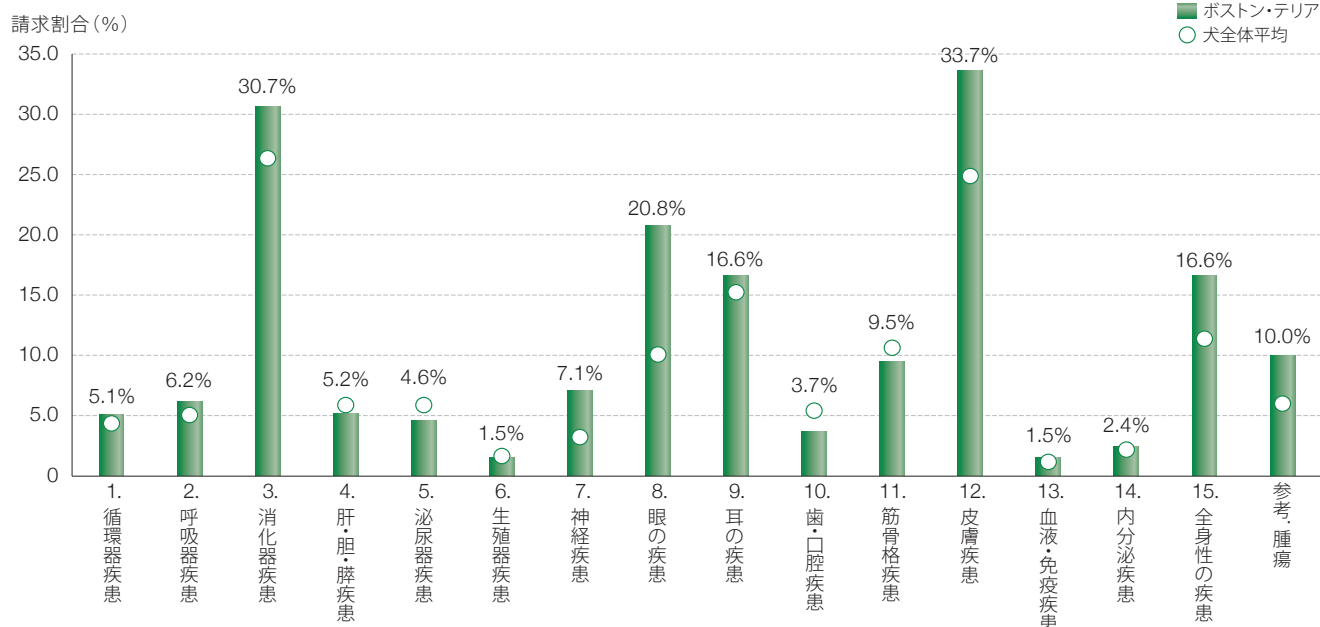
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			シェットランド・シープドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	アトピー性皮膚炎	41	1.1%	2.3%	102,936	41,582	3、4	0.46	0.34	0.63
2	白内障	20	0.5%	1.1%	26,910	17,545	9、10、12	0.48	0.31	0.74
3	疼痛 (原因未定)	25	0.7%	1.3%	29,607	15,570	0	0.51	0.34	0.75
4	弁膜症	57	1.5%	2.6%	156,858	85,157	11	0.57	0.44	0.74
5	発咳 (原因未定)	34	0.9%	1.5%	18,526	13,782	0	0.59	0.42	0.82

2-2-73~2-2-75 / 対象：3,841頭 (シェットランド・シープドッグ、0~12歳)

## 26. ボストン・テリア



### 2-2-76 疾患（大分類単位）の請求割合



### 2-2-77 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ボストン・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	軟口蓋過長症	25	0.6%	0.1%	125,533	98,560	0	8.67	5.80	12.97
2	角膜ジストロフィー	23	0.6%	0.1%	36,797	13,970	2、5	6.50	4.29	9.87
3	タンパク喪失性腸症	47	1.2%	0.2%	110,401	78,089	10	5.92	4.42	7.93
4	耳血腫	24	0.6%	0.1%	27,799	13,126	7	5.69	3.78	8.55
5	肥満細胞腫 (皮膚)	27	0.7%	0.1%	198,394	185,148	7	5.55	3.78	8.15
6	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	166	4.3%	1.0%	57,771	20,029	8	4.69	4.01	5.49
7	アレルギー (詳細不明)	70	1.8%	0.5%	12,881	9,130	1	3.72	2.93	4.72
8	爪の外傷	42	1.1%	0.3%	6,162	4,708	2	3.47	2.55	4.72
9	外傷性角膜炎 (異物含む)	54	1.4%	0.4%	27,089	14,839	10	3.33	2.54	4.37
10	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	93	2.4%	0.8%	20,751	10,450	5、10、11	3.23	2.63	3.98
11	緑内障	25	0.6%	0.2%	129,831	89,540	11	2.82	1.90	4.20
12	肺炎	21	0.5%	0.2%	158,636	78,650	12	2.74	1.78	4.22
13	肛門嚢 (腺) 炎/肛門嚢 (腺) 破裂	80	2.1%	0.8%	22,073	10,496	3	2.70	2.16	3.37
14	全身性の腫瘍	66	1.7%	0.7%	157,337	89,062	10	2.57	2.01	3.29
15	その他の呼吸器疾患	53	1.4%	0.6%	48,686	31,020	0	2.47	1.88	3.24

### 2-2-78 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ボストン・テリア	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	73	1.9%	3.7%	61,111	36,630	4	0.50	0.40	0.63
2	胆泥症	28	0.7%	1.3%	74,505	59,136	12	0.56	0.39	0.82
3	発咳 (原因未定)	34	0.9%	1.5%	32,023	14,166	0	0.58	0.41	0.81
4	椎間板ヘルニア	38	1.0%	1.5%	49,820	24,715	9	0.66	0.48	0.91
5	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	72	1.9%	2.8%	27,474	13,167	12	0.66	0.52	0.83

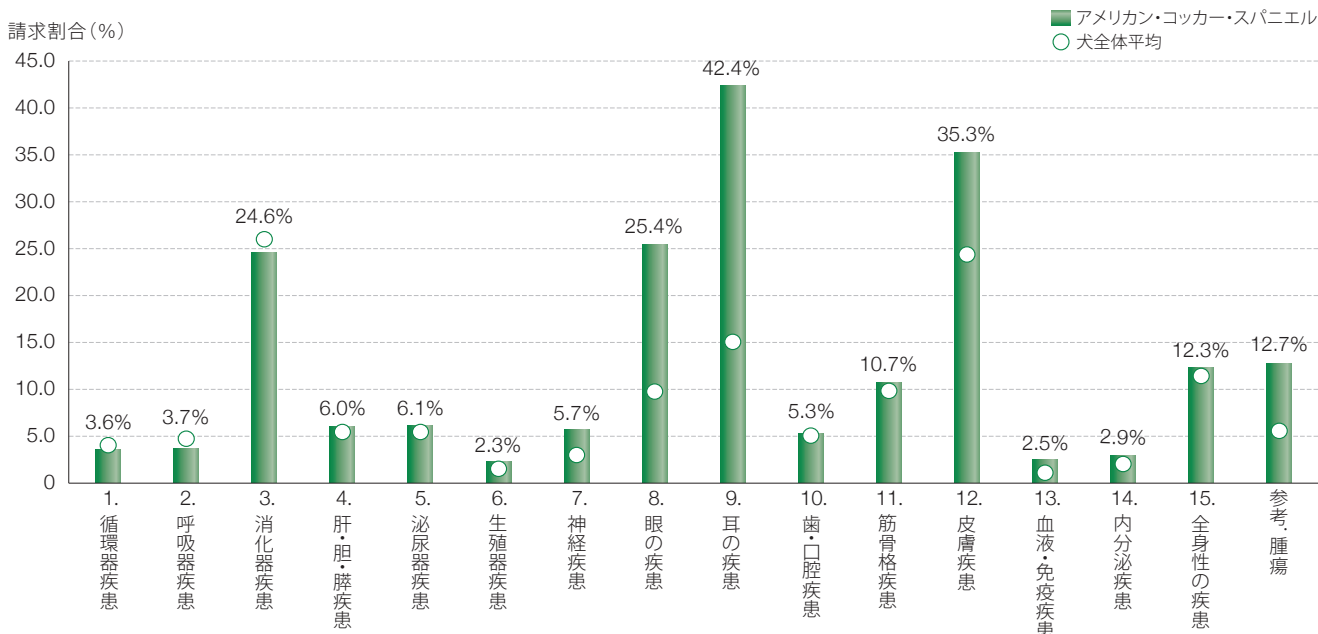
2-2-76~2-2-78 / 対象: 3,884 頭 (ボストン・テリア、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

27. アメリカン・コッカー・スパニエル



2-2-79 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-80 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			アメリカン・コッカー・スパニエル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	チェリーアイ・第三眼瞼脱出・瞬膜腺脱出/瞬膜炎	75	2.7%	0.1%	88,302	73,535	0	20.83	16.41	26.43
2	耳の腫瘍/腫瘤	25	0.9%	0.1%	198,854	129,470	10、11	13.54	9.04	20.28
3	緑内障	62	2.2%	0.2%	115,096	70,210	11	10.07	7.79	13.01
4	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ	58	2.1%	0.4%	56,391	33,110	11	5.17	3.98	6.73
5	その他の耳の疾患	55	2.0%	0.5%	40,916	15,993	0	3.68	2.81	4.82
6	原因未定の外耳炎	749	26.6%	9.4%	44,410	19,122	2	3.51	3.22	3.81
7	細菌性外耳炎	270	9.6%	3.0%	37,711	17,580	2	3.46	3.05	3.93
8	白内障	99	3.5%	1.1%	130,381	42,852	11	3.38	2.76	4.13
9	マラセチア性外耳炎	166	5.9%	1.9%	31,571	18,370	0、2	3.22	2.75	3.76
10	アレルギー性外耳炎	54	1.9%	0.6%	62,689	22,787	1	3.13	2.39	4.10
11	ブドウ膜炎(虹彩炎/前眼房出血含む)	19	0.7%	0.2%	53,016	22,660	3、10	3.05	1.94	4.80
12	十字韌帯損傷・断裂(前/後)	32	1.1%	0.4%	256,066	71,335	6、7	2.87	2.02	4.08
13	マラセチア性皮膚炎	62	2.2%	0.8%	39,284	22,860	2、3	2.82	2.19	3.64
14	目やに(原因未定)	48	1.7%	0.7%	14,663	7,667	1	2.60	1.95	3.46
15	耳の痒み(原因未定)	81	2.9%	1.2%	19,149	10,560	0	2.53	2.03	3.16

2-2-81 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			アメリカン・コッカー・スパニエル	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	膝蓋骨(皿)脱臼	19	0.7%	1.7%	16,334	8,592	0、8	0.39	0.25	0.62
2	弁膜症	39	1.4%	2.6%	228,726	171,124	12	0.53	0.39	0.73
3	発咳(原因未定)	24	0.9%	1.5%	24,258	12,415	0	0.56	0.38	0.84
4	元気喪失(食欲不振含む、原因未定)	49	1.7%	2.8%	22,390	14,630	0、4、10	0.62	0.47	0.82

2-2-79~2-2-81 / 対象: 2,815頭 (アメリカン・コッカー・スパニエル、0~12歳)



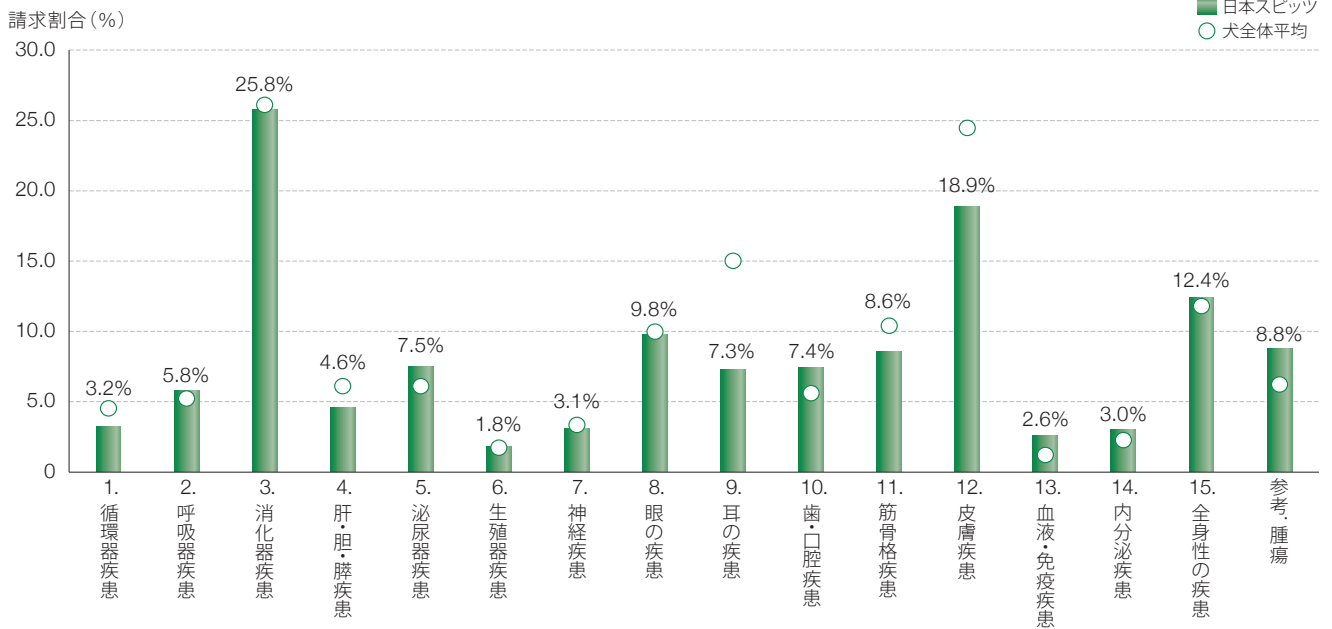


第2部 第2章 品種別の統計

28. 日本スピッツ



2-2-82 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ページの疾患統計

2-2-83 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			日本スピッツ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	口腔内外傷 (歯折など含む)	15	0.9%	0.2%	115,840	90,167	1、2	3.61	2.17	6.02
2	慢性腎臓病 (腎不全含む)	26	1.5%	0.7%	79,897	41,085	12	2.27	1.54	3.35
3	ノミ/マダニ等の外部寄生虫症	12	0.7%	0.4%	14,565	14,218	0、2、3、5	1.96	1.11	3.46
4	子宮蓄膿症	9	0.5%	0.3%	105,323	112,134	6	1.94	1.01	3.75
5	アレルギー (詳細不明)	15	0.9%	0.5%	14,245	10,900	0、1	1.73	1.04	2.88
6	肛門嚢 (腺) 炎 / 肛門嚢 (腺) 破裂	23	1.3%	0.8%	27,675	9,950	2	1.70	1.12	2.56
7	その他の泌尿器疾患	45	2.6%	1.6%	57,958	29,940	12	1.67	1.24	2.25
8	外傷 (挫傷/擦過傷/打撲)	76	4.3%	3.0%	12,243	5,390	0	1.49	1.18	1.87

2-2-84 他犬種に比べ罹りにくい疾患

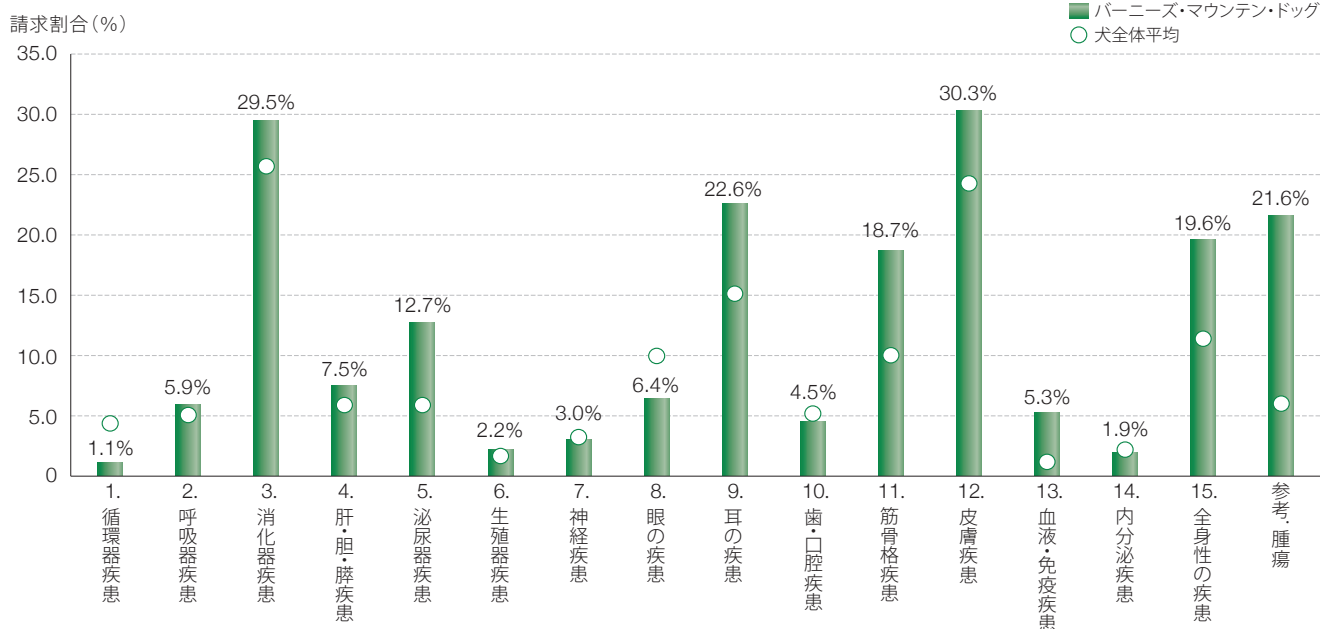
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			日本スピッツ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	弁膜症	14	0.8%	2.6%	114,896	68,705	10、12	0.30	0.18	0.51
2	アトピー性皮膚炎	13	0.7%	2.3%	52,367	25,520	0	0.32	0.19	0.55
3	細菌性外耳炎	18	1.0%	3.0%	25,908	9,839	0	0.34	0.21	0.53
4	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	26	1.5%	3.5%	47,685	19,419	1	0.41	0.28	0.61
5	マラセチア性外耳炎	15	0.9%	1.9%	19,722	13,420	0	0.44	0.26	0.73

2-2-82~2-2-84 / 対象 : 1,749頭 (日本スピッツ、0~12歳)

## 29. バーニーズ・マウンテン・ドッグ



## 2-2-85 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-86 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			バーニーズ・マウンテン・ドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	肺の腫瘍	17	1.0%	0.0%	266,673	140,800	9	29.69	18.10	48.69
2	胃拡張胃捻転症候群	13	0.7%	0.0%	271,095	138,270	7	24.57	14.01	43.10
3	耳血腫	33	1.9%	0.1%	58,795	29,513	5	17.68	12.44	25.13
4	黒色細胞腫・メラノーマ	9	0.5%	0.0%	236,972	242,716	8	17.64	9.03	34.44
5	多中心型リンパ腫	9	0.5%	0.0%	165,845	62,667	6	12.99	6.68	25.27
6	リンパ節腫大	12	0.7%	0.1%	167,489	30,663	7	11.36	6.39	20.20
7	その他のリンパ組織/造血組織の腫瘍	33	1.9%	0.2%	186,364	59,774	9	10.04	7.09	14.23
8	股関節形成不全/(垂)脱臼	39	2.2%	0.2%	219,234	34,845	0	9.83	7.13	13.55
9	口腔内の腫瘍	23	1.3%	0.2%	139,865	82,445	8	8.88	5.86	13.45
10	肥満細胞腫(皮膚)	14	0.8%	0.1%	276,036	153,183	5、7	6.27	3.69	10.64
11	十字靭帯損傷・断裂(前/後)	30	1.7%	0.4%	464,873	452,029	6	4.32	3.01	6.21
12	全身性の腫瘍	46	2.6%	0.7%	223,115	115,703	6	3.98	2.96	5.34
13	関節炎	58	3.3%	0.9%	60,184	24,043	0	3.73	2.87	4.85
14	組織球腫(皮膚)	9	0.5%	0.1%	211,050	16,390	1、7	3.62	1.87	6.99
15	タンパク喪失性腸症	13	0.7%	0.2%	168,956	177,007	3、8	3.51	2.03	6.07

## 2-2-87 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			バーニーズ・マウンテン・ドッグ	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	25	1.4%	3.7%	81,146	70,400	4	0.38	0.25	0.56
2	椎間板ヘルニア	10	0.6%	1.5%	60,650	16,649	2、6、9	0.38	0.20	0.71
3	てんかん	9	0.5%	1.3%	146,272	136,675	6	0.40	0.21	0.76
4	アレルギー性皮膚炎(抗原特異的)	46	2.6%	3.5%	73,022	30,778	2	0.73	0.54	0.98

2-2-85～2-2-87 / 対象：1,766頭 (バーニーズ・マウンテン・ドッグ、0～12歳)

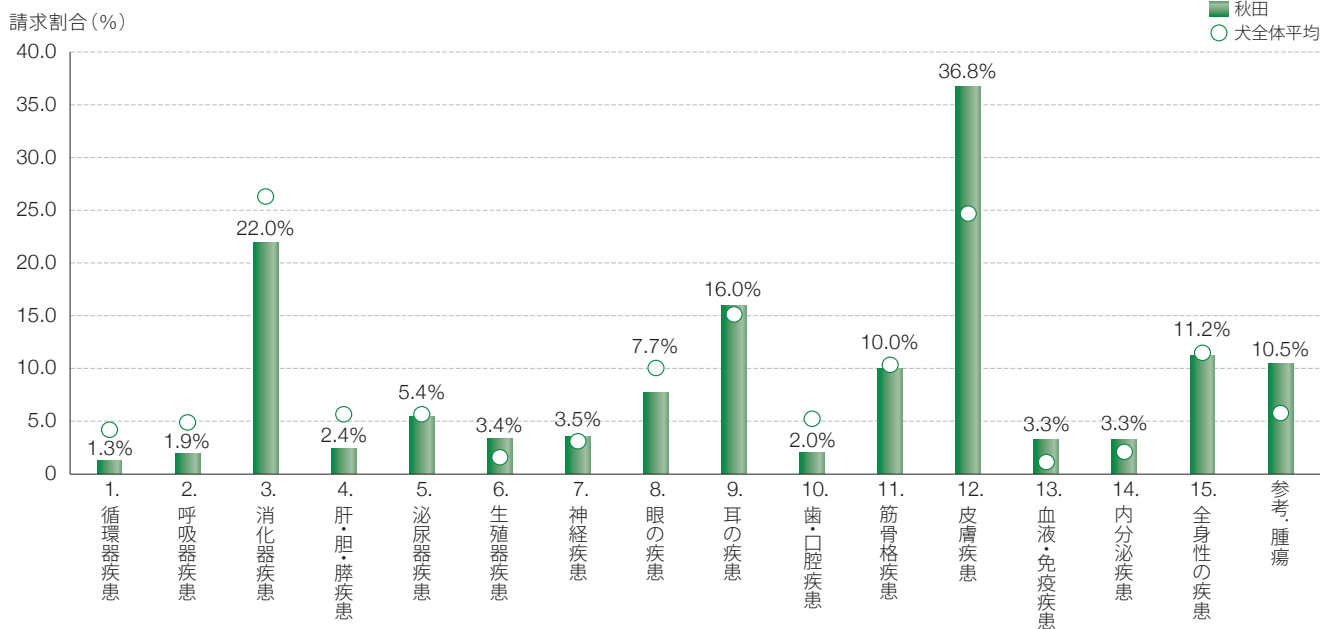


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 30. 秋田



#### 2-2-88 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-89 他犬種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			秋田	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	肛門周囲腺腫 (肛門周囲腺癌含む)	9	0.5%	0.1%	79,546	65,890	9	8.37	4.32	16.23
2	耳血腫	11	0.6%	0.1%	48,668	35,200	6	5.83	3.21	10.59
3	貧血 (原因未定)	10	0.6%	0.1%	62,254	58,855	0	4.41	2.36	8.23
4	血小板減少症 (免疫介在性)・IMTP	11	0.6%	0.2%	95,795	67,132	0,1,4,9,11	4.26	2.35	7.73
5	子宮蓄膿症	13	0.8%	0.3%	182,952	142,450	8	2.88	1.67	4.98
6	膿皮症/細菌性皮膚炎	189	11.0%	5.1%	34,919	19,564	1	2.32	1.99	2.70
7	咬傷	12	0.7%	0.3%	17,963	10,581	2, 4	2.28	1.29	4.02
8	目やに (原因未定)	23	1.3%	0.7%	16,778	11,330	1	2.03	1.34	3.07
9	皮下膿瘍	9	0.5%	0.3%	26,563	26,895	5, 10	1.93	1.00	3.73
10	甲状腺機能低下症	21	1.2%	0.7%	113,529	104,040	10	1.89	1.23	2.92
11	原因未定の皮膚炎	198	11.6%	6.5%	50,055	19,506	2	1.88	1.62	2.19
12	その他の皮膚疾患	265	15.5%	9.2%	53,377	13,486	2	1.82	1.59	2.07
13	関節炎	28	1.6%	0.9%	33,668	18,755	4, 10	1.82	1.25	2.64
14	脱毛 (原因未定)	16	0.9%	0.5%	41,387	12,133	2	1.75	1.07	2.87
15	アトピー性皮膚炎	63	3.7%	2.3%	80,897	39,446	1	1.64	1.28	2.11

#### 2-2-90 他犬種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			秋田	犬全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	9	0.5%	3.7%	63,984	55,000	3	0.14	0.07	0.27
2	消化管内異物/誤飲	25	1.5%	4.6%	95,261	16,170	0	0.31	0.21	0.46
3	発咳 (原因未定)	9	0.5%	1.5%	12,919	11,660	0	0.35	0.18	0.67
4	その他の眼科疾患	11	0.6%	1.2%	32,519	11,770	3	0.52	0.29	0.95
5	歩行異常/跛行/四肢の痛み(原因未定)	45	2.6%	3.7%	27,071	11,000	5, 9	0.70	0.52	0.94

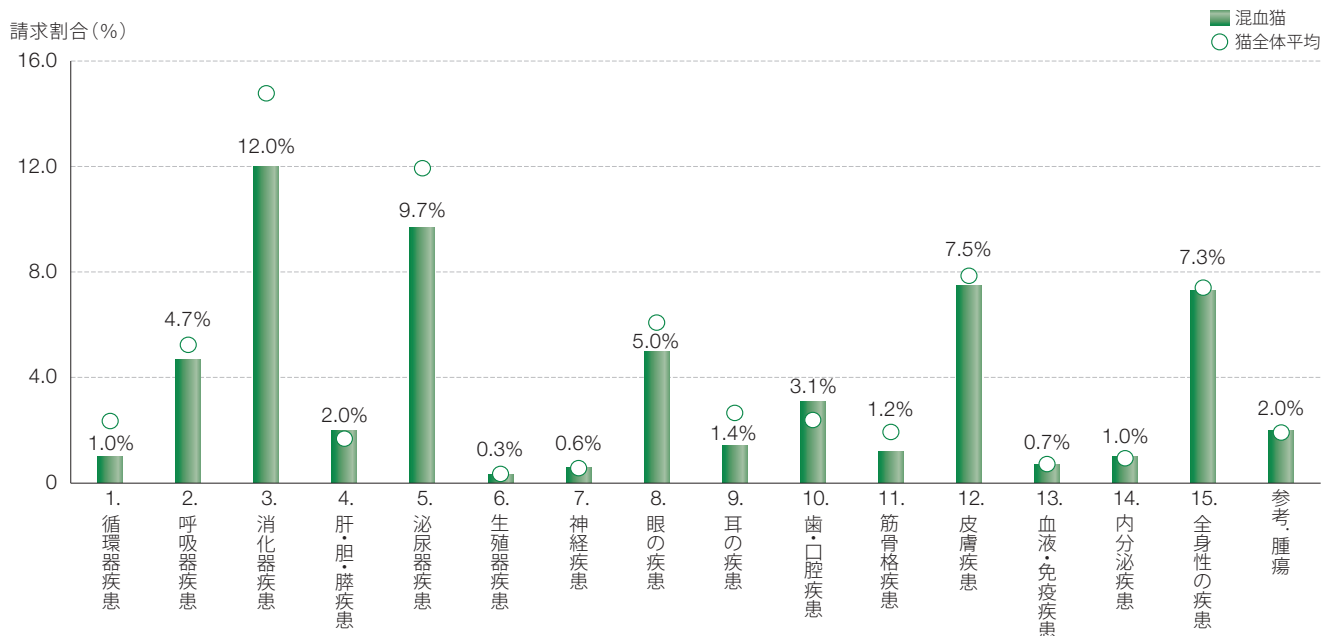
2-2-88~2-2-90 / 対象：1,713頭 (秋田、0~12歳)

## 第2部 第2章 品種別の統計

## 31. 混血猫



## 2-2-91 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-92 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			混血猫	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	肝酵素上昇 (原因未定)	474	0.8%	0.5%	41,175	23,925	1	2.10	1.86	2.37
2	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	1,344	2.1%	1.4%	44,503	29,282	5	2.00	1.87	2.15
3	肛門嚢(腺)炎/肛門嚢(腺)破裂	316	0.5%	0.3%	14,628	7,497	8	1.74	1.51	2.01
4	便秘(巨大結腸症含む)	530	0.8%	0.6%	32,785	12,859	7	1.61	1.44	1.79
5	その他の皮膚の腫瘍	327	0.5%	0.4%	39,868	13,820	8	1.31	1.15	1.50
6	脱毛(原因未定)	485	0.8%	0.7%	10,915	5,980	2	1.14	1.02	1.26
7	慢性腎臓病(腎不全含む)	1,462	2.3%	2.1%	66,627	25,146	12	1.13	1.07	1.21

## 2-2-93 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			混血猫	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	原因未定の外耳炎	437	0.7%	1.7%	17,975	8,580	0	0.34	0.31	0.37
2	嘔吐/下痢/血便(原因未定)	3,745	5.9%	9.0%	21,123	11,550	0	0.56	0.54	0.58
3	その他の消化器疾患	564	0.9%	1.4%	31,701	9,840	0	0.57	0.52	0.62
4	目やに(原因未定)	390	0.6%	0.9%	8,291	5,192	0	0.58	0.52	0.65
5	膀胱結石	388	0.6%	0.9%	46,521	16,698	2	0.59	0.53	0.66

2-2-91~2-2-93 / 対象: 63,043頭 (混血猫、0~12歳)

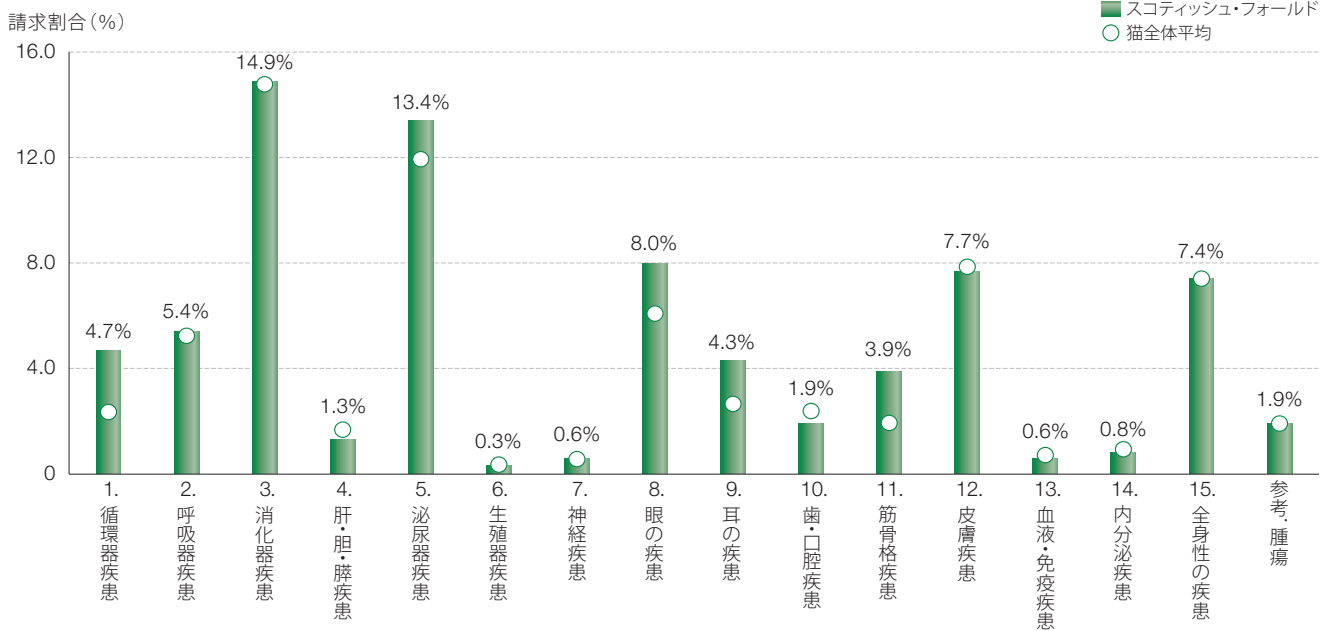


第2部 第2章 品種別の統計

32. スコティッシュ・フォールド



2-2-94 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ページの疾患統計

2-2-95 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			スコティッシュ・フォールド	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	関節炎	301	0.9%	0.3%	24,334	12,032	0	4.20	3.63	4.87
2	弁膜症	278	0.8%	0.4%	52,717	28,600	0	2.39	2.08	2.75
3	心筋症	703	2.1%	1.1%	82,463	52,620	5	2.31	2.11	2.52
4	歩行異常/跛行/四肢の痛み(原因未定)	556	1.7%	0.9%	14,266	8,580	0	2.17	1.96	2.39
5	その他の循環器疾患	291	0.9%	0.6%	73,419	33,255	0	1.71	1.50	1.95
6	眼瞼炎	226	0.7%	0.4%	7,658	5,528	1	1.68	1.45	1.95
7	細菌性外耳炎	266	0.8%	0.5%	12,228	7,370	0	1.61	1.40	1.84
8	原因未定の外耳炎	800	2.4%	1.7%	14,565	8,250	0	1.57	1.45	1.70
9	目やに (原因未定)	441	1.3%	0.9%	8,143	5,308	0	1.51	1.36	1.68
10	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	242	0.7%	0.5%	9,336	5,631	0	1.49	1.29	1.71
11	膀胱結石	418	1.3%	0.9%	67,441	23,398	5	1.44	1.29	1.60
12	結膜炎 (結膜浮腫含む)	1,735	5.2%	4.2%	9,549	5,720	0	1.31	1.24	1.38
13	尿道閉塞	216	0.6%	0.5%	109,108	54,534	1、3	1.23	1.06	1.43
14	その他の呼吸器疾患	312	0.9%	0.8%	24,824	11,550	0	1.21	1.07	1.37
15	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	201	0.6%	0.5%	19,982	9,705	1	1.19	1.02	1.38

2-2-96 他猫種に比べ罹りにくい疾患

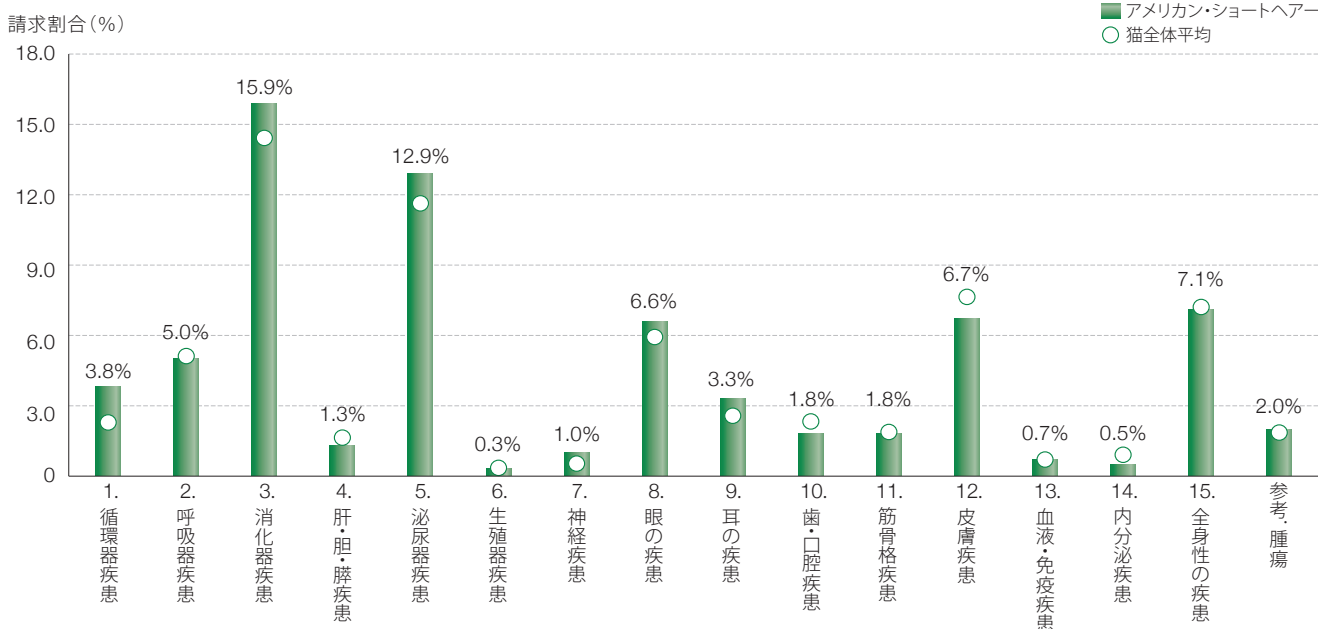
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			スコティッシュ・フォールド	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	369	1.1%	1.4%	38,716	25,795	0	0.78	0.70	0.87
2	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	229	0.7%	0.8%	22,328	8,283	1	0.82	0.72	0.94
3	その他の消化器疾患	396	1.2%	1.4%	26,407	7,700	0	0.83	0.75	0.92
4	消化管内異物/誤飲	539	1.6%	1.8%	54,530	13,750	0	0.90	0.82	0.98
5	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	744	2.2%	2.4%	23,783	13,200	0	0.90	0.83	0.97

2-2-94~2-2-96 / 対象: 33,417頭 (スコティッシュ・フォールド、0~12歳)

### 33. アメリカン・ショートヘアー



2-2-97 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-98 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			アメリカン・ショートヘアー	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	腎結石	110	0.6%	0.2%	95,791	33,550	9	2.73	2.22	3.37
2	肛門囊(腺)炎/肛門囊(腺)破裂	104	0.6%	0.3%	13,954	9,763	8	1.69	1.38	2.08
3	心筋症	320	1.7%	1.1%	82,271	62,251	9	1.65	1.47	1.86
4	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	148	0.8%	0.5%	21,727	10,725	1、2	1.59	1.34	1.89
5	慢性腎臓病 (腎不全含む)	560	3.0%	2.1%	137,840	75,505	9	1.47	1.34	1.60
6	尿道閉塞	140	0.7%	0.5%	114,313	45,364	1	1.42	1.19	1.70
7	弁膜症	105	0.6%	0.4%	67,608	30,120	9	1.38	1.12	1.69
8	その他の循環器疾患	139	0.7%	0.6%	55,688	29,080	12	1.35	1.13	1.61
9	その他の泌尿器疾患	785	4.2%	3.4%	53,773	17,600	9	1.26	1.17	1.36
10	原因未定の外耳炎	356	1.9%	1.7%	13,466	7,832	0	1.16	1.04	1.29

2-2-99 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			アメリカン・ショートヘアー	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	176	0.9%	1.4%	39,068	25,960	5	0.67	0.57	0.77
2	膿皮症/細菌性皮膚炎	116	0.6%	0.8%	11,124	6,500	0	0.72	0.60	0.88
3	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	116	0.6%	0.8%	17,911	8,965	3	0.74	0.62	0.90
4	その他の呼吸器疾患	117	0.6%	0.8%	31,891	12,540	0	0.77	0.64	0.93
5	原因未定の皮膚炎	383	2.0%	2.6%	12,257	6,270	0	0.77	0.69	0.85

2-2-97～2-2-99 / 対象：18,800頭 (アメリカン・ショートヘアー、0～12歳)

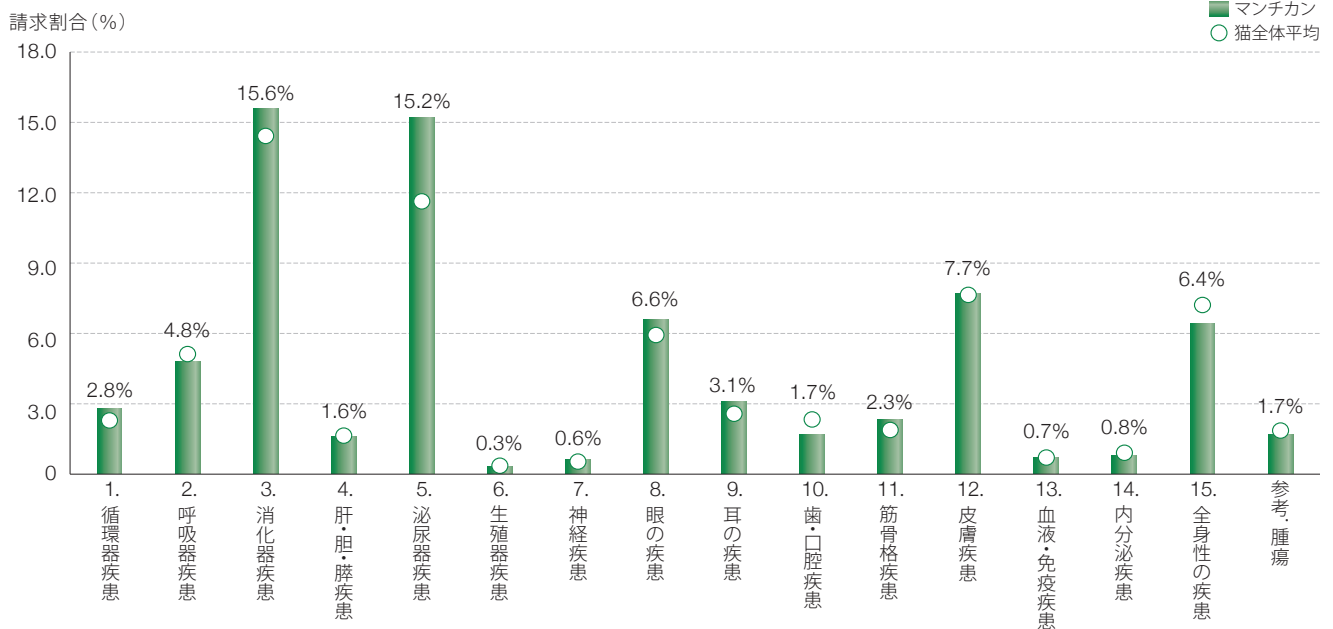


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 34. マンチカン



#### 2-2-100 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-101 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			マンチカン	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	膀胱結石	287	1.5%	0.9%	74,781	25,861	2	1.75	1.54	1.98
2	眼瞼炎	121	0.6%	0.4%	8,817	5,045	0	1.51	1.25	1.83
3	膀胱炎	1,212	6.4%	4.6%	22,055	12,370	1	1.48	1.39	1.58
4	皮膚糸状菌症	132	0.7%	0.5%	16,423	10,450	0	1.42	1.19	1.71
5	猫の下部尿路疾患・FUS・FLUTD	182	1.0%	0.7%	30,510	13,530	1	1.37	1.18	1.60
6	尿石症	427	2.3%	1.7%	59,833	16,753	1	1.36	1.23	1.51
7	尿の性状異常 (原因未定)	197	1.0%	0.8%	22,261	13,365	1	1.35	1.16	1.57
8	猫伝染性鼻気管炎・FVR	205	1.1%	0.9%	13,627	7,480	0	1.30	1.12	1.50
9	目やに (原因未定)	219	1.2%	0.9%	7,421	4,730	0	1.27	1.10	1.46
10	歩行異常/跛行/四肢の痛み(原因未定)	210	1.1%	0.9%	15,062	7,760	0	1.26	1.09	1.46
11	消化管内異物/誤飲	397	2.1%	1.8%	53,887	13,640	0	1.21	1.09	1.35
12	細菌性外耳炎	121	0.6%	0.5%	11,723	7,755	0	1.21	1.00	1.46
13	原因未定の外耳炎	364	1.9%	1.7%	12,545	7,700	0	1.18	1.06	1.32
14	結膜炎 (結膜浮腫含む)	905	4.8%	4.2%	9,492	5,585	0	1.17	1.09	1.25
15	胃炎/胃腸炎/腸炎	998	5.3%	5.0%	19,837	9,090	0	1.07	1.00	1.15

#### 2-2-102 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			マンチカン	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎(乳歯遺残に起因するもの含む)	177	0.9%	1.4%	32,399	23,980	0	0.67	0.57	0.78
2	その他の全身性疾患/症状	157	0.8%	1.0%	21,023	8,250	0	0.81	0.69	0.95
3	慢性腎臓病 (腎不全含む)	345	1.8%	2.1%	133,525	71,500	6	0.85	0.76	0.95
4	外傷 (挫傷/擦過傷/打撲)	301	1.6%	1.8%	14,047	5,390	0	0.86	0.76	0.97
5	原因未定の皮膚炎	445	2.4%	2.6%	14,221	6,380	0	0.90	0.82	1.00

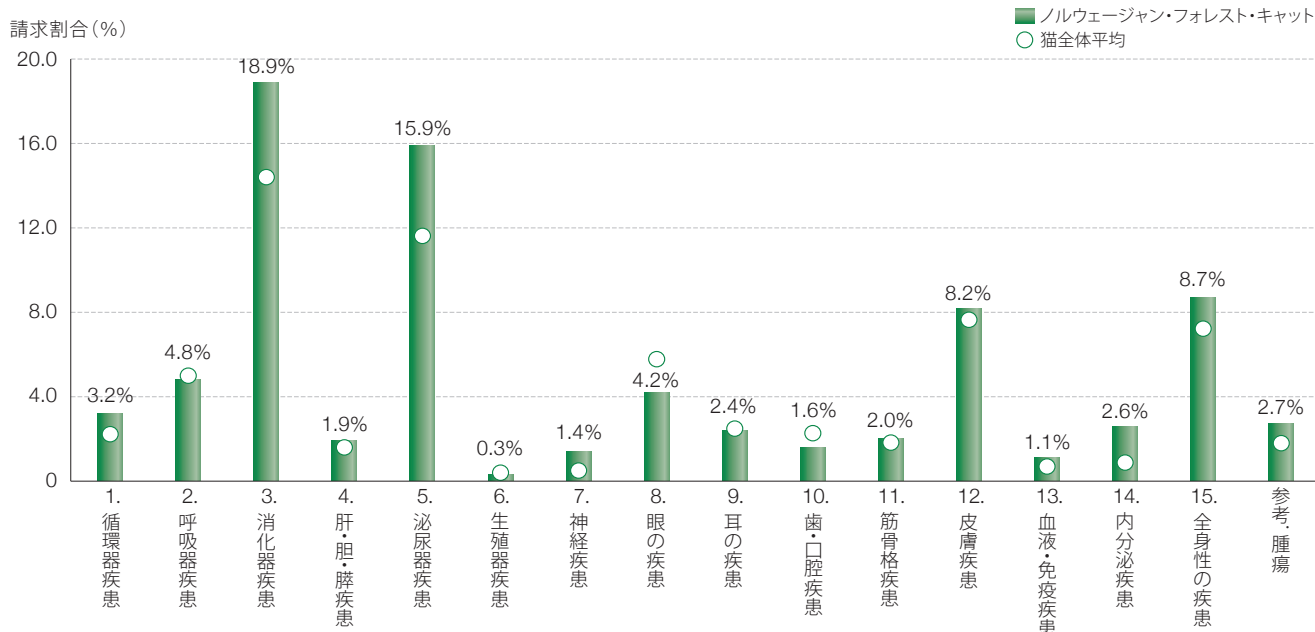
2-2-100~2-2-102 / 対象: 18,861頭 (マンチカン、0~12歳)

第2部 第2章 品種別の統計

35. ノルウェー・フォレスト・キャット



2-2-103 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-104 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ノルウェー・フォレスト・キャット	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	糖尿病	68	0.6%	0.2%	174,446	151,447	12	2.54	1.97	3.28
2	尿道閉塞	115	1.0%	0.5%	97,706	57,370	1	1.88	1.55	2.28
3	膀胱結石	191	1.6%	0.9%	50,264	15,932	2	1.82	1.57	2.12
4	猫の下部尿路疾患・FUS・FLUTD	134	1.1%	0.7%	27,150	12,001	0	1.61	1.35	1.93
5	膀胱炎	828	7.0%	4.6%	26,388	13,394	1	1.61	1.50	1.73
6	胃炎/胃腸炎/腸炎	812	6.9%	5.0%	20,441	10,780	0	1.44	1.33	1.55
7	尿石症	283	2.4%	1.7%	34,191	15,730	2	1.43	1.27	1.62
8	猫伝染性腹膜炎・FIP	81	0.7%	0.5%	312,966	88,880	0	1.43	1.14	1.80
9	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	1,432	12.1%	9.0%	20,205	9,900	0	1.42	1.34	1.50
10	その他の皮膚の腫瘍	70	0.6%	0.4%	23,168	5,500	5	1.41	1.10	1.80
11	その他の消化器疾患	211	1.8%	1.4%	32,047	12,667	0	1.31	1.14	1.51
12	その他の呼吸器疾患	117	1.0%	0.8%	21,196	14,520	0	1.26	1.05	1.53
13	その他の循環器疾患	83	0.7%	0.6%	63,068	29,084	0	1.26	1.01	1.58
14	尿の性状異常 (原因未定)	116	1.0%	0.8%	23,433	9,981	3	1.25	1.03	1.51
15	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	332	2.8%	2.4%	28,512	15,730	0	1.17	1.04	1.31

2-2-105 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ノルウェー・フォレスト・キャット	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	目やに (原因未定)	71	0.6%	0.9%	5,471	4,190	0	0.62	0.49	0.79
2	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	105	0.9%	1.4%	30,032	12,400	0	0.64	0.52	0.77
3	結膜炎 (結膜浮腫含む)	364	3.1%	4.2%	8,808	5,643	0	0.71	0.64	0.79
4	脱毛 (原因未定)	64	0.5%	0.7%	10,570	6,149	0	0.76	0.59	0.97
5	その他の眼科疾患	75	0.6%	0.8%	11,282	6,050	0	0.77	0.61	0.97

2-2-103~2-2-105 / 11,838頭 (ノルウェー・フォレスト・キャット、0~12歳)



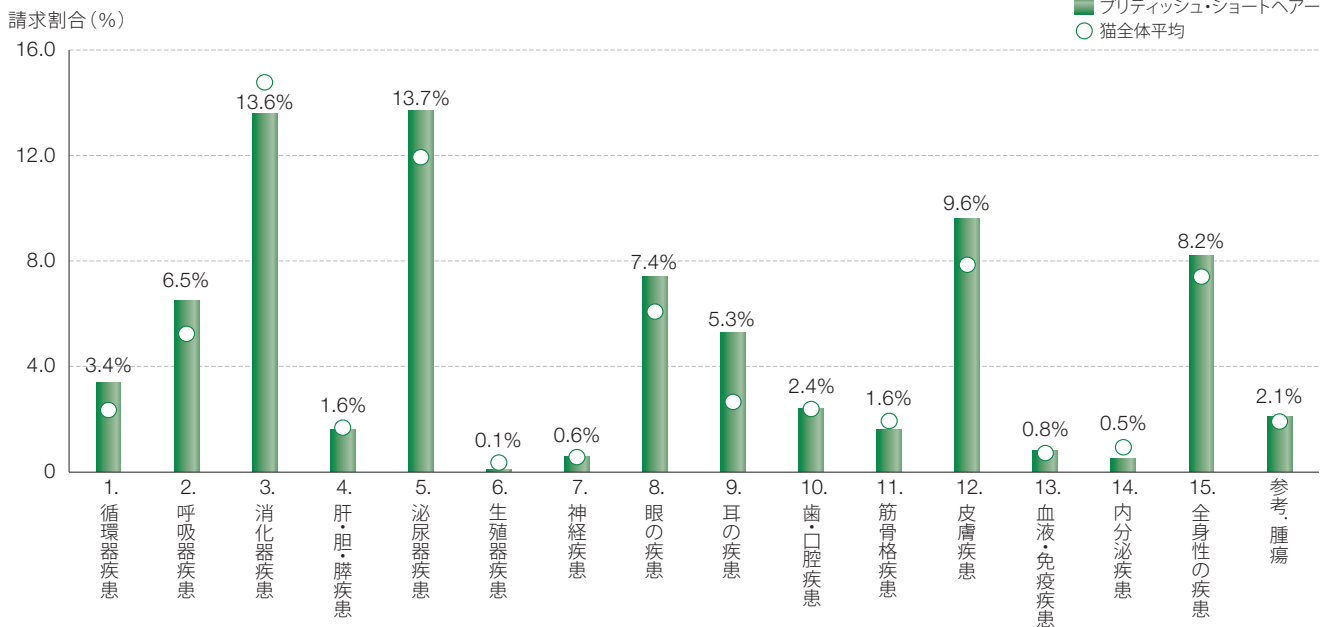


## 第2部 第2章 品種別の統計

### 36. ブリティッシュ・ショートヘア



#### 2-2-106 疾患（大分類単位）の請求割合



#### 2-2-107 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ブリティッシュ・ショートヘア	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	猫伝染性腹膜炎・FIP	102	1.0%	0.5%	244,940	68,464	0	2.16	1.76	2.65
2	細菌性外耳炎	102	1.0%	0.5%	12,987	7,876	0	1.94	1.58	2.38
3	その他の角膜炎 (パンヌス含む)	77	0.8%	0.4%	25,192	12,682	0、2	1.78	1.41	2.25
4	原因未定の外耳炎	285	2.8%	1.7%	13,325	8,360	0	1.76	1.56	1.99
5	耳の痒み (原因未定)	55	0.5%	0.3%	7,620	4,994	0	1.76	1.33	2.31
6	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	82	0.8%	0.5%	23,971	10,692	0	1.59	1.27	1.99
7	その他の呼吸器疾患	122	1.2%	0.8%	25,735	14,328	0	1.55	1.29	1.86
8	その他の眼科疾患	123	1.2%	0.8%	14,016	6,481	0	1.53	1.27	1.84
9	爪の外傷	51	0.5%	0.3%	5,965	3,740	0	1.52	1.14	2.02
10	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎	194	1.9%	1.3%	19,225	7,150	0	1.47	1.27	1.70
11	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	73	0.7%	0.5%	8,859	6,255	0	1.40	1.10	1.77
12	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	203	2.0%	1.5%	14,270	6,778	0	1.39	1.21	1.61
13	検査値上の異常 (臨床症状なし)	51	0.5%	0.4%	23,245	15,180	0	1.36	1.02	1.81
14	目やに (原因未定)	124	1.2%	0.9%	8,709	5,236	0	1.32	1.10	1.58
15	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	107	1.1%	0.8%	19,698	9,123	1	1.32	1.08	1.60

#### 2-2-108 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ブリティッシュ・ショートヘア	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	慢性腎臓病 (腎不全含む)	116	1.1%	2.1%	119,505	62,765	7	0.52	0.43	0.62
2	その他の泌尿器疾患	216	2.1%	3.4%	37,246	11,155	7	0.60	0.53	0.69
3	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	111	1.1%	1.4%	35,967	17,490	0	0.79	0.65	0.96
4	胃炎/胃腸炎/腸炎	457	4.5%	5.0%	19,091	8,822	0	0.89	0.81	0.98

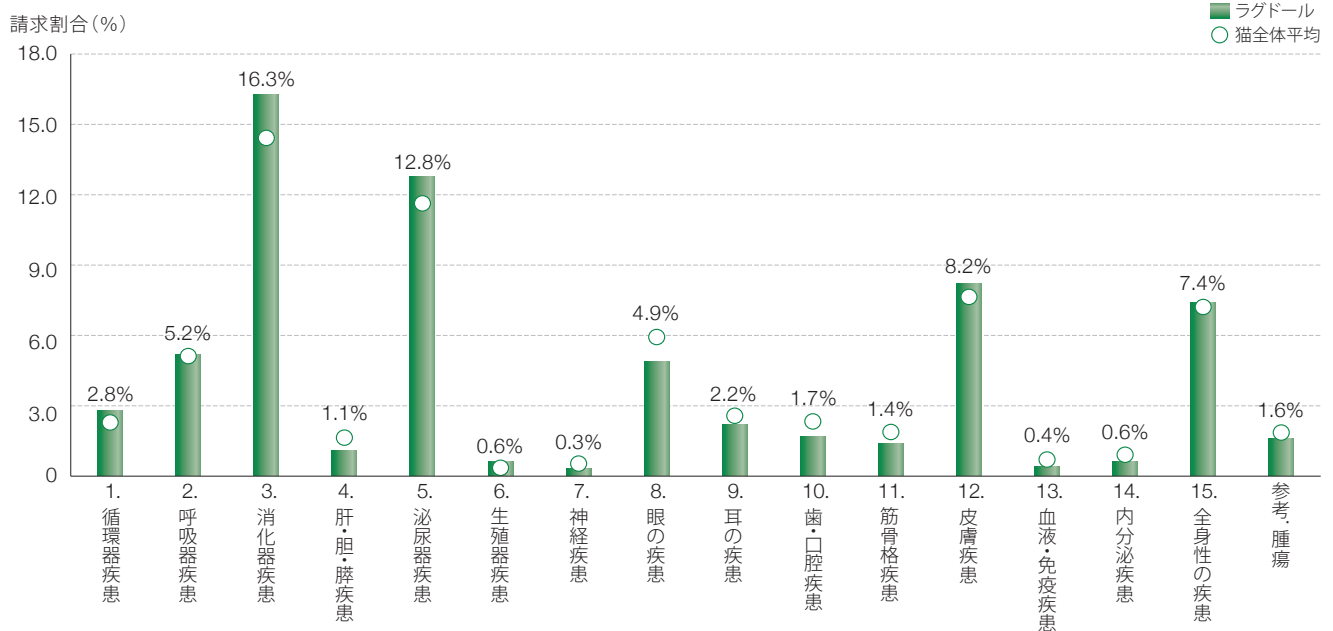
2-2-106～2-2-108 / 対象：10,190頭 (ブリティッシュ・ショートヘア、0～12歳)

## 第2部 第2章 品種別の統計

## 37. ラグドール



## 2-2-109 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-110 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ラグドール	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	耳疥癬・ミミヒゼンダニ症	53	0.6%	0.3%	14,167	9,570	0	1.93	1.46	2.56
2	疥癬	55	0.6%	0.3%	13,868	9,570	0	1.88	1.42	2.47
3	発熱 (原因未定)	63	0.7%	0.4%	57,253	16,968	0	1.65	1.28	2.14
4	皮膚糸状菌症	75	0.8%	0.5%	18,632	12,375	0	1.60	1.27	2.03
5	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	201	2.1%	1.5%	9,112	5,962	0	1.49	1.29	1.73
6	膀胱炎	608	6.4%	4.6%	20,000	11,690	0	1.46	1.34	1.59
7	猫伝染性腹膜炎・FIP	64	0.7%	0.5%	250,681	59,400	0	1.41	1.10	1.82
8	発咳 (原因未定)	86	0.9%	0.7%	19,173	8,690	0	1.40	1.13	1.75
9	皮膚の痒み (原因未定)	84	0.9%	0.7%	8,239	5,830	0	1.39	1.11	1.73
10	その他の呼吸器疾患	102	1.1%	0.8%	23,184	9,538	0	1.39	1.13	1.70
11	脱毛 (原因未定)	90	1.0%	0.7%	8,576	5,170	0	1.38	1.12	1.71
12	その他の消化器疾患	174	1.8%	1.4%	34,681	9,706	0	1.36	1.16	1.58
13	その他の全身性疾患/症状	126	1.3%	1.0%	18,766	9,410	0	1.35	1.12	1.61
14	消化管内異物/誤飲	209	2.2%	1.8%	56,456	13,750	0	1.27	1.10	1.46
15	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	1,026	10.9%	9.0%	16,524	8,723	0	1.24	1.16	1.33

## 2-2-111 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ラグドール	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	慢性腎臓病 (腎不全含む)	128	1.4%	2.1%	117,242	73,817	6	0.62	0.52	0.74
2	歩行異常/跛行/四肢の痛み (原因未定)	59	0.6%	0.9%	13,095	6,055	0	0.68	0.53	0.88
3	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	91	1.0%	1.4%	29,220	14,080	0	0.70	0.56	0.86
4	膀胱結石	63	0.7%	0.9%	37,810	14,575	1	0.71	0.55	0.91
5	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎	103	1.1%	1.3%	8,582	4,840	0	0.81	0.67	0.99

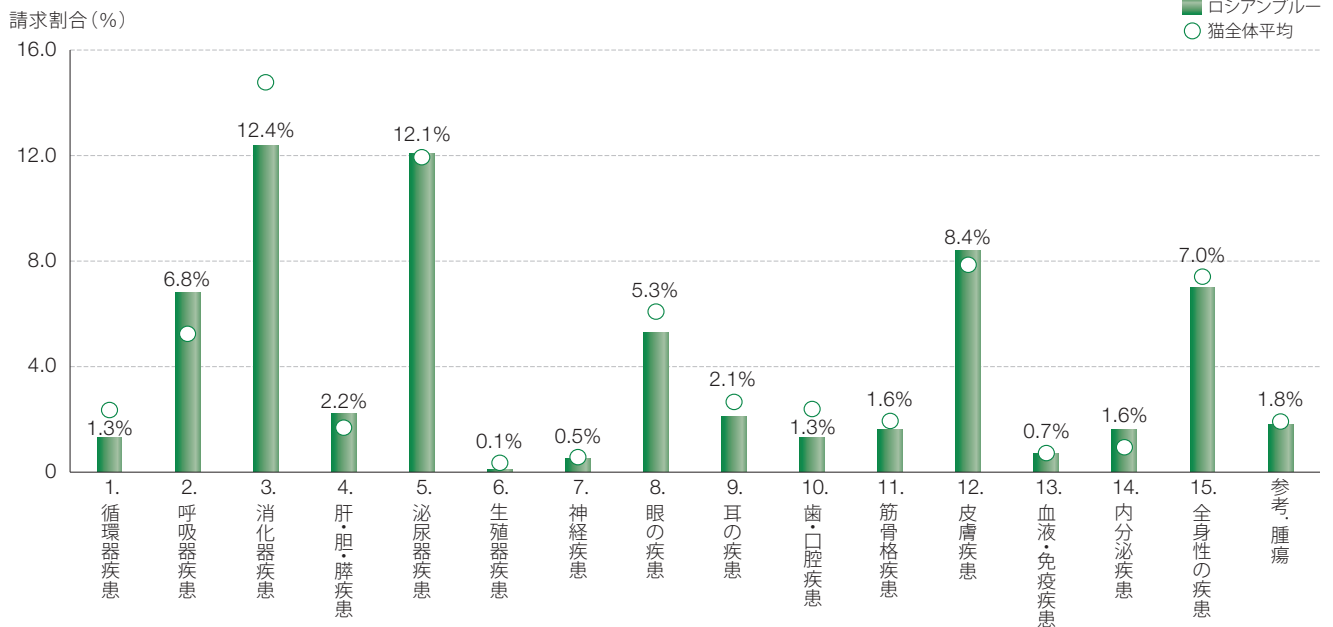
2-2-109~2-2-111 / 対象：9,434頭 (ラグドール、0~12歳)



# 38. ロシアンブルー



## 2-2-112 疾患（大分類単位）の請求割合



第2部 ページの疾患統計

## 2-2-113 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ロシアンブルー	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	尿道閉塞	78	1.2%	0.5%	78,883	43,262	1	2.40	1.91	3.03
2	糖尿病	35	0.6%	0.2%	156,179	135,280	11	2.38	1.69	3.36
3	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎	142	2.3%	1.3%	17,850	9,680	0	1.76	1.49	2.09
4	脱毛 (原因未定)	72	1.2%	0.7%	18,979	6,853	0	1.68	1.32	2.12
5	肝酵素上昇 (原因未定)	47	0.8%	0.5%	67,722	38,615	0	1.65	1.23	2.21
6	猫伝染性腹膜炎・FIP	47	0.8%	0.5%	239,945	99,000	0	1.56	1.17	2.10
7	発咳 (原因未定)	62	1.0%	0.7%	12,953	9,433	0	1.53	1.18	1.97
8	皮膚の痒み (原因未定)	55	0.9%	0.7%	14,474	8,270	0	1.36	1.04	1.79
9	その他の全身性疾患/症状	80	1.3%	1.0%	16,478	6,890	0	1.28	1.02	1.60
10	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	114	1.8%	1.5%	13,829	6,235	0	1.26	1.04	1.52
11	その他の消化器疾患	105	1.7%	1.4%	54,309	11,880	0	1.22	1.00	1.49
12	慢性腎臓病 (腎不全含む)	160	2.6%	2.1%	105,474	64,109	6	1.22	1.04	1.43
13	その他の泌尿器疾患	246	3.9%	3.4%	27,374	12,335	0、3	1.17	1.03	1.33

## 2-2-114 他猫種に比べ罹りにくい疾患

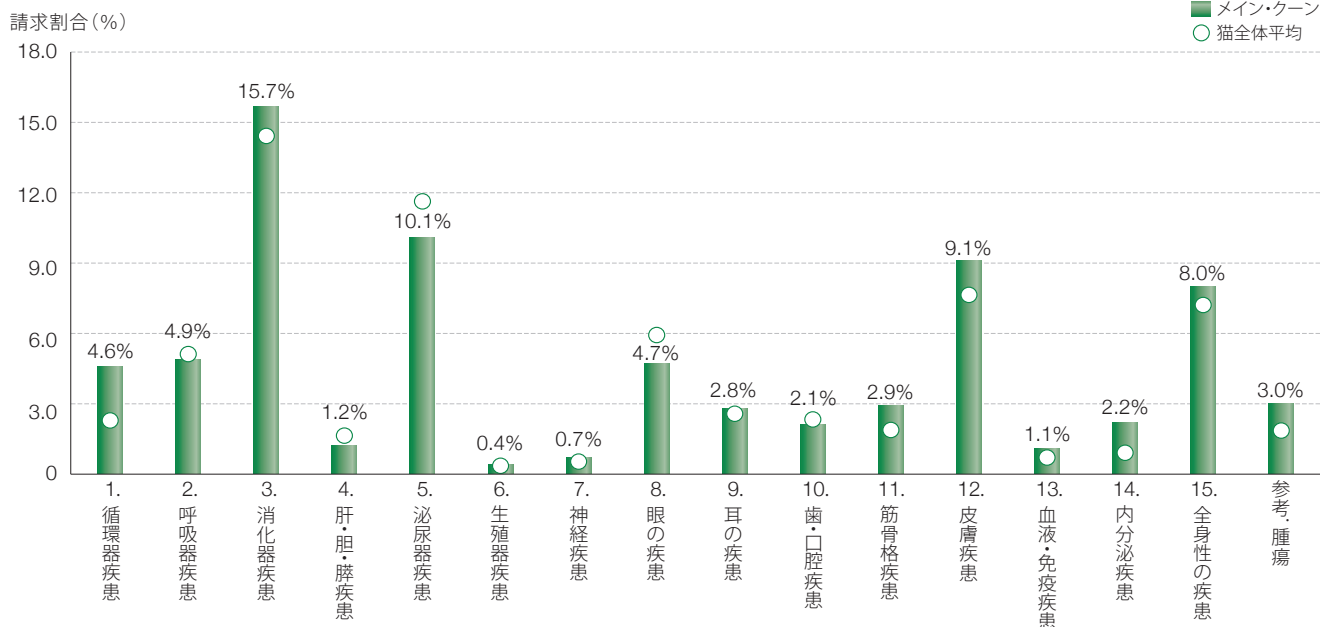
順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ロシアンブルー	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	56	0.9%	1.4%	34,132	18,920	1	0.65	0.50	0.84
2	目やに (原因未定)	42	0.7%	0.9%	24,384	5,170	0	0.71	0.52	0.96
3	胃炎/胃腸炎/腸炎	230	3.7%	5.0%	19,315	8,965	0	0.72	0.63	0.83
4	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	442	7.1%	9.0%	18,552	9,735	0	0.76	0.69	0.84
5	元気喪失 (食欲不振含む、原因未定)	123	2.0%	2.4%	22,399	16,533	0	0.80	0.67	0.96

2-2-112 ~ 2-2-114 / 対象: 6,251頭 (ロシアンブルー、0~12歳)

## 39. メイン・クーン



## 2-2-115 疾患（大分類単位）の請求割合



## 2-2-116 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			メイン・クーン	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	糖尿病	34	0.6%	0.2%	150,082	116,193	11	2.46	1.74	3.49
2	心筋症	126	2.1%	1.1%	86,586	46,420	2	2.04	1.70	2.44
3	その他の循環器疾患	59	1.0%	0.6%	61,291	28,600	0	1.83	1.41	2.38
4	爪の外傷	32	0.5%	0.3%	9,041	7,271	1	1.65	1.15	2.35
5	その他の皮膚の腫瘍	40	0.7%	0.4%	34,967	12,590	0	1.61	1.18	2.22
6	便秘 (巨大結腸症含む)	50	0.9%	0.6%	21,121	12,540	9	1.41	1.06	1.88
7	歩行異常/跛行/四肢の痛み(原因未定)	70	1.2%	0.9%	13,756	10,720	1	1.34	1.05	1.70
8	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	62	1.1%	0.8%	25,211	9,801	2	1.32	1.02	1.70
9	胃炎/胃腸炎/腸炎	332	5.7%	5.0%	22,499	11,985	0	1.15	1.03	1.29
10	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	578	9.8%	9.0%	18,628	9,680	0	1.10	1.01	1.20

## 2-2-117 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			メイン・クーン	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	尿の性状異常 (原因未定)	32	0.5%	0.8%	17,519	11,855	0	0.68	0.48	0.96
2	尿石症	70	1.2%	1.7%	53,192	16,060	1	0.68	0.54	0.87
3	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	64	1.1%	1.5%	8,790	6,050	0	0.74	0.57	0.94
4	膀胱炎	208	3.5%	4.6%	27,947	14,683	1	0.76	0.66	0.87
5	結膜炎 (結膜浮腫含む)	201	3.4%	4.2%	10,970	6,567	0	0.81	0.70	0.93

2-2-115～2-2-117 / 対象：5,871頭 (メイン・クーン、0～12歳)

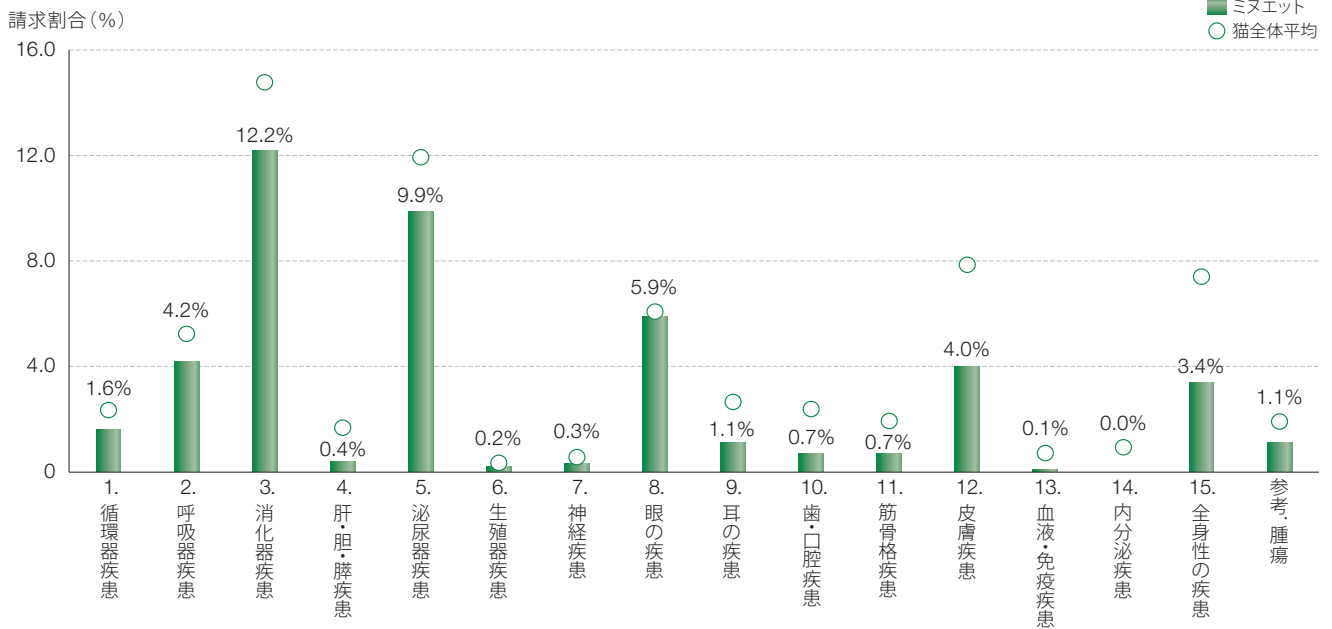


第2部 第2章 品種別の統計

40. ミヌエット



2-2-118 疾患（大分類単位）の請求割合



2-2-119 他猫種に比べ罹りやすい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミヌエット	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	ジアルジア症	31	0.5%	0.2%	15,228	9,304	0	3.30	2.29	4.77
2	皮膚糸状菌症	70	1.2%	0.5%	23,155	11,869	0	2.36	1.85	3.01
3	潰瘍性角膜炎 (角膜びらん含む)	65	1.1%	0.5%	18,966	9,625	0	2.14	1.66	2.75
4	耳疥癬・ミミヒゼンダニ症	37	0.6%	0.3%	15,322	14,281	0	2.08	1.49	2.90
5	疥癬	38	0.6%	0.3%	15,424	14,300	0	2.00	1.44	2.78
6	猫伝染性腹膜炎・FIP	57	0.9%	0.5%	241,356	71,413	0	1.98	1.51	2.59
7	眼瞼炎	50	0.8%	0.4%	6,661	3,875	0	1.92	1.44	2.55
8	結膜炎 (結膜浮腫含む)	458	7.6%	4.2%	9,165	5,698	0	1.91	1.73	2.11
9	流涙症 (涙やけ/涙管閉塞含む)	57	0.9%	0.5%	11,299	6,050	0	1.85	1.42	2.42
10	その他の呼吸器疾患	80	1.3%	0.8%	15,618	10,230	0	1.70	1.36	2.13
11	消化管内異物/誤飲	173	2.9%	1.8%	53,710	13,750	0	1.66	1.42	1.94
12	目やに (原因未定)	91	1.5%	0.9%	7,307	5,479	0	1.63	1.32	2.02
13	猫伝染性鼻気管炎・FVR	82	1.4%	0.9%	11,133	7,035	0	1.60	1.28	2.00
14	嘔吐/下痢/血便 (原因未定)	812	13.4%	9.0%	16,769	8,509	0	1.58	1.47	1.71
15	くしゃみ/鼻汁 (原因未定)	129	2.1%	1.5%	9,458	5,390	0	1.48	1.24	1.77

2-2-120 他猫種に比べ罹りにくい疾患

順位	傷病名	頭数 (頭)	請求割合		年間診療費		最頻値年齢 (歳)	オッズ比	95%信頼区間	
			ミヌエット	猫全体	平均値 (円)	中央値 (円)			下限	上限
1	慢性腎臓病 (腎不全含む)	39	0.6%	2.1%	103,190	77,440	3	0.29	0.21	0.40
2	歯周病/歯肉炎 (乳歯遺残に起因するもの含む)	46	0.8%	1.4%	19,195	9,134	0	0.55	0.41	0.73
3	その他の泌尿器疾患	123	2.0%	3.4%	24,319	13,051	0	0.58	0.49	0.70
4	心筋症	46	0.8%	1.1%	68,229	38,720	1	0.69	0.51	0.92
5	アレルギー性皮膚炎 (抗原特異的)	35	0.6%	0.8%	19,082	10,230	0	0.70	0.50	0.99

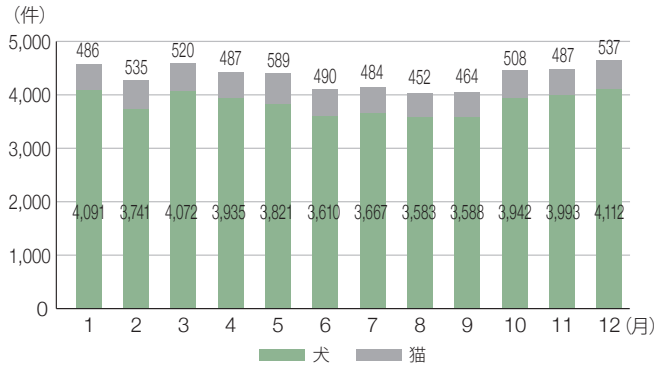
2-2-118 ~ 2-2-120 / 対象: 6,058頭 (ミヌエット、0 ~ 12歳)

第2部 ペットと人の疾患統計

第2部 第3章 疾患（小分類単位）別の統計

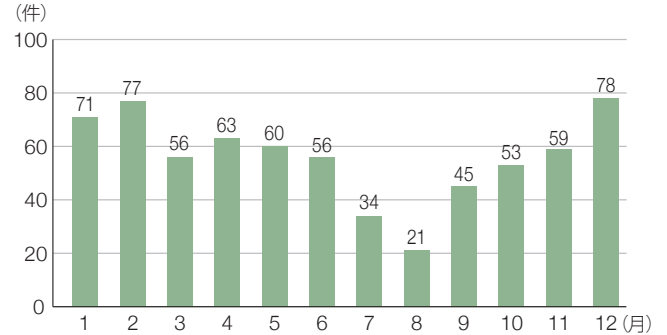
1. 犬・猫の誤飲

2-3-1 犬・猫の誤飲による診療件数の月別推移



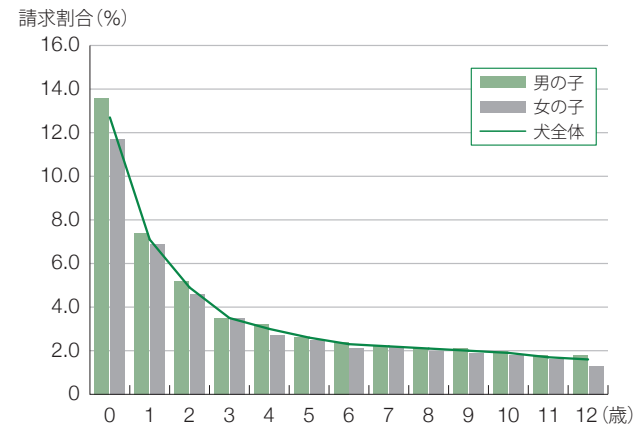
2-3-1 2022年度にアニコム損保のペット保険に契約した犬・猫について、誤飲で請求のあった52,194件（犬46,155件、猫6,039件）の月別の診療件数を示した。

2-3-2 犬のチョコレート中毒による診療件数の月別推移



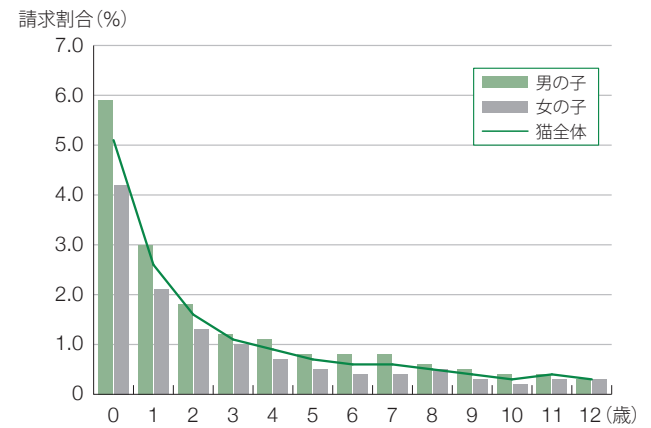
2-3-2 2022年度にアニコム損保のペット保険に契約した犬について、チョコレート中毒で請求のあった673件の月別の診療件数を示した。

2-3-3 犬の誤飲による請求割合の年齢推移



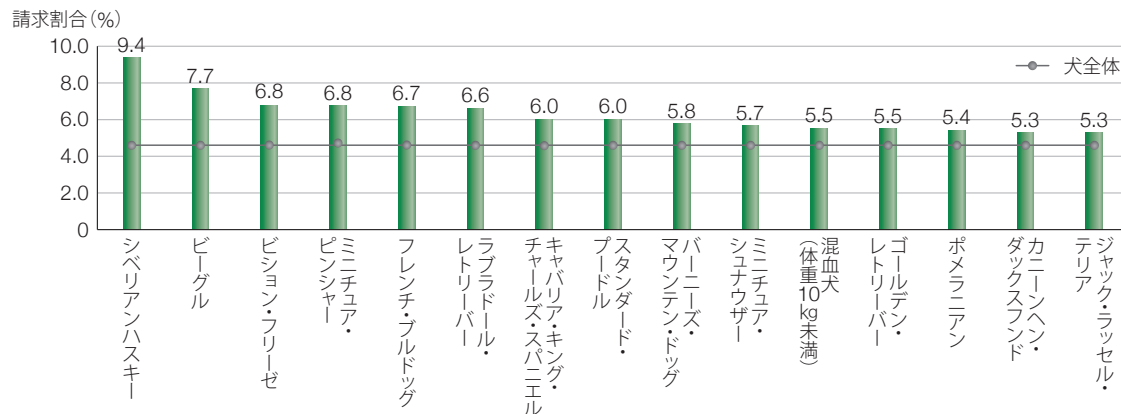
2-3-3 2022年度にアニコム損保のペット保険に契約した0～12歳の犬704,442頭について、誤飲の請求割合を年齢別に示した。

2-3-4 猫の誤飲による請求割合の年齢推移



2-3-4 2022年度にアニコム損保のペット保険に契約した0～12歳の猫231,817頭について、誤飲の請求割合を年齢別に示した。

2-3-5 犬種別の誤飲による請求割合



2-3-5 2022年度にアニコム損保のペット保険に契約した0～12歳の犬704,442頭を対象に、誤飲の請求割合が高い犬種上位15種を示した。犬種は各母集団において1,000頭以上のもののみを対象とした。

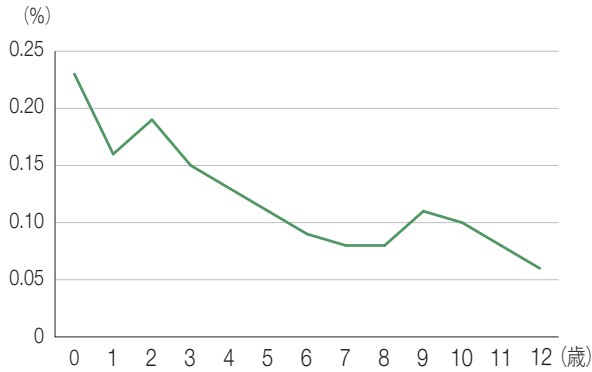
※本稿における誤飲：消化管内異物/誤飲、タマネギ中毒/ネギ中毒、チョコレート中毒、ユリ/観葉植物等による中毒、人体薬による中毒、殺鼠剤/除草剤等による中毒、その他の中毒性疾患を含む。



第2部 第3章 疾患（小分類単位）別の統計

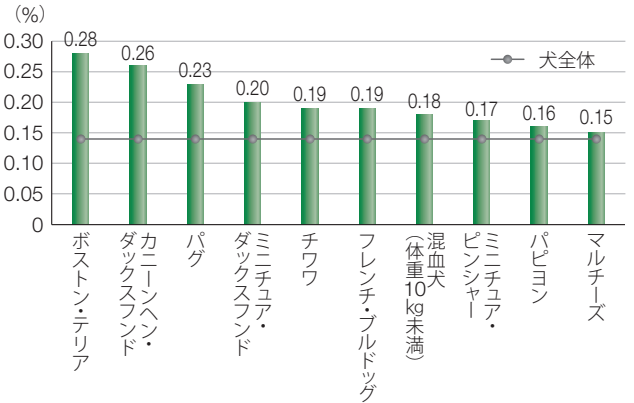
2. 予防処置に関わる疾患

2-3-6 犬のワクチンアレルギーによる請求割合の年齢推移



2-3-6 2022年度にアニコム損保に契約した0～12歳の犬704,442頭について、ワクチンアレルギーの請求割合を年齢別に示した。

2-3-7 犬種別のワクチンアレルギーによる請求割合



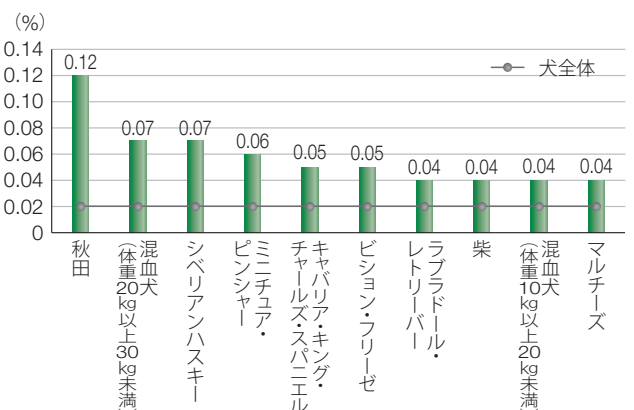
2-3-7 2022年度にアニコム損保に契約した犬704,442頭（0～12歳、性別不明除く）を対象に、ワクチンアレルギーの請求割合が高い犬種上位10種を示した。犬種は各母集団において1,000頭以上のもののみを対象とした。※年齢補正なし・参考値。

2-3-8 犬のフィラリア症による都府県別請求割合

都府県	請求頭数	総頭数	請求割合 (%)	都府県	請求頭数	総頭数	請求割合 (%)
1. 宮城県	17	11,121	0.15	12. 熊本県	1	6,276	0.02
2. 岐阜県	17	12,701	0.13	13. 兵庫県	6	38,120	0.02
3. 千葉県	32	44,569	0.07	14. 京都府	2	16,665	0.01
4. 静岡県	14	24,562	0.06	15. 栃木県	1	8,572	0.01
5. 東京都	40	86,895	0.05	16. 岡山県	1	9,155	0.01
6. 佐賀県	1	2,260	0.04	17. 三重県	1	11,419	0.01
7. 山口県	2	5,830	0.03	18. 広島県	1	13,165	0.01
8. 群馬県	3	9,373	0.03	19. 茨城県	1	13,474	0.01
9. 宮崎県	1	3,977	0.03	20. 埼玉県	3	58,046	0.01
10. 福島県	2	8,294	0.02	21. 大阪府	2	65,613	0.00
11. 神奈川県	15	69,345	0.02	22. 愛知県	2	65,685	0.00
全国	165	771,048	0.02				

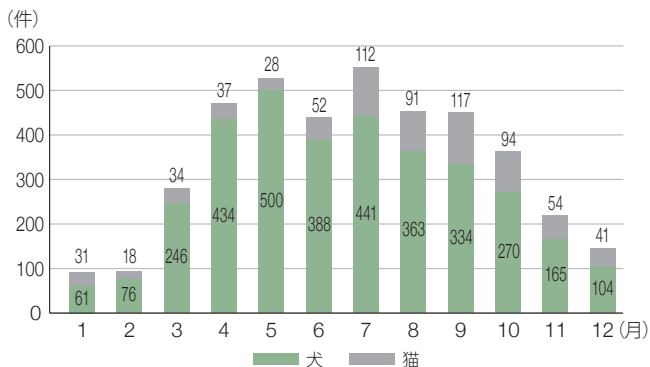
2-3-8 2022年度にアニコム損保に契約した犬771,048頭（全年齢、性別不明除く）を対象に、フィラリア症で請求があった都府県を、請求割合の高い順に示した。※年齢補正なし・参考値。

2-3-9 犬種別のフィラリア症による請求割合



2-3-9 2022年度にアニコム損保に契約した犬704,442頭（0～12歳、性別不明除く）を対象に、フィラリア症の請求割合が高い犬種上位10種を示した。犬種は各母集団において1,000頭以上のもののみを対象とした。※年齢補正なし・参考値。

2-3-10 犬・猫のノミ・マダニ等の外部寄生虫による診療件数の月別推移



2-3-10 2022年度にアニコム損保に契約した犬・猫について、ノミ・マダニ等の外部寄生虫で請求があった4,091件（犬3,382件、猫709件）の月別の診療件数を示した。

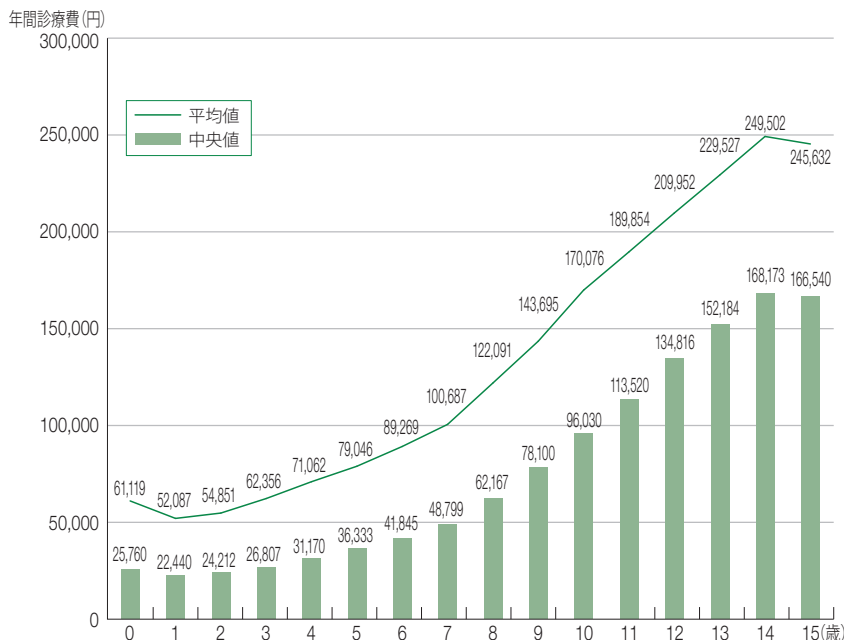
2-3-11 犬のノミ・マダニ等の外部寄生虫による都道府県別請求割合

都道府県	請求頭数	総頭数	請求割合 (%)	都道府県	請求頭数	総頭数	請求割合 (%)
1. 愛媛県	44	3,618	1.2	12. 大阪府	302	65,613	0.5
2. 広島県	121	13,165	0.9	13. 鹿児島県	13	3,076	0.4
3. 北海道	370	46,577	0.8	14. 山口県	22	5,830	0.4
4. 長崎県	38	4,910	0.8	15. 滋賀県	35	9,277	0.4
5. 香川県	22	2,995	0.7	16. 三重県	43	11,419	0.4
6. 秋田県	16	2,432	0.7	17. 静岡県	92	24,562	0.4
7. 和歌山県	30	5,097	0.6	18. 福島県	30	8,294	0.4
8. 岐阜県	71	12,701	0.6	19. 岡山県	33	9,155	0.4
9. 石川県	28	5,230	0.5	20. 佐賀県	8	2,260	0.4
10. 山形県	18	3,492	0.5	21. 新潟県	31	9,126	0.3
11. 高知県	12	2,381	0.5	全国	2,615	771,048	0.3

2-3-11 2022年度にアニコム損保に契約した犬771,048頭（全年齢、性別不明除く）を対象に、ノミ・マダニ等の外部寄生虫で請求があった都道府県を、請求割合の高い順に示した。※全国より高い請求割合の都道府県のみ表示。年齢補正なし・参考値。

# 1. 犬・猫の診療費と診療内容

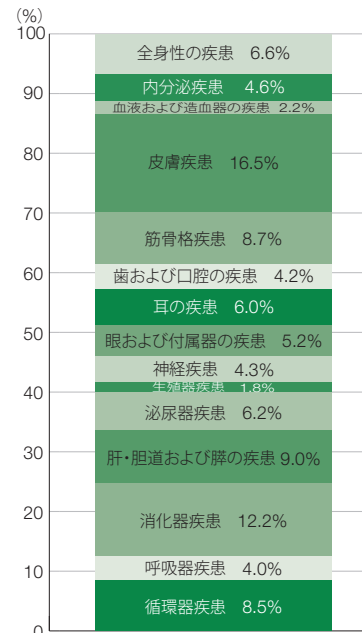
## 2-4-1 犬の年齢別の年間診療費



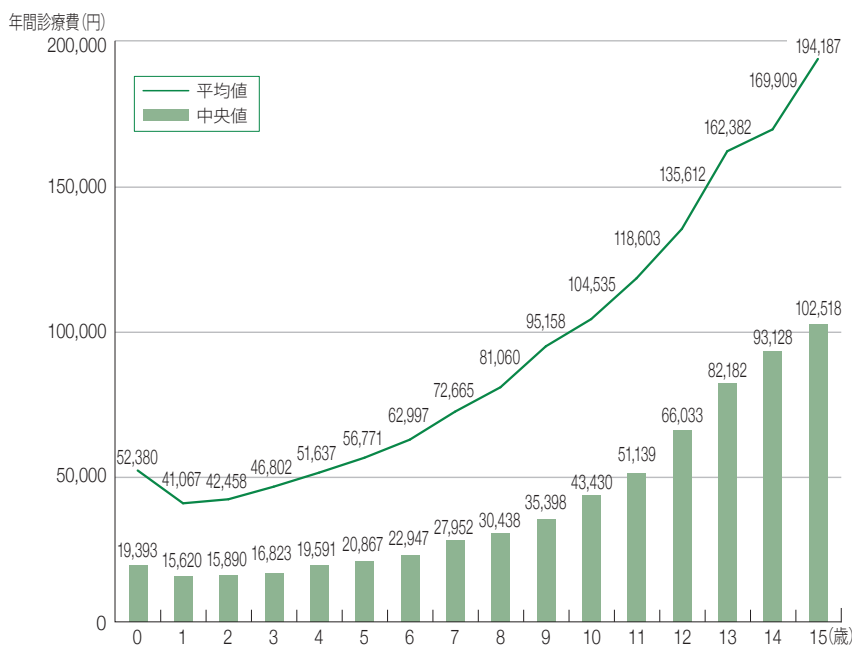
2-4-1、2-4-2  
対象：758,512頭（犬、0～15歳）

2022年度にアニコム損保の保険契約を開始した犬（0～15歳）において、各疾患で請求のあった個体の診療費を集計した。※通院・入院・手術を含む。  
なお平均診療費の分母は診療があった頭数とし、診療費が0円の請求は除外している。

## 2-4-2 犬の診療費における疾患の内訳



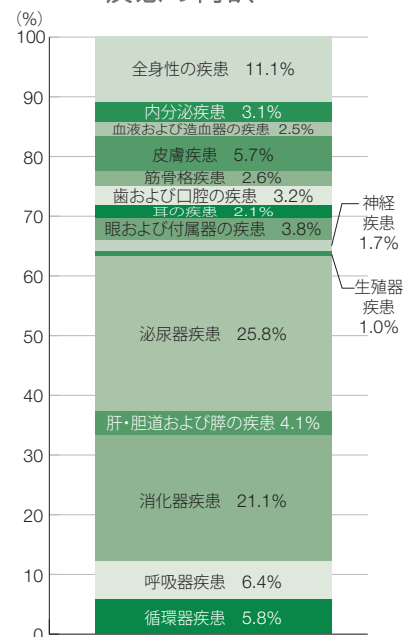
## 2-4-3 猫の年齢別の年間診療費



2-4-3、2-4-4  
対象：240,833頭（猫、0～15歳）

2022年度にアニコム損保の保険契約を開始した猫（0～15歳）において、各疾患で請求のあった個体の診療費を集計した。※通院・入院・手術を含む。  
なお平均診療費の分母は診療があった頭数とし、診療費が0円の請求は除外している。

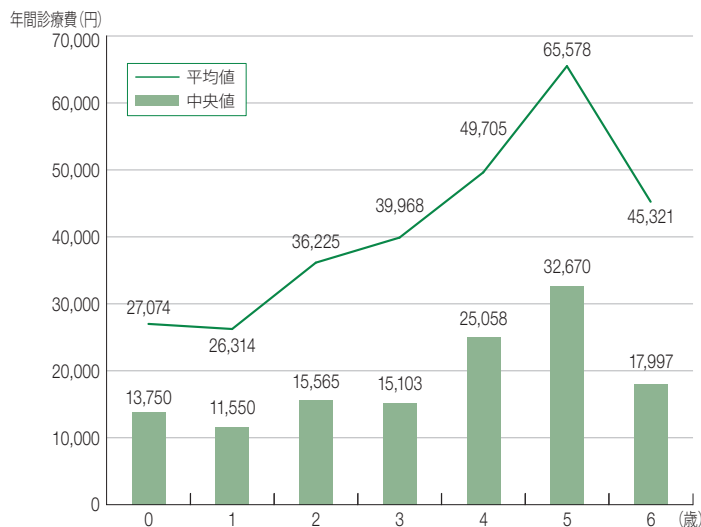
## 2-4-4 猫の診療費における疾患の内訳



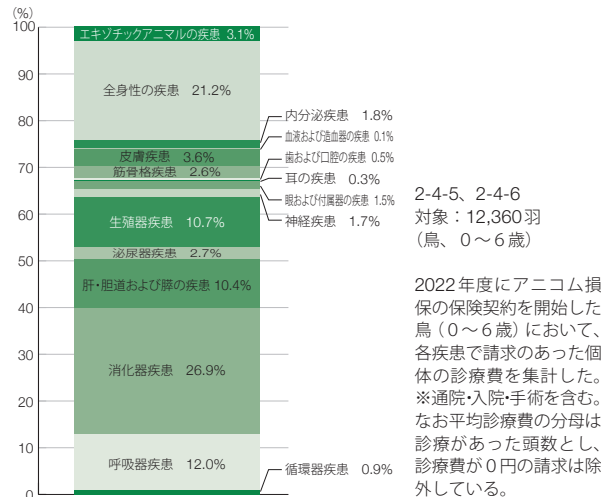


## 2. 鳥・うさぎ・フェレットの診療費と診療内容

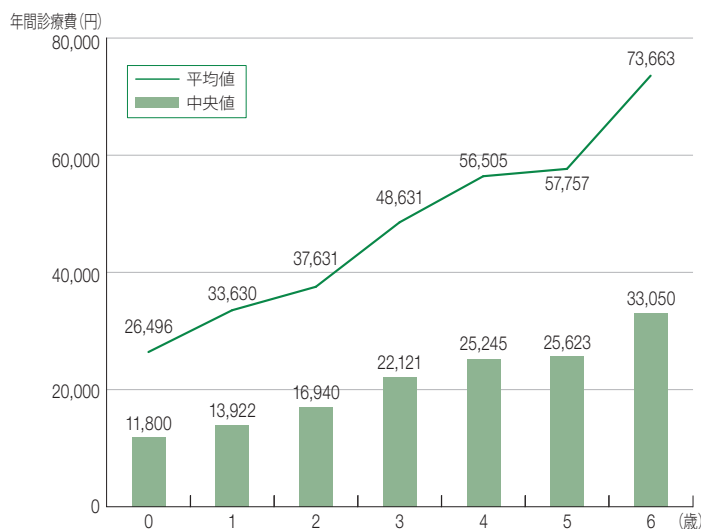
### 2-4-5 鳥の年齢別の年間診療費



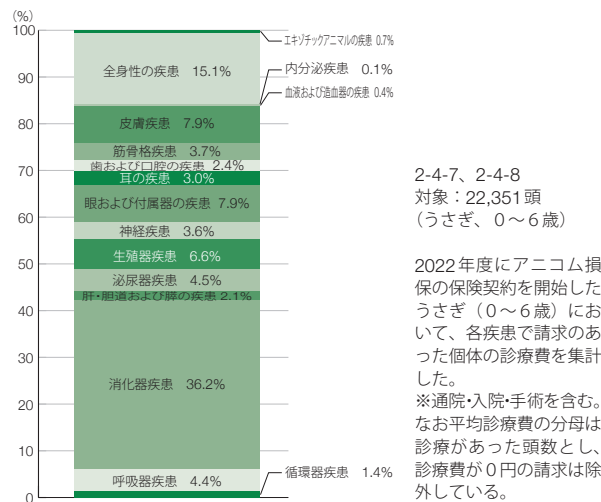
### 2-4-6 鳥の診療費における疾患の内訳



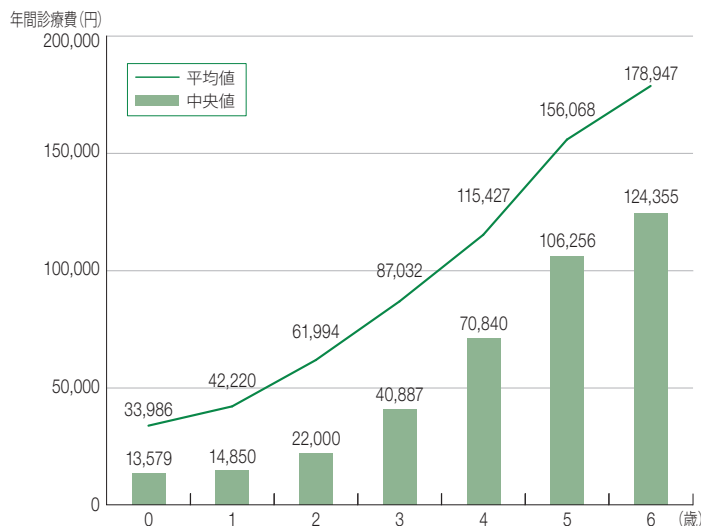
### 2-4-7 うさぎの年齢別の年間診療費



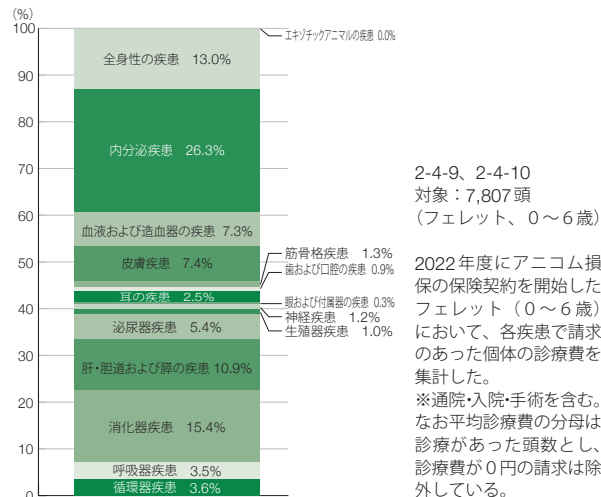
### 2-4-8 うさぎの診療費における疾患の内訳



### 2-4-9 フェレットの年齢別の年間診療費



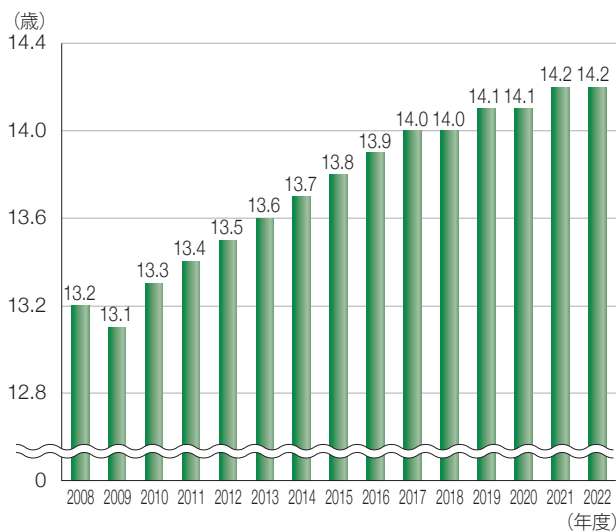
### 2-4-10 フェレットの診療費における疾患の内訳



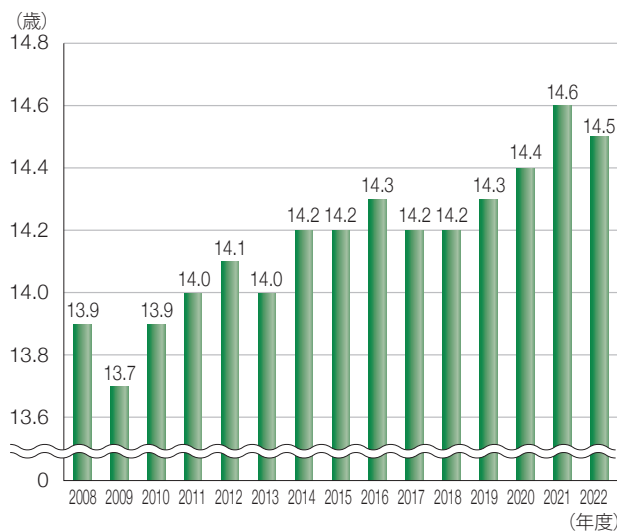
第2部 第5章 どうぶつの寿命

1. 犬・猫の寿命

2-5-1 犬の平均寿命の推移



2-5-2 猫の平均寿命の推移



2-5-3 犬種別の平均寿命（2022年度）

犬種	サイズ	平均寿命(歳)
トイ・プードル	小型	15.3
チワワ	小型	13.9
混血犬（体重10kg未満）	小型	14.7
柴	中型	14.7
ミニチュア・ダックスフンド	小型	14.9
ポメラニアン	小型	13.7
ミニチュア・シュнауザー	小型	13.6
ヨークシャー・テリア	小型	13.8
フレンチ・ブルドッグ	中型	11.1
マルチーズ	小型	13.6
シー・ズー	小型	14.0
カニンヘン・ダックスフンド	小型	14.8
パピヨン	小型	14.5
ゴールデン・レトリバー	大型	10.9
ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	中型	12.3
ジャック・ラッセル・テリア	小型	14.4
ラブラドル・レトリバー	大型	12.7
バグ	小型	12.6
キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	小型	12.4
ミニチュア・ピンシャー	小型	14.3
混血犬（体重10kg以上20kg未満）	中型	13.6
ペキニーズ	小型	13.1
イタリアン・グレーハウンド	小型	14.5
ボーダー・コリー	中型	13.0
ビーグル	中型	13.4
ビション・フリーゼ	小型	14.0
シェットランド・シープドッグ	小型	12.3
ボストン・テリア	小型	12.3
アメリカン・コッカー・スパニエル	中型	13.2
日本スピッツ	小型	13.1
パーニーズ・マウンテン・ドッグ	大型	8.8
秋田	大型	11.8
スタンダード・プードル	中型	11.7
混血犬（体重20kg以上30kg未満）	大型	13.2
シベリアンハスキー	大型	11.3
甲斐	中型	14.3
ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	小型	13.9
イングリッシュ・コッカー・スパニエル	中型	14.1
ブルドッグ	大型	8.7
ノーフォーク・テリア	小型	12.7

2-5-4 猫種別の平均寿命（2022年度）

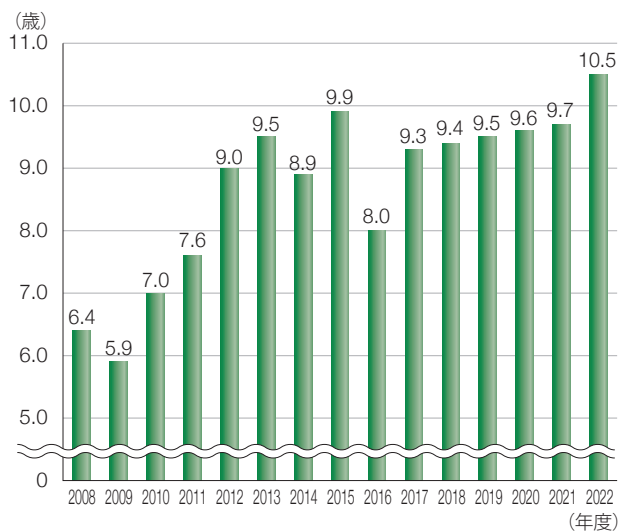
猫種	平均寿命(歳)
混血猫	15.0
スコティッシュ・フォールド	13.6
アメリカン・ショートヘア	13.7
マンチカン	13.8
ノルウェージャン・フォレスト・キャット	13.7
ブリティッシュ・ショートヘア	13.7
ラグドール	14.5
日本猫	15.1
ロシアンブルー	13.7
メイン・クーン	12.8
ミヌエット	10.6
ベンガル	14.0
サイベリアン	12.7
ラガマフィン	13.6
ペルシャ（チンチラ）	14.9
ソマリ	13.5
エキゾチック・ショートヘア	13.4
ペルシャ	14.1
アメリカン・カール	14.7
アビシニアン	14.5

2-5-1～2-5-4  
 2008年4月1日～2023年3月31日までに、アニコム損保のペット保険の契約を開始した犬・猫を対象に、年度ごとに各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。  
 なお、ペット保険における死亡解約の手続きは遅及して受け付けることもあるため、過去に発行した『家庭どうぶつ白書』記載の平均寿命と差異が生じる場合がある。各品種の比較では、犬は契約頭数の上位40品種を、猫は上位20品種を対象にそれぞれ生命表を作成し、平均寿命を比較した。

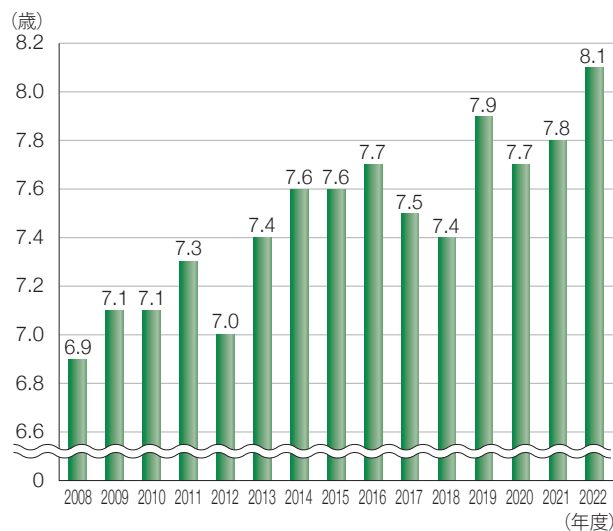


## 2. エキゾチックアニマルの寿命

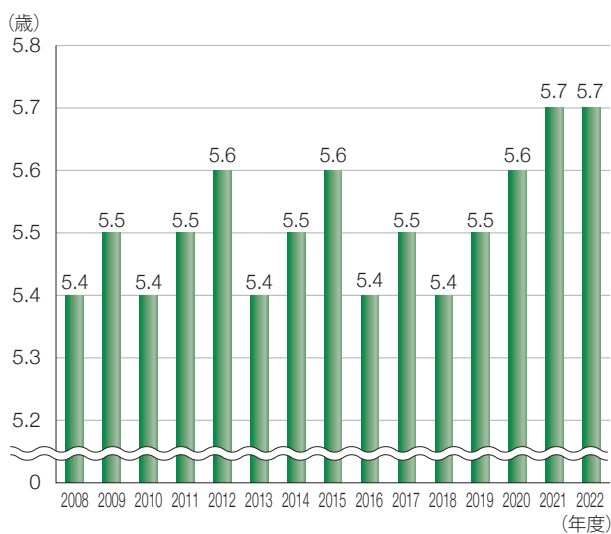
2-5-5 鳥の平均寿命の推移



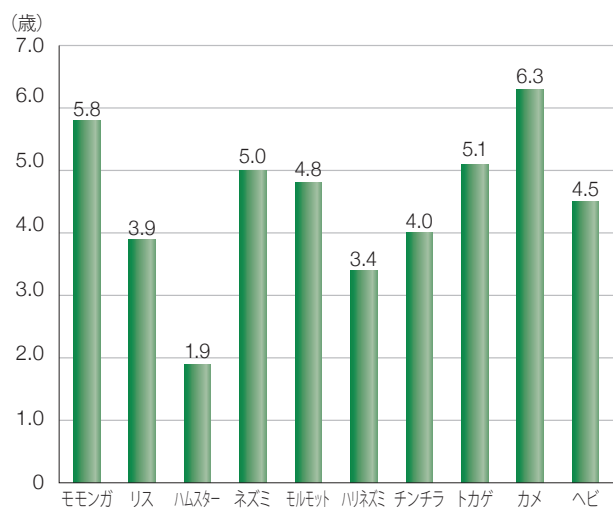
2-5-6 うさぎの平均寿命の推移



2-5-7 フェレットの平均寿命の推移



2-5-8 その他のエキゾチックアニマルの平均寿命(2022年度)



2-5-5～2-5-7

2008年4月1日～2023年3月31日までに、アニコム損保のペット保険の契約を開始した各エキゾチックアニマルを対象に、年度ごとに各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。  
 なお、ペット保険における死亡解約の手続きは遡及して受け付けることもあるため、過去に発行した『家庭どうぶつ白書』記載の平均寿命と差異が生じる場合がある。

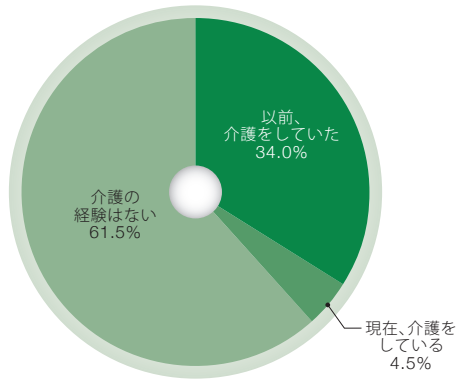
2-5-8

2022年4月1日～2023年3月31日までに、アニコム損保のペット保険の契約を開始した各エキゾチックアニマルを対象に、2022年度の各年齢での契約頭数と、それらのうち死亡解約の届け出のあった頭数を集計し、カレント生命表を作成した。0歳時点での平均余命を平均寿命とした。

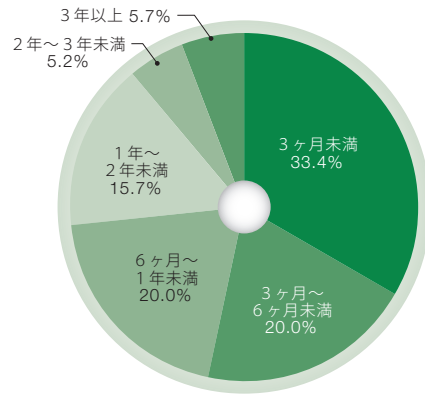
第2部 第5章 どうぶつの寿命

3. どうぶつの介護に関する調査

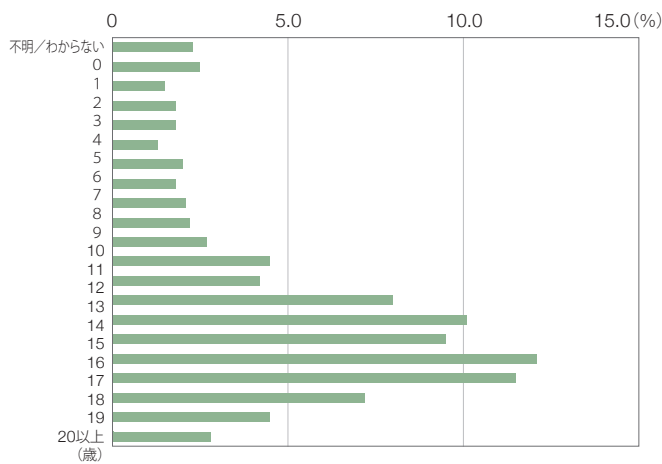
2-5-9 介護の経験



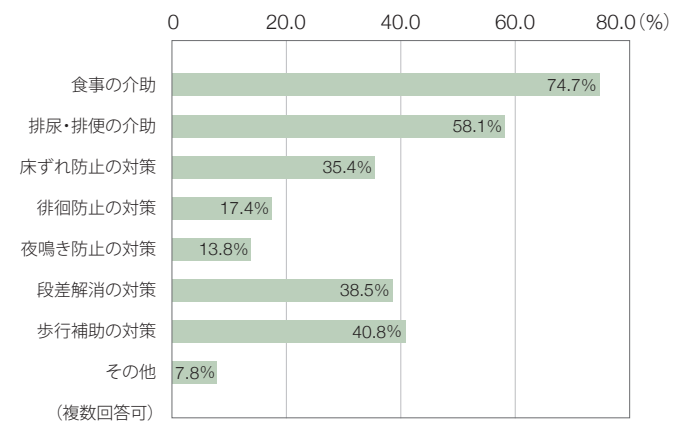
2-5-10 介護の期間



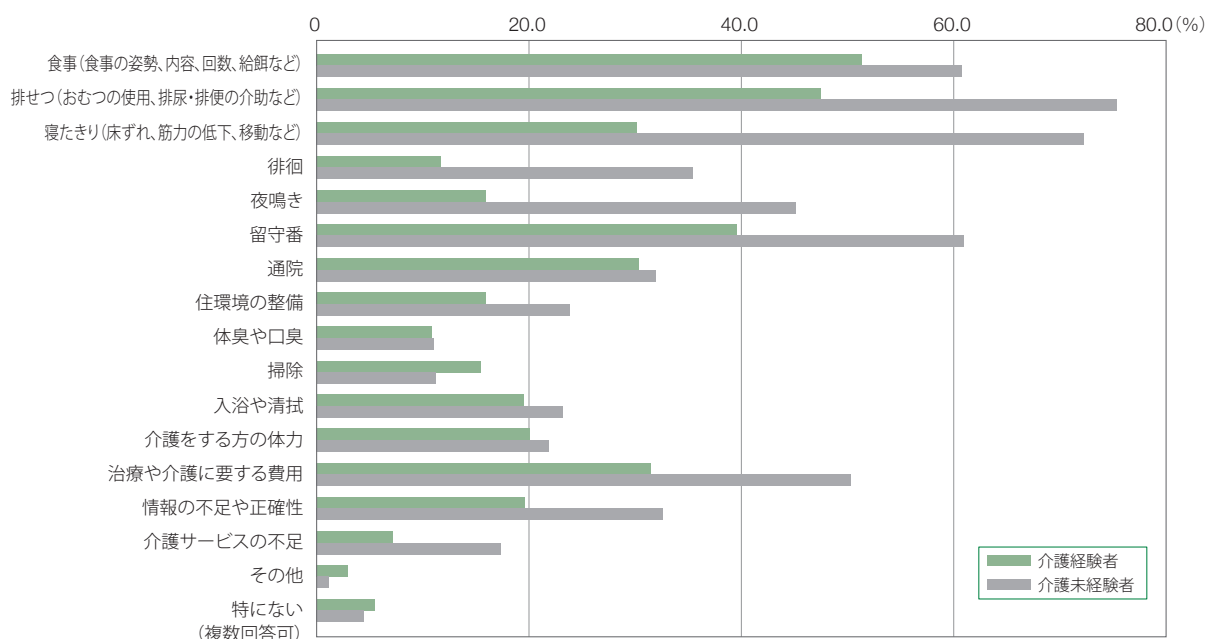
2-5-11 介護が必要になった年齢



2-5-12 経験した介護の内容



2-5-13 介護で困ったこと・将来の介護について心配なこと



2-5-9 ~ 2-5-13

【調査方法】アニコムの契約者向けアンケートサイト「ani voice」でアンケートを実施。どうぶつ種はアニコム損保のペット保険補償対象の15種すべて。

【調査期間】2023年12月1日～12月15日

【回答数】3,370人 (うち介護経験者1,300人、介護未経験者2,070人)



## 第3部

# アニコムの取り組み

### [アニコムの取り組みについて]

アニコムグループが「予防型保険会社グループ」を目指す取り組みの一環として行っている、犬の口腔内・腸内環境と健康の関係に関する研究と、近年、着実に進歩しているどうぶつにおける再生医療の取り組みについて、担当者の想いと共にご紹介します。ぜひご覧ください。

## 3. Our Initiatives

## 1. 歯周病関連菌と疾病の関係

アニコムグループ（以下、アニコム）では2000年の創業当初から「予防型保険」を目指しているが、その一環として健康と深い関わりがあるとされているどうぶつの腸内細菌の研究を行っている。昨今は、とりわけ「万病のもと」といわれる歯周病に着目し、腸内細菌との関わりについて研究を積み重ねてきた。本稿では、そこから得られた成果について紹介する。

### 歯周病関連菌<sup>1</sup>の選定

「歯周病は万病のもと」という言葉は広く認知されているものの、そのメカニズムは完全には解明されていない。またヒト医療分野においては歯周病の原因菌、あるいは歯周病と関連のある細菌はある程度明らかになっているのに対して、獣医療分野においてはまだまだ不十分な領域であるといえる。2016年から次世代シーケンサーを導入し細菌叢解析を行っているアニコムにおいても、どうぶつの歯周病の原因と考えられる細菌の特定はできていなかった。そこでアニコム損保に契約している犬を対象に、腸内細菌叢の測定結果と保険金請求データを統計学的に解析した結果、犬において歯周病に関わりがある20種の細菌（以下、歯周病関連菌）を選定することに成功した。これらの結果を踏まえ、アニコムでは加齢などの要因によって生じる腸内フローラの多様性の低下や、健康への影響度の大きい細菌の占有率の変化をいかに改善するかが重要と考えている。これまでも多様性を補うフードの開発などを進めてきているが、今後さらにソリューションの提案に注力していく。

\*1 アニコム損保の保険金請求データとどうぶつ健活（腸内フローラ測定）データを用い、アニコムのラボにおいて選定した、歯周病罹患と関係があると考えられる細菌20種。

### 歯周病関連菌の検出率と加齢の関係

次にアニコム損保に契約している犬を対象に、腸内細菌叢における歯周病関連菌の有無を調べたところ、12%の犬の腸内から1種類以上の歯周病関連菌が見つかった（図1）。さらに腸内の歯周病関連菌の検出率は、加齢とともに上昇していることもわかった（図2）。

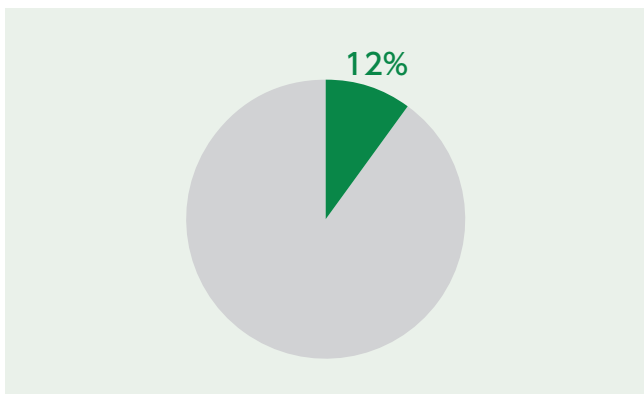


図1 犬における歯周病関連菌の検出率

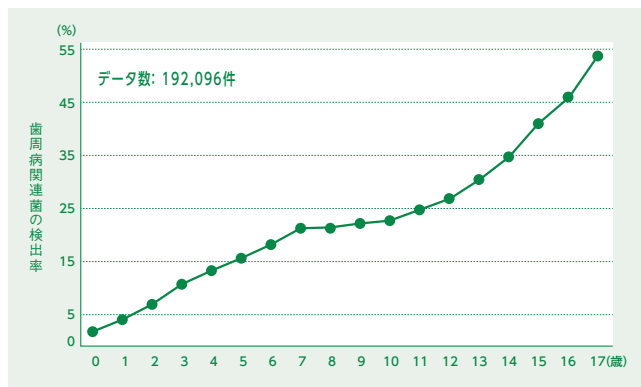


図2 犬における年齢別の歯周病関連菌の検出率

これは加齢に伴い口腔内の健康状態が悪化し、歯周病関連菌が増加し体内への流入量が増加すること、また腸内の免疫低下によって消化管内の歯周病関連菌が増殖したことが原因と考えられる。

また、歯周病関連菌の保有の有無と保険事故発生率の関係について調査したところ、すべての年齢において、腸内に歯周病関連菌を持っている犬ほど保険事故発生率が高い（病気に罹りやすい）ことが明らかとなった（図3）。さらに腸内細菌叢から歯周病関連菌が検出されると、すべての年齢で犬の15の疾患分類のうち11疾患<sup>\*2</sup>、すなわち約73%の疾患において有病率を上昇させることがわかった。これらのことから、犬においては「歯周病が万病のもと」であることが一定程度示唆されたと考えている。

\*2 15の疾患分類のうち11疾患：アニコム損保のペット保険で定める15の疾患分類のうち、消化器疾患、呼吸器疾患、血液および免疫疾患、泌尿器疾患、眼および付属器の疾患、全身性疾患、歯および口腔内の疾患、筋骨格系の疾患、内分泌系の疾患、肝胆膵系の疾患、神経疾患の11疾患。

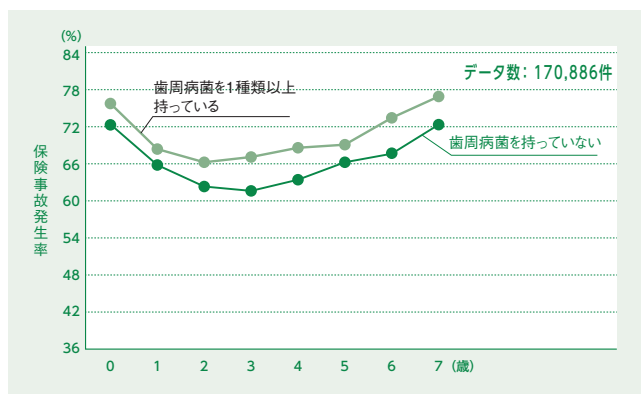


図3 歯周病関連菌の有無と保険事故発生率の関係



## 第3部 アニコムの取り組み

### 免疫の指標となり得る腸内細菌の多様性

病気の予防には免疫が大切であると広くいわれているが、これまで免疫を客観的に評価する指標は存在しなかった。そのため有病率との関係がみられる腸内細菌の多様性という指標の発見は、すなわち免疫の一部の数値化に成功したものであると考えている。本調査において、腸内環境の多様性が低下するほど、疾病の有病率が上昇することが明らかになった(図4)。また、前年に「歯周病に罹患していた群」と「していなかった(無事故の)群」を比較したところ、歯周病罹患群の方が腸内細菌の多様性が低下していたことがわかった(図5)。

さらにアニコム損保の保険契約件数が多い上位30犬種のうち、腫瘍性疾患における請求割合が10%を超えている10犬種(アメリカン・コッカー・スパニエル、ウェルシュ・コーギー・ペンブローク、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、バーニーズ・マウンテン・ドッグ、ビーグル、フレンチ・ブルドッグ、ボストン・テリア、ミニチュア・シュナウザー、ラブラドル・レトリバー)の腸内環境の善悪および腸内における歯周病関連菌の有無と腫瘍性疾患の有病率の関係について調査したところ、どの年齢帯においても「腸内環境が悪い+歯周病菌を持っている群」は「腸内環境が良い+歯周病菌を持っていない群」に比べて、腫瘍性疾患の有病率が高いことがわかった(図6)。つまり、健康維持・増進・疾病予防において、腸内環境の多様性を向上させ、かつ歯周病関連菌が検出されない状態を目指すことが解決策の1つになると考えられる。

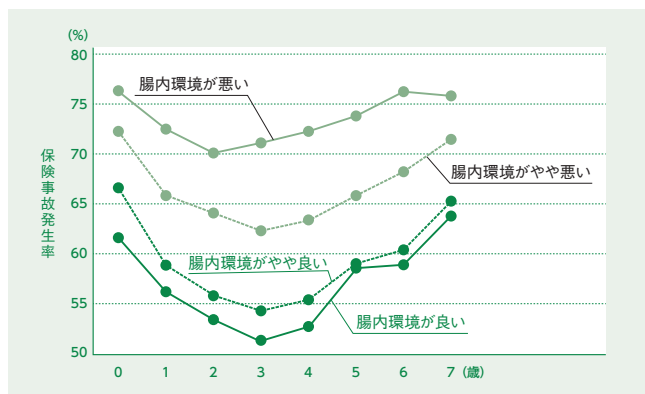


図4 腸内環境の多様性と保険事故率の関係

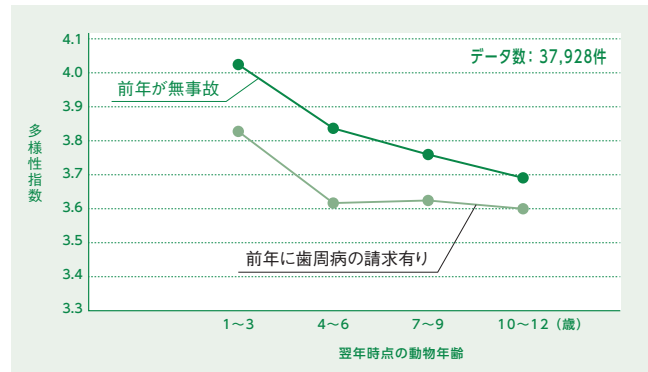


図5 歯周病罹患有無と翌年の腸内環境の多様性

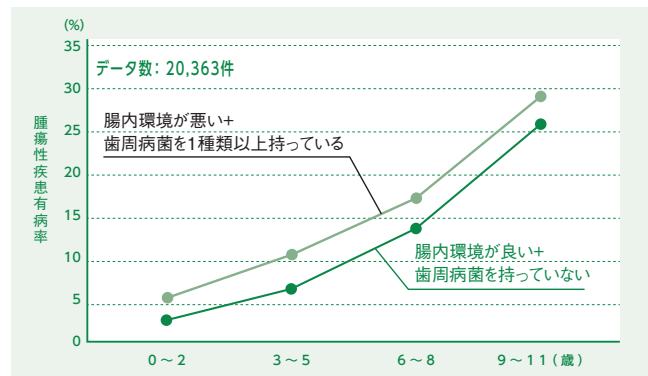


図6 歯周病関連菌と腸内細菌・腫瘍性疾患有病率の関係

### さいごに

本調査により、犬の口腔内・腸内環境はがんを含めたほぼすべての疾病の有病率に密接な関係があることが明らかになった(なお、本調査結果は2024年7月20日に開催された「第78回 NPO法人日本口腔科学会学術集会」にて発表している)。この結果はアニコムの使命である「予防型保険」の大きな一歩であると考えている。また、「入って健康になる保険」として、アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」が2024年度グッドデザイン賞を受賞したが、腸内フローラ測定において健康に見える化したことが受賞ポイントの1つとなっている。保険会社のような金融関連企業の受賞は多くないなか、「入って健康になる保険」が評価されたことは、アニコムの「予防型保険」を後押ししてくれるものとなるだろう。引き続きアニコムでは調査研究・取り組みを通じて、さまざまな疾病予防の実現を目指していきたいと考えている。

### 図1、図2、図3、図6

対象：どうぶつ健活を2018年12月～2023年12月に実施したどうぶつのうち、2021年3月～2022年12月にアニコム損保の保険契約を開始した犬(しにあプランの契約を除く)。

図4 対象：どうぶつ健活を2018年12月以降に実施したどうぶつのうち、2021年3月～2023年12月にアニコム損保の保険契約を開始した犬(誤飲・骨折を罹患した犬は除く)。

図5 対象：どうぶつ健活を2018年12月～2024年2月に実施したどうぶつのうち、2021年3月～2024年2月にアニコム損保の保険契約を開始し、2年連続でどうぶつ健活を実施している犬。

## 2. 再生医療の可能性 ～イヌ血小板由来成長因子を用いた臨床研究～

昨今、「再生医療」や「幹細胞」という言葉は非常に身近になってきた。ヒト領域では、医療分野のみならず化粧品やサプリメント等日用品にも応用がなされて、一般消費者にとっても縁遠いものではなくなっている。獣医療においても、再生医療・幹細胞投与の実用化に向けて治療効果や安全性の検証が盛んに進められている。アニコム先進医療研究所株式会社も加入する「動物再生医療技術研究組合（以下、PARM<sup>®</sup>）」でも、どうぶつが再生医療を身近に受けられる社会を目指し、投与実績を積み重ねている。本稿ではPARMが実施する再生医療臨床研究の概要と、新たに開始したイヌ血小板由来成長因子（cPGF<sup>™</sup>）を用いた臨床研究についてご紹介したい。

※ PARM：Research and Development Partnership for Animal Regenerative Medicine

### 再生医療・細胞療法とは

再生医療とは、機能不全に陥った生体組織や臓器に対して、細胞や人工的な材料を利用して機能の再生を図るものを指す。体外で培養・増殖した細胞を投与する細胞療法や、皮膚や心臓など特定の細胞に分化させて使用する方法、血液の一部を濃縮して使用するPRP（platelet rich plasma：多血小板血漿）療法などさまざまな存在し、日々進歩を続けている。

PARMでは、おもに脂肪組織から培養される幹細胞（間葉系幹細胞）の投与（幹細胞投与）による細胞療法を行っている。幹細胞にはさまざまな細胞へ分化する能力のほか、多彩な生理活性物質を分泌する能力があり、炎症の抑制、免疫機能の調整によって、身体を正常な状態に戻す働きがあると考えられている。患部で悪さをしている部分を直接叩くことが中心となる薬剤による治療とは異なり、身体が本来有する修復機能や自己治療力を利用する点が、幹細胞を用いた細胞療法の大きな特徴である。

### PARMの臨床研究実績

PARMの活動が開始された2019年12月から2024年4月までのおよそ4年半において、犬で522症例、猫で285症例に対する幹細胞投与が実施されており、投与回数としては犬で711回、猫で376回の計1,087回にのぼる。またPARMの加入病院数は全国771病院となり、47都道府県すべてで展開が可能となった（図1）。また、

2023年9月にはセルソース株式会社と共同し、新たな再生医療として「イヌ血小板由来成長因子（cPGF<sup>™</sup>）」の臨床研究もスタートしており、さらなる研究が期待されるところである。

### イヌ血小板由来成長因子（cPGF<sup>™</sup>）とは

イヌ血小板由来成長因子（以下、cPGF<sup>™</sup>）とは、セルソース株式会社が保有する特許技術を応用し、PRPから有効成分である成長因子を抽出し、凍結乾燥させた濃縮物である。PRPとは血液から採取した血小板を高濃度に含む血漿のことであり、抗炎症効果や組織修復促進効果があることが報告されている。

### ヒト領域における特許技術を用いた血液加工物の実績

セルソース株式会社が保有する特許技術を用いた血液加工物は、国内でも多くの変形性関節症や不妊症等に使用されており、累計90,000件以上の使用実績が報告されている（2024年10月時点）。そのなかでも変形性膝関節症（膝OA）における国内のエビデンスとしては、単回投与で12ヶ月後の奏効率が約6割を示し、重症度が低いほど奏効率が高いことが報告されている<sup>\*1</sup>。さらには、投与後に荷重関節の軟骨体積が有意に増加することや<sup>\*2</sup>、非凍結乾燥のPRPと比較して、注射部位の疼痛や腫脹が少ないことが報告されており<sup>\*3</sup>、日本人膝OA患者への有用性が示されている。

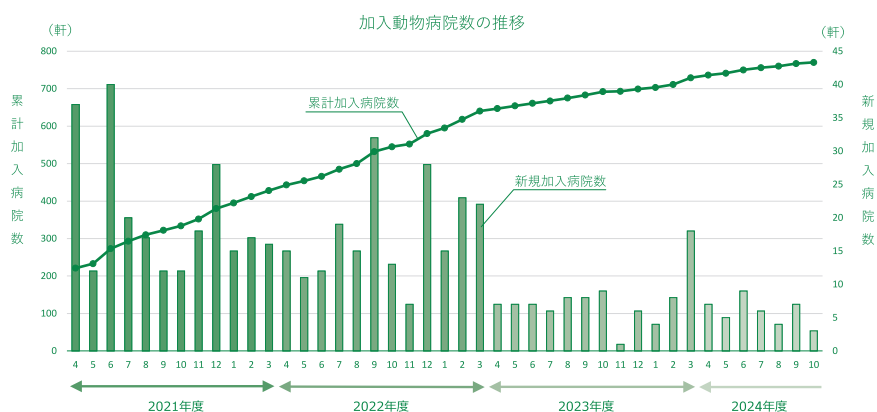
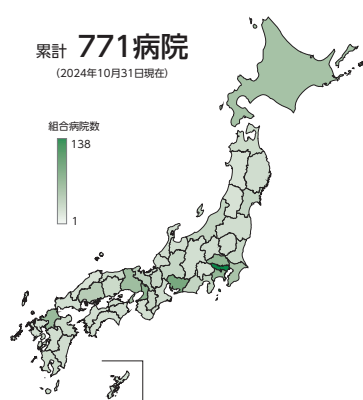


図1 PARMでの幹細胞投与が可能な動物病院数の分布と推移





## 第3部 アニコムの取り組み

### cPGF™を生成するために使用した特許技術

セルソース株式会社では前述のとおり、血液加工の特許技術（図2）を有しており、血液を遠心分離後、痛みの成分を放出する白血球を含む細胞を除去し、血小板を活性化させた後に有効成分を抽出・凍結乾燥している。そのため、投与後の疼痛が少ないことが想定され、かつ凍結乾燥していることから常温での保管が可能である。

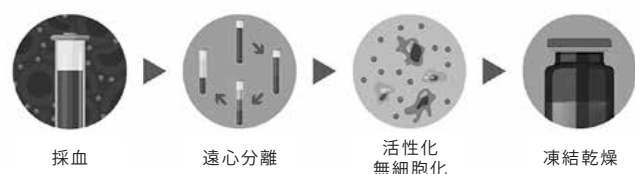


図2 セルソース株式会社が保有する血液加工の特許技術

この特許技術を獣医療領域に応用し、生成したのがcPGF™である。cPGF™は健常ドナーより血液を採取し、PARMに参画しているアニコム先進医療研究所株式会社で特許技術（特許第2019-178116号）を用いて加工し、搬送している。そのため、動物病院でcPGF™療法を実施する場合、患者からの採血は不要となる。また生成された血小板由来成長因子は規格に合致したのみを搬送しているため、一定の品質が担保されていると想定される。さらに動物病院においては、PARMに対して所定の申し込みを行った上でPARMから臨床研究の症例として認可されれば、届いたcPGF™を生理食塩水で溶解して投与することができるため、追加の設備投資を要せずにcPGF™療法が実施できる。なお、現時点でcPGF™療法の対象疾患としているのは「変形性関節症」「角膜潰瘍」「乾性角結膜炎」の3疾患である。

### cPGF™療法を実施した角膜潰瘍における実症例

角膜潰瘍のなかでも難治性と位置付けられているSCCEDs（Spontaneous Chronic Corneal Epithelial Defects）においては、角膜上皮の接着障害により、再発を繰り返すことが報告されている。

SCCEDsは上皮と実質をつなぐ役割をする物質が減少していたり、実質表面が変性することで発生するとされているが、詳しい原因はわかっていない。今回はSCCEDsにcPGF™療法を実施した症例をご紹介します。

#### 【患者背景】

ボストンテリア、避妊雌、12歳齢

SCCEDsの頻発症例で、前回の治療は右目で標準治療に則って上皮剥離と眼瞼縫合を実施し、28日前後で治癒したものの、約半年後に反対側の左目で発症した。ヒアレインおよび抗生物質を用いた

治療を5週間続けるものの、改善はみられなかった。今回の治療は外科的な処置は行いたくないとの飼い主の意向により、cPGF™療法の臨床研究に参加した。

#### 【結果】

治療開始7日後の診察では明確な臨床改善はみられなかったが、一部上皮が接着をしている様子が認められた。治療開始10日後、飼い主より羞明がなくなってきたとの報告があり、3週間後には完全に羞明がなくなり、フルオレセイン染色の結果も完全な陰性が確認された。その後、半年経過したが、再発は認められなかった。



図3 cPGF™療法実施前後におけるフルオレセイン染色の結果

### cPGF™療法への期待

今回、SCCEDsにおいて奏効が得られた症例を紹介させていただいたが、その他の角膜潰瘍の症例でも良化がみられたことが報告されている。いずれの症例も標準的な治療では効果が得られず、外科的処置を検討しなければならない状況であったが、cPGF™療法の実施により回避することができた。外科的な手術を実施する場合、効果と麻酔リスクを天秤にかけなければならない。とりわけ循環器疾患や腎臓疾患、肝臓疾患や呼吸器疾患などがある場合、麻酔リスクが高くなるため、外科的処置の適応判断は慎重に検討する必要がある。cPGF™療法は臨床研究の段階であるが、今後標準的な治療と手術の間に位置する「第3の選択肢」として活用できる可能性があり、難治性疾患に対して新しい治療法になることが期待される。

今後も、アニコムグループでは獣医療における再生医療の発展に貢献し、これまで「治らない」とされてきた病気に対して新たな選択肢を示すことを目指していきたいと考えている。

#### 参考文献：

- \*1 大鶴任彦（2020）．変形性膝関節症に対するBiologic healing専門クリニックの実際とエビデンス構築．関節外科．Vol 9. 33-42.
- \*2 大鶴任彦（2022）．変形性膝関節症に対するバイオセラピーにおけるSYNAPSE VINCENTを用いた関節軟骨評価．関節外科．Vol.41. 545-549.
- \*3 松田芳和（2021）．開業医視点からみるバイオセラピー治療の適応と可能性—血小板由来成分濃縮物（PFC-FD）と自己タンパク質溶液（APS）の治療成績—．JOSKAS. Vol 46. 589-596.









疾患（大分類単位）別請求割合

(犬・猫、品種別、年齢補正後：0～12歳)

Table with 15 columns: 犬の品種, 性別, 対象数(頭), 1.痛風, 2.呼吸器, 3.消化器, 4.肝・胆臓, 5.泌尿器, 6.生殖器, 7.神経系, 8.眼, 9.耳, 10.歯・口腔, 11.皮膚, 12.皮膚病, 13.血液, 14.内分泌, 15.全身性, 参考番号. Rows include Toy Poodle, Cavalier King Charles Spaniel, etc.

Table with 15 columns: 犬の品種, 性別, 対象数(頭), 1.痛風, 2.呼吸器, 3.消化器, 4.肝・胆臓, 5.泌尿器, 6.生殖器, 7.神経系, 8.眼, 9.耳, 10.歯・口腔, 11.皮膚, 12.皮膚病, 13.血液, 14.内分泌, 15.全身性, 参考番号. Rows include Cavalier King Charles Spaniel, Shetland Sheepdog, etc.



犬の品種	性別	対象数(頭)	1循環器疾患(%)	2呼吸器疾患(%)	3消化器疾患(%)	4肝臓疾患(%)	5泌尿器疾患(%)	6生殖器疾患(%)	7神経疾患(%)	8眼の疾患(%)	9耳の疾患(%)	10歯・口腔疾患(%)	11筋骨格疾患(%)	12皮膚疾患(%)	13血液・免疫疾患(%)	14内分泌疾患(%)	15全身性の疾患(%)	参考価値(%)
1 トイ・プードル	全体	157,292	3.4	5.1	29.1	6.8	4.8	1.6	3.3	10.6	17.7	7.4	11.6	22.4	1.0	3.0	12.1	5.9
2 チワワ	全体	108,139	10.0	6.7	22.1	6.0	5.1	1.8	4.6	8.8	9.8	3.6	10.0	16.2	0.7	1.6	11.1	3.5
3 混血犬(体重10kg未満)	全体	90,497	5.3	4.8	24.9	5.4	5.7	1.6	2.6	8.6	15.0	4.6	10.4	22.4	0.9	1.9	10.9	5.9
4 柴	全体	56,284	0.9	2.7	21.0	3.9	6.4	1.6	2.0	7.0	12.9	3.2	7.5	33.1	0.7	1.7	10.6	4.5
5 ミニチュア・ダックスフンド	全体	45,755	1.6	3.3	21.7	5.3	4.9	2.4	3.0	6.8	11.7	7.5	11.2	22.2	1.2	1.5	10.3	6.1
6 ボメラニア	全体	31,092	7.8	12.1	26.8	8.2	6.2	1.6	3.7	8.4	9.7	5.2	12.8	18.1	0.9	3.6	11.0	3.5
7 ミニチュア・シュナウザー	全体	22,399	4.9	3.1	27.8	9.7	11.6	2.5	2.7	9.1	16.0	7.6	6.9	30.1	1.9	3.1	12.5	10.8
8 ヨークシャー・テリア	全体	18,153	3.0	6.0	32.8	7.5	8.2	1.8	3.8	12.2	13.5	6.2	10.6	26.1	0.8	2.4	12.7	6.1
9 フレンチ・ブルドッグ	全体	13,864	1.5	6.4	31.0	6.0	11.6	2.3	7.1	19.1	27.2	3.6	12.7	51.3	2.5	2.1	17.5	12.4
10 マルチース	全体	13,106	10.3	6.8	26.2	13.7	6.7	1.7	2.9	14.0	23.5	5.7	10.5	27.7	1.8	3.1	12.6	6.0
11 シー・ズー	全体	12,675	5.5	4.4	28.8	7.4	9.1	1.8	1.5	28.9	27.7	2.6	5.2	42.3	1.4	2.9	13.0	8.9
12 パピヨン	全体	8,144	2.7	4.3	26.2	6.5	8.2	2.0	2.6	10.0	8.9	6.6	13.0	17.7	1.0	1.5	11.8	3.8
13 ゴールデン・レトリバー	全体	9,178	2.2	4.0	28.0	3.7	7.1	1.9	2.9	8.8	31.5	3.4	11.9	37.4	4.7	3.7	15.0	18.7
14 ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	全体	8,246	1.2	3.7	28.4	5.3	9.9	2.3	2.9	8.7	11.5	5.8	14.8	28.8	3.0	1.9	13.6	10.1
15 ジャック・ラッセル・テリア	全体	7,069	1.5	3.2	26.2	8.5	7.7	1.3	2.6	8.3	9.3	6.8	8.5	27.3	1.4	1.3	13.8	7.7
16 ラブドール・レトリバー	全体	6,950	1.6	4.4	24.4	4.3	8.0	1.9	3.2	6.2	25.2	3.3	13.1	32.4	1.8	2.1	13.7	13.7
17 バグ	全体	6,919	1.2	9.4	23.4	4.8	14.0	1.7	5.3	22.8	35.8	3.4	10.4	44.8	1.2	2.6	15.9	10.8
18 キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	全体	5,901	23.6	5.0	34.8	5.9	8.3	1.8	5.1	19.3	23.3	6.1	13.7	28.0	1.7	1.7	12.6	6.1
19 ミニチュア・ピンシャー	全体	5,278	2.1	4.7	26.1	7.5	3.9	1.8	3.1	10.6	9.3	5.7	10.0	30.9	0.9	2.5	11.6	5.1
20 ベキニース	全体	5,202	4.0	5.9	28.5	2.9	9.7	2.3	6.3	21.5	14.5	4.0	18.1	36.4	1.1	1.8	14.6	7.5
21 イタリアン・グレーハウンド	全体	4,597	2.3	3.7	30.4	6.4	4.9	1.8	7.8	9.6	9.5	10.3	8.9	20.7	2.1	2.3	13.9	8.2
22 ボーダー・コリー	全体	4,606	1.5	3.1	27.2	5.4	10.3	1.7	2.2	6.9	8.6	3.5	10.2	21.7	1.9	2.6	13.3	8.7
23 ベーグル	全体	4,449	2.8	4.1	24.2	5.7	6.3	2.8	4.9	9.1	22.2	4.4	12.6	29.7	1.6	4.2	13.0	11.4
24 ピジョン・フリーゼ	全体	4,292	3.3	5.4	29.6	8.0	10.7	1.8	1.9	15.5	14.9	8.6	10.2	34.7	1.8	2.8	13.4	9.2
25 セットランド・シェパード・ドッグ	全体	3,841	3.2	4.4	23.9	7.8	11.2	2.1	2.5	7.8	14.0	6.8	11.9	27.7	1.7	4.9	14.0	10.7
26 ポストン・テリア	全体	3,884	5.1	6.2	30.7	5.2	4.6	1.5	7.1	20.8	16.6	3.7	9.5	33.7	1.5	2.4	16.6	10.0
27 アメリカン・コッカー・スパニエル	全体	2,815	3.6	3.7	24.6	6.0	6.1	2.3	5.7	25.4	42.4	5.3	10.7	35.3	2.5	2.9	12.3	12.7
28 日本スピッツ	全体	1,749	3.2	5.8	25.8	4.6	7.5	1.8	3.1	9.8	7.3	7.4	8.6	18.9	2.6	3.0	12.4	8.8
29 バーニーズ・マウンテン・ドッグ	全体	1,766	1.1	5.9	29.5	7.5	12.7	2.2	3.0	6.4	22.6	4.5	18.7	30.3	5.3	1.9	19.6	21.6
30 秋田	全体	1,713	1.3	1.9	22.0	2.4	5.4	3.4	3.5	7.7	16.0	2.0	10.0	36.8	3.3	3.3	11.2	10.5
	犬全体(男の子)	372,685	5.0	5.3	25.7	6.0	5.1	1.2	3.6	10.1	16.0	5.4	11.0	25.0	1.1	2.4	11.9	6.0
	犬全体(女の子)	331,757	4.3	5.2	26.1	6.4	7.5	2.5	3.2	10.1	14.4	5.7	10.2	24.3	1.2	2.2	12.0	6.6
	犬全体	704,442	4.6	5.2	25.9	6.2	6.2	1.8	3.4	10.1	15.2	5.6	10.6	24.7	1.2	2.3	11.9	6.3

猫の品種	性別	対象数(頭)	1循環器疾患(%)	2呼吸器疾患(%)	3消化器疾患(%)	4肝臓疾患(%)	5泌尿器疾患(%)	6生殖器疾患(%)	7神経疾患(%)	8眼の疾患(%)	9耳の疾患(%)	10歯・口腔疾患(%)	11筋骨格疾患(%)	12皮膚疾患(%)	13血液・免疫疾患(%)	14内分泌疾患(%)	15全身性の疾患(%)	参考価値(%)
1 混血猫	全体	63,043	1.0	4.7	12.0	2.0	9.7	0.3	0.6	5.0	1.4	3.1	1.2	7.5	0.7	1.0	7.3	2.0
2 スコティッシュ・フォールド	全体	33,417	4.7	5.4	14.9	1.3	13.4	0.3	0.6	8.0	4.3	1.9	3.9	7.7	0.6	0.8	7.4	1.9
3 アメリカン・ショートヘア	全体	18,800	3.8	5.0	15.9	1.3	12.9	0.3	1.0	6.6	3.3	1.8	1.8	6.7	0.7	0.5	7.1	2.0
4 マンチカン	全体	18,861	2.8	4.8	15.6	1.6	15.2	0.3	0.6	6.6	3.1	1.7	2.3	7.7	0.7	0.8	6.4	1.7
5 ノルウェージャン・フォレスト・キャット	全体	11,838	3.2	4.8	18.9	1.9	15.9	0.3	1.4	4.2	2.4	1.6	2.0	8.2	1.1	2.6	8.7	2.7
6 ブリタニッシュ・ショートヘア	全体	10,190	3.4	6.5	13.6	1.6	13.7	0.1	0.6	7.4	5.3	2.4	1.6	9.6	0.8	0.5	8.2	2.1
7 ラグドール	全体	9,434	2.8	5.2	16.3	1.1	12.8	0.6	0.3	4.9	2.2	1.7	1.4	8.2	0.4	0.6	7.4	1.6
8 ロシアンブルー	全体	6,251	1.3	6.8	12.4	2.2	12.1	0.1	0.5	5.3	2.1	1.3	1.6	8.4	0.7	1.6	7.0	1.8
9 メイン・クーン	全体	5,871	4.6	4.9	15.7	1.2	10.1	0.4	0.7	4.7	2.8	2.1	2.9	9.1	1.1	2.2	8.0	3.0
10 ミヌエット	全体	6,058	1.6	4.2	12.2	0.4	9.9	0.2	0.3	5.9	1.1	0.7	0.7	4.0	0.1	0.0	3.4	1.1
	猫全体	231,817	2.4	5.2	14.7	1.7	12.0	0.3	0.7	6.1	2.8	2.4	2.0	8.0	0.7	1.0	7.5	2.0

# 傷病名一覧表

「傷病名一覧表」は、アニコム損保での保険金支払い手続きや疾患統計などを目的として作成したものである。

章	解剖学的分類	傷病名コード	傷病名
8	眼および付属器の疾患	2145	網膜はく離症候群（硝子体変性を含む）
		2146	チャリーアイ・第三眼輪筋出・眼瞼脱出/眼瞼炎
		2147	眼瞼外反症
		2148	眼瞼内反症
		2149	眼瞼炎
		2150	麦粒腫/霰粒腫/マイボーム腺腫
		2151	睫毛の疾患（睫毛虫生/睫毛重生/異所性の睫毛含む）
		2152	流涙症（涙やけ/涙管閉塞含む）
		2153	目やに（原因未定）
		2154	目の痒み（原因未定）
2155	眼および付属器の腫瘍		
2156	上記に該当しない眼科疾患		
9	耳の疾患	2157	細菌性外耳炎
		2158	マラセチア性外耳炎
		2159	耳疥癬・ミミヒゼンダニ症
		2160	アレルギー性外耳炎
		2161	原因未定の外耳炎
		2162	耳血腫
		2163	耳介の疾患
		2164	中耳炎
		2165	内耳炎
		2166	前庭疾患
2167	耳の痒み（原因未定）		
2168	耳の腫瘍/腫瘍		
2169	上記に該当しない耳の疾患		
10	歯および口腔の疾患	2170	歯周病/歯肉炎（歯周病に起因するものを含む）
		2171	歯根膿瘍/根尖膿瘍
		2172	乳歯過剰【補償対象外】
		2173	不正咬合
		2174	うさぎの不正咬合/歯過長症【補償対象外】
		2175	口腔内外傷（歯折など含む）
		2176	上記に該当しない歯科疾患
		2177	唾液腺疾患（唾液腺炎/粘液囊腫/がさ腫含む）
		2178	口腔内炎/舌炎
		2179	口腔内の腫瘍
2180	上記に該当しない口腔内疾患		
11	筋骨格系疾患	2181	椎間板ヘルニア
		2182	椎間板椎炎
		2183	変形性脊椎症
		2184	環軸関節不安定症（環軸脱臼/環軸亜脱臼含む）
		2185	膝蓋骨（亜）脱臼
		2186	十字靭帯損傷・断裂（前/後）
		2187	関節炎
		2188	変形性関節症・退行性関節症
		2189	股関節形成不全/（亜）脱臼
		2190	外傷性股関節（亜）脱臼
2191	大腿骨頭虚血性壊死・レッグヘルテラス病		
2192	骨軟骨症（肘突起癒合不全/離断性骨軟骨症含む）		

章	解剖学的分類	傷病名コード	傷病名		
5	泌尿器疾患	2097	尿の性状異常（原因未定）		
		2098	泌尿器系の腫瘍		
		2099	上記に該当しない泌尿器疾患		
		6	生殖器疾患	2100	卵巣の疾患
				2101	子宮蓄膿症
				2102	子宮内膜炎
				2103	子宮水腫
				2104	膣炎
				2105	外陰部分泌物・おりもの
				2106	乳房炎/乳房炎
2107	乳房過形成・乳房肥大（偽妊娠含む）				
2108	卵巣・卵つまり				
2109	交配・妊娠に起因する異常【補償対象外】				
2110	上記に該当しない雌性生殖器疾患				
2111	亀頭炎/包皮炎				
2112	前立腺肥大				
2113	前立腺炎/前立腺腫瘍				
2114	潜在精巣【補償対象外】				
2115	上記に該当しない雄性生殖器疾患				
2116	乳房腫瘍/乳房腫瘍				
2117	上記に該当しない雄性生殖器の腫瘍				
2118	上記に該当しない雄性生殖器の腫瘍				
7	神経疾患	2119	てんかん		
		2120	髄膜炎/髄膜炎/脳炎		
		2121	水頭症/脳水腫		
		2122	外傷性脳疾患		
		2123	脊髄疾患（椎間板ヘルニア除く）		
		2124	馬尾症候群		
		2125	ホルネル症候群		
		2126	痙攣発作（原因未定）		
		2127	ふるえ・振戦（原因未定）		
		2128	麻痺（原因未定）		
2129	斜頸（原因未定）				
2130	失神および虚脱（原因未定）				
2131	脳腫瘍				
2132	上記に該当しない神経系の腫瘍				
2133	上記に該当しない神経系疾患				
2134	結膜炎（結膜浮腫含む）				
2135	乾性角結膜炎・KCS・ドライアイ				
2136	外傷性角膜炎（異物含む）				
2137	潰瘍性角膜炎（角膜びらん含む）				
2138	上記に該当しない角膜炎（パンヌス含む）				
2139	角膜シストロフィー				
2140	ブドウ膜炎（虹彩炎/前房出血含む）				
2141	白内障				
2142	緑内障				
2143	水晶体（亜）脱臼				
2144	網膜変性/網膜萎縮/PRA				

章	解剖学的分類	傷病名コード	傷病名
3	消化器疾患	2049	犬パルボウイルス・CPV
		2050	犬コロナウイルス・CCV
		2051	ジアルジア症
		2052	コクシジウム症
		2053	回虫症
		2054	糸虫症
		2055	糞線虫症
		2056	上記に該当しない消化器系の感染症/寄生虫症
		2057	食物反応性腸症
		2058	炎症性腸疾患・IBD
2059	タンパク質喪失性腸症		
2060	腸閉塞		
2061	肛門腫（膿）炎/肛門膿（膿）破裂		
2062	肛門周囲炎/肛門周囲膿		
2063	便秘（巨大結腸症含む）		
2064	会陰ヘルニア		
2065	脾ヘルニア【補償対象外】		
2066	鼠径ヘルニア【補償対象外】		
2067	毛球症		
2068	そ嚢炎		
2069	消化管型リンパ腫		
2070	上記に該当しない消化器系の腫瘍		
2071	嘔吐/下痢/血便（原因未定）		
2072	腹痛/疝痛（原因未定）		
2073	上記に該当しない消化器疾患		
4	肝・胆道系および胆管の疾患	2074	肝炎
		2075	肝リポドシシス/脂肪肝
		2076	肝硬変/肝繊維症
		2077	門脈シャント・門脈体循環シャント・PSS
		2078	胆管炎/胆管炎
		2079	胆石症
		2080	胆泥症
		2081	肝酵素上昇（原因未定）
		2082	肺炎
		2083	膀胱分泌不全
2084	肝/胆道/脾の腫瘍		
2085	上記に該当しない肝/胆道系疾患		
2086	上記に該当しない脾臓の疾患		
5	泌尿器疾患	2087	慢性腎臓病（腎不全含む）
		2088	腎結石
		2089	腎孟腎炎
		2090	急性腎不全
		2091	膀胱炎
		2092	膀胱結石
		2093	尿道閉塞
		2094	尿石症
		2095	猫の下部尿路疾患・FUS・FLUTD
		2096	神経性の排尿異常

章	解剖学的分類	傷病名コード	傷病名
1	循環器疾患	2001	弁膜症（疑い含む、心雑音十、心不全徴候一）
		2002	弁膜症（心不全徴候十）
		2003	病態不明の心肥大/心拡大
		2004	心筋症
		2005	不整脈
		2006	先天性心疾患（疑い）
		2007	動脈閉塞症、PDA
		2008	心房中隔欠損症・ASD
		2009	心室中隔欠損症・VSD
		2010	右大動脈弓遷延症・PRAA
2011	大動脈狭窄症・AS		
2012	肺動脈狭窄症・PS		
2013	上記に該当しない先天性心疾患（確定診断済み）		
2014	犬糸状虫症・フィラリア症		
2015	循環器系の腫瘍		
2016	上記に該当しない循環器疾患		
2017	鼻炎/副鼻腔炎/上部気道炎		
2018	咽喉炎/喉頭炎		
2019	軟口蓋過長症		
2020	気管炎/気管支炎		
2021	気管虚脱		
2022	肺炎		
2023	逆くしゃみ症候群・RSS		
2024	横隔膜ヘルニア		
2025	ケンネルコフ症候群・犬伝染性呼吸器症候群		
2026	犬パラインフルエンザ・CPV		
2027	猫伝染性鼻気管炎・FVR		
2028	猫カリシウイルス・FCV		
2029	上記に該当しない呼吸器感染症		
2030	喘息		
2031	肺水腫（原因未定）		
2032	胸水（血胸/膿胸/乳び胸含む、原因未定）		
2033	発咳（原因未定）		
2034	くしゃみ/鼻汁（原因未定）		
2035	鼻出血（原因未定）		
2036	鼻腔内腫瘍		
2037	肺の腫瘍		
2038	上記に該当しない胸腔内の腫瘍		
2039	上記に該当しない呼吸器疾患		
3	消化器疾患	2040	食道炎
		2041	食道狭窄/食道閉塞
		2042	巨大食道症/食道拡張症
		2043	胃炎/胃腸炎/腸炎
		2044	胃/十二指腸潰瘍
		2045	胃拡張胃捻転症候群
		2046	消化管内異物/誤飲
		2047	消化管機能低下（消化管うっ滞含む）
		2048	細菌性腸炎





# あとがきに代えて

## Afterword

2024年1月1日の16時10分、元日というハレの日特有の空気に包まれた日本を、能登半島地震が襲った。最大震度は7を観測し、能登地域の特徴である古くからの瓦屋根の建物の倒壊や、土砂崩れによる被害が各地で発生した。観光名所の「朝市通り」で生じた火災によっておよそ50,000㎡が消失した様子等、被害状況の報道を見た人すべてが心を痛めたことと思う。日常は、一瞬にして非日常に変わってしまった。

日常を奪われたのは、どうぶつも同じであった。地震災害時の常ではあるが、今回の地震においても迷子どうぶつが多数発生した。アニコムグループでも微力ながら迷子捜索支援を実施し、3月末までに累計102頭（犬11頭、猫90頭、鳥1羽）の捜索依頼をいただいた。迷子情報をHPやSNSで発信すると、有難いことに「〇〇ちゃんに似た子を〇〇地区で見たい」「テレビのニュースに映っていた猫は〇〇ちゃんではないか」といった情報提供を、日々本当に多くの方々からお寄せいただいた。どうぶつを愛する皆さまの優しさに、涙が出る思いだった。なお捜索依頼をいただいたうちの32頭は無事に飼い主の方と再会できたとの報告をいただいたが、残りの70頭については残念ながらわかっていない。どうか無事であってほしいと願うばかりなのが心苦しい。

もう1つの支援として、1月10日から約2ヶ月にわたり募らせていただいた救援募金では約2,500万円の寄付金が集まり、全額を公益社団法人石川県獣医師会に寄付させていただいた。ご協力いただいた方々に、改めてこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。

私たち人もどうぶつも、生命は等しくいつの日かこの世を去る。天災や事故によってある日突然命を失うこともあれば、病気によって徐々に衰弱し力尽きることもある。こうした災害にも病気にも共通するのは、どちらも“原因”が存在することであろう。例えば、海の中のプレートがじりじりと深く潜っていき、いつか耐え切れなくなるように。病気も同じく何かしらの原因が少しずつ体を蝕み、やがて耐え切れなくなり、発症する。

ただし災害と病気とで大きく異なるのは、この“原

因”が人の手でコントロールできる可能性の大小ではないかと考える。自然環境を人がコントロールしようというのはおこがましい話であるが、病気の原因ともなればその可能性は多分にあるだろう。どうぶつの場合にはなおのことである。病気の原因には、「先天的要因」と「後天的要因」がある。人が繁殖を管理しているどうぶつの場合、病因となる遺伝子の解明や近縁度の管理を通じて、先天的要因は理論上制御できるはずである。後天的要因は生活習慣（食事や運動）、環境、感染症対策等があげられるが、人の飼育下にあるどうぶつはこれらをすべて人が用意している、つまりコントロールできるはずである。

アニコムグループでは、2000年の創業当初からどうぶつの『予防』を目指してきた。予防においては、病気の真の原因探求が必要不可欠である。保険金データの分析や、本書でご紹介したような腸内細菌叢と健康に寄与する免疫との関係性の調査等を通じ、少しずつではあるがこの真の病因が見えてきている。こうした取り組み等をご評価いただき、僥越ながらアニコム損保が『入って健康になる保険』として2024年度グッドデザイン賞をいただくことができた。身の引き締まる思いであるし、『入って健康になる保険』の深度をより一層深めていくことが命題だと感じている。

私事だが、私が一緒に暮らしている犬は来月で9歳になる。先日迎えたばかりと思ったが、いつの間にか人に換算するととうに私の年齢を超されてしまった。幸い大病はしていないが、徐々に白髪が増えてきた。16歳と半年を過ぎた実家の犬は、白内障があり肝臓・腎臓の数値が悪く、歩行も覚束ない。それでも自分でトイレまで歩き（失敗はする）、若い頃と変わらず抱っこはしっかり嫌がるのが、もはや嬉しくすら感じる。

いずれ彼らと別れねばならぬ日はやってくる。これはどうぶつと暮らす以上、誰しもが覚悟しておかねばならない。それでもそのいつかの日を1日でも延ばし、さいごの日まで彼らの苦しみを減らし、そして幸せでいてもらえるようにすることが、どうぶつを愛する我々の使命であろう。本書をご覧いただいている皆さまのお力添えをいただきながら、アニコムグループ一丸となって予防に邁進していく所存である。

## [表紙モデル紹介]

ばんちゃん シー・ズー  
女の子/6歳(2018/8/22生まれ)

繁殖犬を引退して、シー・ズーが大好きなご家族にお迎えしてもらったばんちゃん。穏やかでやさしい眼差しの向こうには、大好きなパパとママの姿がありました。



(左)ジュエルちゃん、(右)シルクちゃん シンガプーラ  
女の子/7歳(2017/8/30生まれ)、男の子/3歳(2021/4/25生まれ)

血は繋がってなくても、本当の姉弟のように仲良し。互いの姿が見えないと探したり、顔を寄せ合ったりと、仲睦まじい様子で皆をあたたかい気持ちにしてくれました。



## [リモートモデル紹介]

あられちゃん(モモンガ) / アリスちゃん(リス) / アンディちゃん(犬) / いくらちゃん(モルモット) / いずなちゃん(猫) / 侑永ちゃん(フェレット) / 海ちゃん(鳥) / おもちちゃん(トカゲ) / かがりちゃん(猫) / きなこちゃん(鳥) / くまちゃん(犬) / くりじろうちゃん(モルモット) / くりちゃん(犬) / くるとんちゃん(ハムスター) / くるみちゃん(犬) / 紅垂ちゃん(犬) / こじろーちゃん(リス) / こたろうちゃん(チンチラ) / こまるちゃん(猫) / サクラちゃん(犬) / さとよしちゃん(カメ) / 将子ちゃん(ヘビ) / ジョーちゃん(犬) / ショコラちゃん(犬) / すまいるちゃん(ネズミ) / せとかちゃん(猫) / 蒼良ちゃん(フェレット) / たまごぶろうちゃん(モモンガ) / たんぼぼちゃん(うさぎ) / ちとちゃん(ネズミ) / ちまきちゃん(ネズミ) / 紡麦ちゃん(犬) / てんちゃん(鳥) / 愛袖ちゃん(モモンガ) / バクちゃん(うさぎ) / ばすちゃん(猫) / パッセちゃん(犬) / バルちゃん(モルモット) / ばんちゃん(うさぎ) / プナちゃん(鳥) / ポノちゃん(鳥) / ポボちゃん(カメ) / ぼぼちゃん(ハムスター) / ポムちゃん(犬) / ぼろちゃん(チンチラ) / マーチちゃん(ハリネズミ) / ましろちゃん(ハムスター) / 眞多良ちゃん(ヘビ) / みかんちゃん(ヘビ) / みたらしちゃん(フェレット) / もなかちゃん(犬) / もなかちゃん(鳥) / 紅葉ちゃん(トカゲ) / ももちゃん(ハリネズミ) / らいちゃん(フェレット) / ラテちゃん(犬) / ルイちゃん(犬) / るるちゃん(うさぎ) / レオちゃん(トカゲ) / 漣ちゃん(猫) / ロイちゃん(犬) / わかめちゃん(カメ) / わたげちゃん(チンチラ) / Bettyちゃん(リス) / kumaちゃん(犬) / MAXちゃん(犬) / monaちゃん(犬) / senaちゃん(犬)

## アニコム家庭どうぶつ白書WEBサイト

[www.anicom-page.com/hakusho](http://www.anicom-page.com/hakusho)

- ・ ペット保険の保険金支払情報に基づいた疫学データ
- ・ 日本全国の家庭どうぶつを網羅した対象頭数約124万頭(2024年9月時点)にのぼる巨大なデータベース
- ・ その他、ペットに関する調査リリースを掲載
- ・ 過去の白書もダウンロード可



## お問い合わせ

### アニコム ホールディングス株式会社

経営企画部 アニコム「家庭どうぶつ白書」制作チーム

TEL: 03-5348-3911 E-mail: hakusho@ani-com.com

より皆さまのお役にたてるよう尽力してまいります。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

アニコム

## 家庭どうぶつ白書2024

2024年12月19日 発行

発行 / アニコム ホールディングス株式会社

〒160-0023

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39F

TEL: 03-5348-3911 (平日午前9時～午後6時)

編集 / 株式会社アニマル・メディア社

印刷所 / 株式会社杜陵印刷

表紙写真 / 社内真理 (anicom)

©アニコム ホールディングス株式会社 2024 Printed in Japan  
本書の無断複製・転載を禁じます。

## アニコム「家庭どうぶつ白書2024」制作チーム

鶴田美由紀 Miyuki Tsuruta

塩澤みき Miki Shiozawa

井関智英子 Chieko Iseki

大内麻美 Mami Ouchi

木田朱音 Akane Kida

堀江亮 Ryo Horie

藪内基久 Motohisa Yabuuchi

安宅快 Kai Ataka

犬飼瑞紀 Mizuki Inukai

兵藤未來 Miki Hyodo

アニコム  
家庭どうぶつ白書2024  
WHITE PAPER ON HOUSEHOLD ANIMALS 2024

BG013-2412-11

